

作物	作付反別	生産額	生産費	野蔬	草菜	作付反別	生産額	生産費
牧草 乾草	七二〇〇〇	四八六〇〇	九三・一六九	計				
牧草 青草	一〇〇〇〇〇	二二〇〇〇	六〇〇〇〇				四九二二六	七二六三〇
牧草 エンシレージ	四〇〇〇〇〇	三八六六〇	二七八八七〇					五四二五九〇
燕 菁	二〇〇〇〇	一三六四〇	一四六五五〇					二二七五八〇九

生産費ニハ施肥收穫整理費、造成費償却費、償却資本一切ヲ含有ス

家畜生産

畜種	頭数	種別	生産額		生産費	
			額	単價	額	単價
牛	三	エアシャヤ種	七	二七	一九	二九
		エアシャヤ雜種	七	二七	一九	二九
馬	三	トロッター種	一〇	六	一〇	一
		トロッター雜種	一〇	六	一〇	一
計	計	計	計	計	計	
			二二四〇〇〇		二二四〇〇〇	

家畜販賣

畜種	頭数	種別	生産額	販賣方法
牛	三	エアシャヤ種	八七〇・二八九	生産價額ト市價トヲ参照ス
馬	三	トロッター種	二四九・八八五	同上

乳製品

品名	生産額	単價	總價	販賣方法
牛酪	四五〇〇	六五〇	三二二五〇〇	販賣路ハ東京、横濱ヲ主トシ小賣ハ函館多ク釧路、根室之ニ次ク

牛ノ生産費

種目	金額	種目	金額
飼料費	二二八七〇	サイロ償却金	二二九〇
管理費	八五〇六七九	同利子	七二七〇
牧場夫給	一〇四六五五五	器具器械償却金	四九八二
土地資本利子	四二・〇〇〇	同利子	一三三六〇
用畜資本償却金	一〇九四〇〇〇	諸修繕費	九三八一五
同利子	一五六一・〇〇〇	組合費	二九四六〇
牛舎及附屬建物償却金	四七四七〇	流通資本利子	三六〇〇〇
同利子	一三六七〇七三	計	九六四八六〇四

収入ノ部

種目	金額	種目	金額
牛乳代	二二五〇・一六〇	計	二二五〇・一六〇

差引 七、五九八・四四四

蕃殖牛六十頭ニ對スル八分相當
生産牛五十頭ノ生産費 一五・九六八

馬ノ生産費
支出ノ部

種目	金額	種目	金額
飼料費	一〇・五〇四	同利子	一一・一〇七
管理費	四〇・五三九	器具償却金	三・七二〇
牧夫給	三七・六四五	同利子	三・六〇〇
土地資本利子	二七・〇〇〇	諸修繕費	六・三四〇
用畜資本償却金	六四・八〇〇	裝歸費	九・〇〇〇
同利子	一三五・八五〇	流通資本利子	一一〇・〇〇〇
厩舍及附屬建物償却金	一一〇・九〇〇	計	四四三・六七五

收入ノ部

種目	金額	種目	金額
種付料	二八・〇〇〇		

差引 四・四〇六・六七五

蕃殖化馬二十八頭ノ七分相當
生産馬二十頭ニ對スル生産費 一二四・三三九
牛酪ノ生産費

支出ノ部

種目	金額	種目	金額
牛乳代	一一〇四・五〇〇	同利子	九〇・〇〇〇
管理費	二〇・二六九	諸修繕費	一七・〇〇〇
酪夫給料	一九六・四〇〇	製造販賣諸費	二九・三三九
建物償却金	九・二七〇	流通資本利子	一一〇・〇〇〇
同利子	四四・八四四	計	三〇五九・九四四
製酪機械器具償却金	三六・九〇八		

收入ノ部

種目	金額	種目	金額
豚賣拂代	一一〇・〇〇〇		

差引 二・九三五・九四四

生産牛酪四千五百斤ニ對スル生産費 四・六五二四

十三、牧場經營ノ收支計算

畜牛部收支計算

收入

民有牧場

項目	金額	摘要
牛賣却代	二四九、三八五	牛一、牝牛十三、閹牛三十一頭賣却代
牛乳代	二、〇五〇、二六〇	
項目金額	二、五〇〇、〇〇〇	牛增價額
		計
	三、三三三、〇〇〇	本年度增加價額
	七、六五五、九八五	

支出

項目	金額	摘要
管理費配當	八〇五、〇七九	管理費四〇%
牧夫給	一〇、四六五、五五五	
飼料代	二、七七八、七〇〇	修繕費 償却年賦金 畜牛同上
組合費	二、九四九、〇〇〇	
項目金額	五、九五九、八三九	計
		建物、備品、圍柵修繕費
		同上 償却年賦金
		畜牛同上

差引利益金千七百〇六圓拾四錢六厘

牧馬部收支計算

收入

項目	金額	摘要
馬賣却代及損料	八七〇、二八九	馬十三頭賣却代及使役馬損料
種付料	二、八〇〇、〇〇〇	
項目金額	三、六七〇、〇〇〇	馬增價額
		計
	二、九六〇、〇〇〇	
	二、八五八、一八九	

支出

項目	金額	摘要
管理費配當	四〇二、五三九	管理費ノ二〇%
牧夫給	三、七八六、四四五	
飼料代	一、〇二五、四〇四	濠洲馬拂下代 修繕費 償却年賦金 馬匹同上
種牡馬損料	一、五六六、七〇〇	
裝蹄費	九〇三、〇〇〇	計
項目金額	六、〇四〇、〇〇〇	建物、備品、圍柵
		同上ノ償却資金
		馬匹同上
	二、九〇三、四七三	

差引損失金四拾五圓貳拾八錢四厘

製酪部收支計算

收入

項目	金額	摘要
牛酪代	一、八〇〇、二四五	豚
同上次年へ越	一、〇七三、一〇〇	
項目金額	二、八七三、三五五	計
	二、九三三、三四五	

支出

項目	金額	摘要
管理費配當	一、〇二二、六六九	管理費ノ一〇%
酪夫給	一、九六四、〇〇〇	
牛乳代	二、〇四七、五〇〇	助手一名約三分ノ一ハ牛舎勤務ナレトモ假ニ全額ヲ計算ス
製造販賣費	二、九三三、二九九	
項目金額	五、九六七、三六八	食鹽容器消耗品代運賃口錢等
		修繕費
		償却年賦金
	二、八〇一、七九八	計
		建物備品修繕費
		同上 償却金

差引利益百九拾壹圓五拾四錢七厘
耕種部收支計算
收入

項目	金額	摘要	項目	金額	摘要
乾牧草	九七、六六九	四万八千六百	燕菜	二四、六五〇	一万三千六百四十
青刈牧草	六〇、〇〇〇	一万二千	計	七、六三〇	見積
サイレージ	三、七八八〇	三万八千六百六十		一七、三三二九	

項目	金額	摘要	項目	金額	摘要
管理費配當	二〇、二六九	管理費一〇%	サイレージ	三、七八八〇	三万八千六百六十對ニスル
牧草畑施肥	八〇、四八〇	本年	調製費	八、六〇〇	本年
肥草收穫費	四、五三、四八〇	七十一町ニ對スル	建物備品修繕費	三、八七四〇	同
青刈牧草同上	六〇、〇〇〇	十町歩ニ對スル	同上償却年賦金	一、九三、六〇〇	同
燕菜耕作費	二、四六、五五〇	二町歩ニ對スル	却年賦金	一、七三、三二九	同
蔬菜同上	七、一六三〇	八反歩ニ對スル	計		

差引損益ナシ

林業部收支計算

收入

項目	金額	摘要	項目	金額	摘要
木材賣却代	二、八〇、一九三〇		計	二、八〇、一九三〇	

支出

項目	金額	摘要	項目	金額	摘要
管理費配當	四〇、三五九	管理費二〇%	償却年賦金	六、五五二〇	同上償却資金
林地保護費	一、八〇〇〇		計	四、九、九〇四九	
修繕費	三、三〇〇〇	圍柵修繕費			

差引利益二千三百〇二圓八十八錢一厘

各部ノ收支計算

項目	金額	摘要	項目	金額	摘要
牧牛	七、六六、九九五		收入	七、六六、九九五	
牧馬	二、八五、八一八		支出	五、九五、九八三	
製酪	二、九三、三四五		差引	一、七〇、六一六	
耕種	一、七三、三二九			四、五、二八四	
林業	一、八〇、一九三〇			一、九、一、五四七	
計	一、八〇、一九三〇			二、三〇、一八二	
	一、八〇、一九三〇			四、一、五、七一九	

十四、資産及負債表

民有牧場

出資總額		資	負	備		資	負
土地	牧牛	牧馬	製酪	森林	垣柵	建物	無生
評價額	評價額	評價額	持價額	評價額	評價額	評價額	固定資本
六八八・五二二	二二七・八〇〇	九三四・〇〇〇	一五四・〇〇〇	一〇四・四三五	二〇一・六七〇	六六五・三四九	一、四六〇・六〇〇
五八四・六〇三							八、二九三・六六九
備品	道路	現物	現金	假定期及諸口	諸口		
一四六・六〇〇	一、八八・二三五	一、七〇一・五六〇	三〇五・一〇〇				
		二五三・二四九	六六六・四七九				
		四〇〇九・七七六	六二四・六八九				

差引益 四、一五五・二九〇

十五、四十四年末資本別表

土地	一、九、五七二・五六一
建物	八、八四九・四一六
有生固定資本	三二、〇七二・〇〇〇
無生固定資本	一、四六〇・六〇〇
流動資本	八、二九三・六六九
計	七〇、二四八・二四六

同牧場經營一般ヲ見ルニ同場ハ起業ニ當リ管理者其人ヲ得タルト共ニ起業主モ畜産ニ多大ノ趣味ヲ有シ且ツ畜牛改良蕃殖ヲナスト共ニ製酪ヲナシ經濟的ニ經營セルハ本道牧場中稀ニ見ル所ナリ同場産馬ハ元場主經營ノ漁場ノ使役馬匹ノ飼養蕃

殖ヲ目的トナシタルモノニシテ經濟的ナラザリシナリ

同牧場ノ總地積ハ三百八十八万六千四百八十六坪即チ千二百六十八町八反二畝二十六步ニシテ此中穀菜畑牧草地ニ供用スルモノ百二十六町步ニシテ八、二%ニ當リ放牧地ハ三百六十三町ニシテ二八、六三%ニ當リ草刈地三十九町一反四畝二十五步ニシテ三、〇八%ニ當リ風防薪炭林地ハ七百十町九反七畝五步ニシテ五、六、〇〇%其他二十九町七反二十六步即チ一、三六%ナリ

以上ノ如ク同場ノ耕地ハ全地積ノ一割ニ過キスト雖モ土地ノ實況ハ尙三四倍ノ耕地ヲ作成シ得ルコト明ニシテ利用程度低キモノト認メサルヘカラス是レ畢竟耕作器又ハ刈草器ノ不備ナルニ起因スルモノニシテ同場經營上先ツ改良施設ヲ要スル所ナリ然レトモ土地利用上薪炭用材林地ヲ五割五分トナシ之レヲ二十ヶ年輪伐法ニヨリ牧場經營ノ財源トナセシバ注目スヘキ點ナリ

土地ト家畜ノ比例ヲ見ルニ千二百六十八町八反二畝二十六步ニ對シ二百二十頭ノ牛馬頭數ヲ有スルヲ以テ五町七反六畝ニ對シ一頭ノ牛馬ヲ飼養スル有様ナルモ薪炭用材林地ヲ除キ牛馬生産上ニ使用セラル、地積五百五十七町八反五畝二十一歩ニ對シセハ二町五反六畝ニシテ牛馬一頭ヲ飼養スル有様ナリ更ニ牛馬一頭ニ對スル耕地ヲ調査スルニ五反七畝步ニ當リ放牧地ハ牛馬一頭ニ對シ二町七反五畝ニ當リ草刈地ハ牛馬一頭ニ付一反九畝ニ當リ牧場敷地ハ一反二畝餘ニ當ルヲ見ルヘシ是レ由リ之レヲ觀レハ同場ノ如キハ土地利用上根室方面ノミナラス本道牧場中地積ニ對シ比較的多數ノ牛馬ヲ飼養スルモノニシテ夏期間ノ放牧中牛馬一頭ニ對シ三町步ノ地積ヲ要セサルハ傾斜地少クシテ利用面積ノ廣大ナルノミナラス又比較的牛馬ノ飼料ニ適スル野草ニ富ムモノト認メサルヘカラス然レトモ實際放牧ヲナス壯畜ニアリテハ一頭ニ付五町步ヲ要スルモノノ如シ若シ耕地ヲ擴張シ一方放牧地ヲ短縮スルノ法方ニ出ツルトキハ乳牛能力ノ改良上多大ノ効果ヲ收ムルハ當然ナリト云フベシ

同場經營上着過スヘカラサルハ夏期濃霧多キ地方ノ氣候狀態ニ鑑ミサイローヲ建築シテ飼料ノ品質ヲ維持スルニ力メ一方冬期嚴寒ノ地ナルモ乳量ノ減退ヲ防クヲ得ヘク製酪上多大ノ利便ヲ得タル所ナリ同場經營上起業資本トシテ投入シタルモ

ノ五万八千四百八十圓四十一錢三厘ニシテ一町歩ニ對シ二十六圓十錢ニ當レリ今資本別ニ投入資金及其一町歩ニ對スル割合ヲ上クレハ左ノ如シ

土地資本	一九、五七二・五六一	一五、四三三
用畜資本	三二、〇七二・〇〇〇	二五・二九
建物資本	八、八四七・四一六	六・九八
器具機械資本	一、四六〇・一二〇	一・一五
流通資本	八、二九三・六六九	六・五四

右ノ如ク投入資本比較的ニ多ク今以上固定資本ニ屬スル投資ヲ見ルニ六万一千九百十二圓九十七錢ニシテ一町歩ニ付四十八圓八十五錢ノ投資トナリ用畜資本一町歩ニ付二十五圓二十九錢ノ投資ニシテ土地資本ニ於テモ一町歩十五圓四十三錢ナルハ相當ノ投資ト認メサルヘカラス然レトモ器具機械資本ニ於テハ一町歩ニ付僅ニ一圓十五錢ノ投資ナルハ全ク耕地少ナク放牧方法ニヨリ牛馬ノ飼養蕃殖ヲナスノ結果ナラサルヘカラス此點ニ關シテハ場主モ亦切實ニ感シツ、アリト雖モ未タ此運ニ至ラサル所ナリ流通資本ニアリテモ稍少ナキヲ認ムルハ家畜飼養蕃殖上未タ集約的ナ、サルノ致ス所ト認メサルヘカラス

更ニ同場ノ收支ヲ見ルニ總收入ハ一萬八千五百二十二圓六十六錢八厘ニシテ一町歩ニ付十四圓五十九錢ニ當リ其支出ハ一萬三千八百九十七圓三十七錢八厘ニシテ一町歩ニ付十圓九十六錢ニ當リ一町歩ニ對スル收益三圓六十三錢ニ當レリ尙細覽スレハ牧牛部ニ於テハ畜牛及生乳ノ販賣ヲナスヨリ耕種部ヨリ生産價額ニテ飼料ノ供給ヲ受ク之レニ穀類ヲ購入シテ一ケ年千七百六圓十四錢六厘ノ收利ヲ上ケ最モ有利ナルヲ示シ牧馬部ハ生産馬ノ販賣及ヒ漁場ニ於ケル使役馬ノ收入ヲ計上シツ、アルモ尙ホ一ケ年四十五圓二十八錢四厘ノ不足ヲ生セリ、製酪部ハ牧牛部ヨリ生乳ヲ買受ケ之レニ加工シテ一ケ年百九十一圓五十四錢七厘ノ收益ヲ收メツ、アリ若シ之レヲ百九十一圓餘ノ收益ノ爲メニ製酪部ノ必要アルヤヲ疑フヘキ感ナキニ非ラスト雖モ製酪部ノ存スルニヨリテ牧牛部ノ生乳ノ價値ヲ保持スルモノナルヲ以テ其効果ノ大ナルヤ多言ヲ要セサルヘ

シ林業部ニ至リテハ牧牛部ニ勝リテ其收益多ク一ケ年二千三百二十二圓八十八錢一厘ニ達セシハ同場經營上多大ノ利便ナリト雖モ二十年輪伐法ニヨリ二千三百二圓餘ノ收入ヲ豫期シ得ヘキハ疑問ト言ハサズヘカラス

今同牧場賣却牛一頭平均價格ヲ見ルニ八十圓六十一錢ニ當リ馬一頭ノ平均價格ハ六十六圓九十三錢ニ當リ牛酪一斤ノ平均價額ハ六十五錢四厘ニ當リ木材ハ青木百石二十五圓雜木ハ百石十五圓青木丸太百石十圓等ナリ

茲ニ於テ第十二項掲載ノ生産當時ノ牛馬ノ生産費ヲ對照スルニ牛一頭ハ百五十一圓九十七錢二厘馬一頭ハ二百二十四圓三十三錢四厘ニシテ牛一頭ノ賣却平均價格ニ比スレハ七十一圓三十六錢二厘ノ不足ヲ示シ馬一頭ノ賣却平均價格ニ比スレハ百五十七圓四十錢四厘ノ損失トナレリ今同場將來ノ方針ヲ按ズルニ先ツ農具資本ヲ投入シテ耕地ヲ擴張シ從來堆積セル肥料ヲ活用シテ飼料ノ自給力ヲ増大シ以テ放牧法ヲ局限セハ乳量増進ヲ期待シ得ヘシ現時ハ六十二頭ノ乳牛一頭平均製酪供用乳量ハ四石七斗二升ニシテ仔牛哺育量一頭平均一石二斗トシ約六石平均ノ搾乳ヲナスニ過キス之レ畢竟夏期間ノ飼料ハ放牧地ニ取ラシメ少量ノ穀實ヲ補給スルニ止マルト一ハ雜種牛ニシテ未タ能力發達セサルノ致ス處ナレハ少クモ搾乳量中製酪シ得ルモノ一頭平均十五石ニ増進スルノ日至ラハ一頭ノ生産費約八十五圓トナリ又一方賣却牛ノ價格ヲ向上シ得ヘク堅實ナル發達ヲ期スヘキモ前途遼遠ナルヲ以テ用畜資本ヲ投入シテ之レカ促進ヲナスモ又一法タルヘシ馬ニアリテハ場主ハ一方漁場ニ使役セントスル考案ヲ有シ蕃殖牝馬極メテ不整ニシテ現時ノ有様ニテハ將來ヲ望ミ得サルヘシ宜シク淘汰ヲナシ優良ナル牝馬ヲ以テ基礎トナサハ或ハ同場周邊ノ地ヲ利用スルニ好適ナルヤヲ推考スルニ難カラサルカ如シト雖モ尙詳細ニ調査攻究ヲ要スヘシ

同場畜牛部ノ生乳ヲ製酪部ニ一石七圓ニ供給スルハ深慮アルニ非スシテ製酪部ハ市場ニ牛酪ヲ供給シ得ル程度ヲ標準トナシタルヲ以テ生産費ト做スヘカラス第十二項牛酪一斤ノ生産費六十五錢二厘四毛ニヨリ考フルトキハ同場ノ生乳價格ハ將來モ同價格ニ維持シ經濟的ニ進歩セシムルヲ要スルモノト言ハサルヘカス

(九) 民有牧場ノ批評

本道民有牧場其數頗多シト雖モ起業ノ日未タ淺ク牧場經營ノ見ルヘキモノ少シ以上調査セル牧場ハ就中良好ナルモノナリト雖モ一牧場ヲ除キ他ハ未タ各資本ニ對スル利子ヲ收得スルニ至ラスシテ前途改良研究ヲ要スルコト少ナカラサル有様ナリ今之レヲ總括シテ批評スレハ左ノ如シ

土地利用

本道牧場地ハ一般ニ殖民地ニ適スル農耕地ノ殘地ナルヲ以テ牧場起業者ハ土地選定上最モ慎重ニ又周到ニ踏査シテ決定セサルヘカラス然ルニ以上ハ牧場中小作地ヲ控除スレハ牧場地中耕地トシテ利用セラル、地積極メテ少ナク酪農ヲ經營スル又之ヲ加味セル四牧場外ニアリテハ一割ノ耕地ヲ有スルモノナキハ左表ニヨリ之レヲ見ルヘシ

全地積ニ對スル土地利用歩合

牧場	種目	耕地	放牧地	風防薪炭林	小作地	其他
石狩國牛牧場其一		九五四六				四五四
石狩國牛牧場其二		一七一八	三三四四	五〇九	四二四	三〇五
渡島國馬牧場		三二八	七六七四	八二九	九六五	〇〇四
渡島國牛馬牧場		二五、一〇	五五、〇〇	二、八五	四八七	一一八
日高國牛馬牧場其一		五、二〇	九四、五〇			三〇
日高國牛馬牧場其二		七、四七	七六、一九		一五、〇〇	一、四
釧路國馬牧場		八〇七	八〇〇〇	九五〇	一、一、一〇	一、三、一〇
根室國牛馬牧場		九、九六	二、八六七	五、六一六	草刈地 三〇八	一、一、三

以上八牧場ハ比較的優良ノ牧場ナルニ斯ル現象ヲ呈スル以上本道牧場ノ耕地、放牧地ノ按配宜シキヲ得サルハ推知スルニ

難カラサルハシ放牧地ニアリテハ全面積ノ二割八分以上九割四分五厘ノ間ニアリテ五六割ニ下ラサルカ如キモ之レ數字上ノ事ニシテ實際ニアリテハ放牧地中利用セラレサル土地少ナカラサルノミナラス十年以上牛馬ノ放牧ヲナセル個處ハ草丈短縮シ粗剛トナリ又早春放牧ヲナス土地ハ野草ノ種類減滅シテ休閑的狀態トナレルモノ少ナカラヌ又傾斜三十度以上ノ放牧地ハ表土流亡シテ放牧地ノ價值ヲ失ヒタルアリ明治三十七八年以前ノ選定牧場ニシテ殊ニ東海岸地方ノ牧場ハ冬期放牧ノ容易ナランコトヲ欲シテ南面ノ傾斜セル笹山ヲ包有スルニ腐心シ十數年後ノ今日笹ハ漸時消滅シツ、アルノミナラス牛馬ノ改良進步ハ冬期放牧ヲ不利トナスニ至リ夏期ノ放牧地トシテハ牛馬ハ笹ヲ食セサルヨリ土地利用上價值ナキニ至リ其失敗ヲ歎スルモノ少ナカラヌ歐米諸國共ニ放牧地ノ荒廢救済ニ苦心スル所ナルカ本道牧場經營ニアリテモ正ニ放牧地ノ改良ト救済ハ緊急ノ事實トシテ認メサルヘカラス殊ニ年々樹木ノ伐採ハ木葉落下シテ下草ヲ養フ便ナク風害漸ク増加シ旱害又之ニ伴フ等其不利多大ニシテ救済ノ法容易ナラサルモノ、如シ

以上八牧場中風防薪炭林トシテ存地ヲナシ又植樹ヲナスモノアリト雖モ其設定ノ位置方法、伐採數量等研究ノ跡ヲ認ムルモノ少ナシ是等更ニ攻究ヲ要スル處ニシテ極メテ必要ナル點ナリト信ス

小作地ノ設定ハ牧場ノ經營上農閑期ヲ利用シテ牧場ノ作業ニ從事セシメントスルニ起因スルモノニシテ必スシモ牧場經營ヨリ土地利用ノ得策ナルニ非ラサルカ如ク極メテ適當ナル方法ト認ムヘシ然レトモ牧場收入ハ小作收入ニ及ハサル者ニ至リテハ牧場ヲ開放シテ小作農場トナスヲ有利トナスヘク又近時漸ク此事實ヲ證シツ、アリ
右表ニ於ケル其他ノ土地ハ多少ノ荒蕪地利用不可能ノ土地アリト雖モ大部分ハ建物敷地ナリ建物敷地ノ廣大ナルハ家畜衛生上或ハ火災等ノ危險上極メテ良好ナルモ本道ノ如キ積雪多ク寒氣甚敷地方ニアリテハ可成的狭少ノ面積ヲ以テスルハ飼養管理上極メテ必要ナル所ナリ而シテ其適地ハ甲乙長短アリ又廣狹アリテ一定セスト雖モ全面積ノ二%—三%ノ牧場ニアリテハ中庸ヲ得タルモノ、如シ然レトモ尙研究ヲ要スル處ナリ

家畜ノ數ト面積

牧場地ノ耕地ニ乏シキハ前述セシ所ナルカ更ニ牛馬一頭ニ對ナル耕地ノ割合ヲ算出スルニ左表ノ如シ

飼養家畜一頭ニ對スル地積

牧場	種目	全面積		耕地		放牧地		風防薪炭林		其他	
		町	歩	町	歩	町	歩	町	歩	町	歩
石狩國牛牧場其一		三三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
石狩國牛牧場其二		七九六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
渡島國馬牧場		一五二四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
渡島國牛馬牧場		五〇六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
日高國牛馬牧場其一		一一五〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
日高國牛馬牧場其二		一一八六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
釧路國馬牧場		五一九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
根室國牛馬牧場		一〇七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

右表ノ如ク牛馬一頭ニ對スル牧場地積ハ牛一頭ニ對シ僅ニ一畝歩ノモノアルモ其他比較的廣大ニシテ十五町步或ハ十一町步ニ一頭ノ牛馬ヲ收容スルモノアルモ之レ極メテ粗放經營ニシテ五町乃至七町步ニ一頭ノ牛馬ヲ收容スルモノ多シ之レ即チ地味地勢ノ良好ナラサルヨリ牛馬ノ收容力乏シキモノナルヲ示ス所ナリ

耕地反別ニ至リテハ收容家畜比較的少ナキヲ以テ敢テ狭少ナリト言フヲ得サル有様ナルモ生産力ニ乏シキト耕作法ノ至ラサルモノ多キヲ以テ穀菜地ハ牛馬一頭平均一反歩乃至三反八畝牧草地ハ二反三畝乃至九反八畝ナリ而シテ耕作地中穀菜地ノ狭少ナルハ自家耕作ヲナスヨリモ市場ニ於テ滋養價ノ低廉ナル穀實ヲ購入スルヲ有利トナス場合多キモノナルヲ以テ穀菜地ノ廣狭ハ直ニ牧場ノ實況ヲトスルニ足ラサルヘシ牧草地ニ至リテハ地味ノ肥瘠ニヨリテ一概ニ論スヘカラスト雖モ二三反ヲ以テ足レリトセス土地ノ肥培又ハ牧草地ノ擴張ニ努力ヲ要スヘシ

放牧地ニアリテハ狭キモ二町五反八畝廣キハ十二町步ニ當レリ是等モ事實同面積ヲ周到ニ利用シツツアルモノト認ムヘカラサルモ其廣大ナルハ廣大ナル程地味ノ劣等ナルト利用面積ノ狭少ナルヲ示スモノニシテ或ル程度迄ハ野草ヲ牧草ニ更新

シ得ヘキモ多クノ場合ハ至難ノ事ニシテ一度土地選定ヲ誤リタルモノノ不利不便ナル寒心ニ堪ヘサル所ニシテ放牧地ノ草生不良トナリ廣大ナル面積ヲ利用スル牧場ニアリテハ家畜中牛ハ四肢過長平肋ナルモノ多キヲ見ルヘク殊ニ牛馬共ニ幼畜ニ此弊多キ傾アリト認ム

投資金

土地ノ利用ハ家畜ヲ以テスヘキモ家畜資本ハ勿論其飼養管理等生産ニ關スル事ハ皆資本ニ俟タサルヘカラスト茲ヲ以テ以上八牧場ノ一町步當ノ投資ヲ表示スレハ左ノ如シ

一町步ニ對スル投資額

牧場	種目	固定資本	土地資本	用畜資本	建物資本	器具機械資本	流通資本
石狩國牛牧場其一		一四五四〇〇〇	三九七〇〇〇	四一〇〇〇〇	五四三〇〇〇	一〇五〇〇〇	四三三八〇
石狩國牛牧場其二		一一二三八〇	五一九五〇	五九三〇	一四一八〇	二二〇	五六六〇
渡島國馬牧場		四五〇〇	二二二八〇	三八〇〇	一七六〇〇	一四四〇	八九〇
渡島國牛馬牧場		一六〇八六〇	四五五五〇	七〇五四〇	三六五四〇	八二三〇	二七四五〇
日高國牛馬牧場其一		一七四三〇	五五四〇	七六五〇	二五〇〇	一七四〇	二二七〇
日高國牛馬牧場其二		一九九三〇	三三〇〇	一三四〇	一九四〇	一六〇	六一五〇
釧路國馬牧場		三七〇八〇	七二五〇	一三〇〇	七五〇〇	四〇〇	五二〇〇
根室國牛馬牧場		二七六八〇	八七四〇	一四三三〇	三九六〇	六五〇	三七一〇

右表ノ如ク資本ノ注入程度ニハ等差アリテ一様ナラス最モ集約ナルモノニアリテハ固定資本一町步當リ千四百五十四圓ニ達スルアリ最モ少額ナルハ十七圓四十三錢ニ過キス而シテ其資本ノ少ナキハ其收入又少ナキヲ見ルヨリ之レヲ論スレハ投資金一般ニ過少ナルハ明ナルモノト言ハサルヘカラスト即チ一町步ニ對スル固定資本百二十一圓三十八錢ナル牧場ハ其一町步當ノ收入三十五圓六十六錢ニシテ百六十圓八十六錢ノ者ニアリテハ十六圓五十八錢ナリ之レ資本注入ニ比例的ナラサル

觀アリト雖モ固定資本一町歩ニ對シ三十圓以下ノモノニアリテハ一町歩ノ收入十圓ニ上リシモノナキヨリ之レヲ見ルモ投資ノ過少ナルヲ知ルヲ得ヘシ更ニ進フ固定資本中如何ナル資本ニ對シテ投資ヲ重スルヤヲ見ルニ五牧場ハ用畜資本ニ主力ヲ注キ土地資本之ニ次キ建物資本又之ニ次ク有様ニシテ他ノ一牧場ハ用畜資本ニ主力ヲ注キ建物資本第二位ニアリテ土地資本第三位ニアリ他ノ一牧場ハ建物資本ニ最も多ク投入シ用畜資本第二位ニ土地資本第三位ニアリ又一牧場ハ土地資本ニ最も多ク投入シ用畜資本之ニ次キ建物資本第三位ニアルモノアリ今之等ヲ細覽スルニ建物資本ニ對シ最も多ク投資セルハ實用的必要以外ニ外觀ノ美ヲ兼用シタル點アリテ權衡ヲ失セル嫌ナキニ非ラサレハ之レ推賞シ難キモノナリ又土地ニ最も多ク資本ヲ投入シタルハ農耕地ヲ購入シテ牧場ヲ起業シタルニ起因シ一般ノ參考ニ資スヘキモノニ非ラヌ又建物資本ニ注入セル資金第二位ニアルハ放牧地ヲ二個處ニ經營スルヨリ來リシモノニシテ建物資本ノ注入當ヲ得タリト認ムヘカラス茲ヲ以テ之レヲ見レハ最も割合多キハ用畜資本ノ注入ヲ第一トシテ土地資本ノ注入ヲ第二トシ建物資本ヲ第三トナシタルハ當ヲ得タル觀アルモ本道各牧場ノ建築物ハ冬期間畜舎内保温及空氣ノ流通等ヨリ觀察スレハ極メテ拙劣ナル建築法多ク又投資ノ不充分ヲ認ムルヲ以テ更ニ増資ヲ要スル所ニシテ尙攻究餘地多大ナルモノト言ハサルヘカラス又土地資本ニアリテモ排水ニ灌溉ニ又放牧地ノ整理及改良ニ或ハ風防植樹ニ資金ヲ要スルモノ多キヲ認ムルヲ以テ是亦増資ヲナササル可ラス機械器具資本ニアリテハ牧場内ノ作物生産ノ有無ニヨリ多少ヲ來スヲ以テ一概ニ論斷スヘカラスト雖モ大概舊式ニ屬スルモノ多ク早晚増資ノ必要ヲ免レサルヘシ

之要固定資本ノ程度ハ地積ノ大小地味ノ肥瘠ニヨリ面積ニ比例スヘカラスアルヲ以テ一概ニ論斷スヘカラスト雖モ渡島國牛馬牧場ノ程度ハ或ハ稍當ヲ得タルモノニ非ラサルヤヲ思ハシムル所ナリ然レトモ以上八牧場中石狩牛馬牧場ヲ除キ他ハ何レモ創業以來十數年或ハ二十餘年ヲ經過シ其資本ノ欠損減額等整理ヲ要スルモノアルヲ認ムルヲ以テ一革新ヲ要スルノ急務ヲ告ケサルヘカラス

流通資本ニ至リテハ其精確ナル調査困難ナルノミナラス生乳製酪販賣ヲナス牧場ニアリテハ比較的多額ニ上ルカ如キモ同一資本ノ運轉上事實少額ノ資本ニテ何等不都合ナキヲ以テ比較参照上或ハ其當ヲ失スル恐ナキニ非ラサルヘシト雖モ流通資本多キ牧場ノ收入多キヲ認ムルヲ以テ流通資本少キ牧場ハ管理者又技術員ニ種子、肥料其他一般營業費ニ尙増資ヲ要スルモノト言ハサルヘカラス

牧場ノ收支ト損益

更ニ進テ一牧場ノ收支ヲ見ルニ資本注入ノ多キ牧場ハ一般ニ支出多シト雖モ收入又多シ今各牧場經營者ノ收支計算ニ基キ其一町歩ノ收支ヲ表示スレハ左ノシ

一町歩ニ對スル收支額

牧場名	收入金額	支出金額	損額	益額
石狩國牛牧場其一	三三三〇〇	二六九七〇		二四〇〇〇
石狩國牛牧場其二	三五六六〇	二六八五〇		八八一〇
渡島國馬牧場	二二四〇〇	二二九四〇	→	六四〇
渡島國牛馬牧場	一六五八〇	二八三〇〇	→	一一七五〇
日高國牛馬牧場其一	一九六〇	二二二〇	→	二七〇
日高國牛馬牧場其二	八一五〇	七五〇〇		六六五〇
釧路國馬牧場	六〇九〇	五六九〇		四〇〇〇
根室國牛馬牧場	八〇〇〇	六〇三〇		一四〇〇

右表ノ如ク一町歩ノ最高收入ハ三百八十三圓七十錢ニシテ最低ハ一圓九十六錢ナリ一般牛牧場、牛馬牧場ハ收入多ク馬牧場ハ比較的少ナキヲ見ルヘシ之レ牛牧場及牛馬牧場ハ製酪又ハ生乳販賣ヲナスヨリ其收入多キモノト言ハサルヘカラス馬牧場ノ收入少ナキハ副收入ナキヲ以テ優良馬ノ生産方針ヲ取ラサルヘカラスト雖モ用畜資本ノ注入程度低ク飼養管理又之ニ準スルヨリ其收入少ナキモノ、如シ之レ將來ノ經營上多大ノ注意ヲ要スル所ナリ又牛牧場及牛馬牧場ニアリテモ豚及綿羊ノ混畜ヲナスハ土地ノ利用及放牧地ノ荒廢ヲ救済スル上ニ於テ多大ノ利益アルヘク穀米諸國ニ於テハ牧場經營上必ス小家畜ヲ混養スルノ例證之ヲ示シテ餘リアル處ニシテ本道牧場中渡島牛馬牧場中此法ヲ加味セルモノアルモ未タ其程度低ク

シテ經濟上ノ効果顯著ナラサルヲ遺憾トスル所ナリ
 以上ハ比較的良好ナル牧場ナルニ尙資本注入上研究ヲ要スル點多ク一般ニ投資本ノ過少ヲ示スニ徴スレハ本道二千有餘ノ
 牧場ノ如キハ薄資ニシテ基礎不確實ナルハ推定スルニ難カラサル處ナルヘシ
 牧場ノ損益ニ至リテハ三牧場ノ支出超過ヲ見ル外他ハ收益アルカ如シト雖モ之レ出納上ノ計算ニ止マリ各資本別ニ對シ相
 當ノ金利即チ土地資本ニ七歩、用畜資本ニ對シ一割、建物及機械器具資本ニ對シ九歩、流通資本ニ對シ一割二歩ノ金利ヲ
 支出センニハ石狩國牛牧場ニテ其收益ヲ見ルノ外他ハ何レモ損失ヲ示ス所ナルハ之レ極メテ遺憾トセサルヘカラス然ラハ
 本道牧場ノ前途尙遠ニシテ一段ノ奮發努力ヲ要スヘキナリ

牛馬ノ生産費

牛馬一頭ノ生産費ハ其牧場ノ生産牛馬ノ評價ハ勿論牧場經濟ヲ查察スル唯一ノ法ナリト雖モ全道牧場中未タ其精算アルヲ
 見ス而シテ生産牛馬ノ評價ノ如キモ年來ノ經驗ニ基キ極メテ漠然タル根底ノ下ニ定メタルモノニシテ一ニ牧場調査ノ生産
 費ニヨリ牧場ノ收支ヲ保持シ得ルカ如キヲ見ルモ以上論述セル如ク或ハ各年ノ出納上有利ナルニ止マリ各資本ニ對シ相當
 ナル金利ヲ支拂ヒ得ルモノ一牧場ニ過キス
 今八牧場ノ生産費調ヲ一表トナストキハ左ノ如シ

	牛一頭ノ生産費	馬一頭ノ生産費	生酪一斤生産費
石狩國牛牧場其一	七三六〇		
石狩國牛牧場其二	三四三九七〇		
渡島國馬牧場		一五五、五二	
渡島國牛馬牧場	一四六、四五〇	五八九、三八〇	
日高國牛馬牧場其一	一四七、七三〇	一四七、四六〇	

	牛一頭ノ生産費	馬一頭ノ生産費	生酪一斤生産費
日高國牛馬牧場其二	五五六七〇	一五八、二一〇	
釧路國馬牧場		二七四、〇〇	
根室國牛馬牧場	一四七、七八	一一〇、三三四	六五、二

以上各牧場ノ生産費中石狩國牛牧場ノ生産費七三三圓六十八錢ハ最低額ナラスト雖モ同場ノ賣却牛ハ二歳牛最モ多キモ一
 頭平均二百圓ニ上ルヲ以テ之レヲ見レハ明ニ同場ハ有利ニ經營セラル、ヲ見ルヘシ以上牧場中日高國牛馬牧場ニ於テ最低
 五十五圓ノ生産費調査計算セシカ之レ極メテ經濟的ニ生産シタルカ如キモ畢竟粗放經營ヲナシ支出ヲ可成の減少セシハ基
 因スルモノナリ然ルニ同場ニ於テモ主トシテ二歳牛ヲ賣却スル處ナルカ其一頭平均ノ賣却金額ハ三十七圓五十錢ナルヲ以
 テ生産當時五十五圓六十七錢ノ生産費ヲ要スル同場ニ於テハ有利ナラザルヤ論ナシ馬ニアリテハ渡島牛馬牧場ニ於テ生産
 當時ノ五百八十九圓三十八錢ノ生産費ヲ要スル有様ニシテ同場賣却馬ノ平均價格ハ三百四十六圓四十一錢ナルニ比スレハ
 多大ノ損失タルヤ明ナリ斯ク各牧場ノ末尾ニ論セシ如キ狀況ナルヲ以テ之レヲ本道二千有餘ノ一般牧場ノ生産ニ推及セハ
 牧場ハ土地ノ價值低ク人口少ナキ地方ニ於ケル或ル時期間ノ土地利用法トシテ存スヘキモノニシテ相當ノ經營ヲナス以上
 集約方法ニヨリ固定資本ニ於テモ流通資本ニ於テモ更ニ多大ノ投資ヲ要ス現時最モ多數ニ生産セラル、實用馬ノ賣却ハ牧
 場ノ地力ヲ維持シ又之レヲ改良シ收益ヲ増進シ各資本ニ對スル金利ヲ支拂フコト不能ナルヤ多言ヲ要セサルヘク牛ニア
 リテハ搾乳量少ナクモ十五石以上ノ能力アル乳牛ヲ飼養シ一方牝牛モ或ル程度ニ於テ種牝牛トシテ供給スルノ方針ヲ取リ
 得ル施設經營ヲナスニ非ラサレハ肉牛又ハ普通ノ乳牛ハ農家ノ生産ニ俟ツヲ得策トスヘキヤ論ナキ所ナリ

五、民有牧場ノ將來

(一) 牧場不振ノ原因

本道牧場ノ一般ヲ見ルニ東南海ニ面シ夏期濃霧アリテ耕作ニ不利ナル根室、釧路、十勝ノ三國ハ牧場數最モ多ク其數千十

ニ達シ全牧場數二千四十一ニ對シ 四九、五%ヲ占メ之ニ次クハ南西ノ海ニ面スル日高、膽振、渡島ノ三國ニシテ四百五十
 三牧場アリテ 二二、二%ヲ占ム西海岸ニ位スル後志、石狩、天鹽ノ三國ハ三百四十七牧場アリテ一七%ヲ占メ最モ少ナキ
 ハ北東ノ海岸ニ位スル北見國ニシテ二百三十ノ牧場ヲ有シ 一、二%ニ當レリ是等牧場ノ現況ヲ評スレハ其經營法粗放
 的ニシテ收益ヲ見ツ、アルモノハ極メテ少數ナルヲ以テ從來處分ヲナセル牧場ハ其地方開發シテ移住民ノ到來スル迄ノ土
 地利用法ニ過キサル觀ヲ呈シツ、アリテ其地産力ノ乏シキコト甚ダシク以上最多收入アル一牧場ヲ除キ七牧場ノ平均ニヨ
 ルモ一町歩ノ收入ハ十一圓二十七錢ニ過キス此外ノ牧場ヲ加算シテ二千四十一牧場ノ一町歩收入ヲ調査セハ更ニ僅少ナル
 ハ想像スルニ難カラサル所ナリ今本道牧場ノ斯ル狀態ヲ呈スル理由ヲ掲ケ更ニ改良法ヲ論セントス

一 牧場起業ハ時世ノ需求ニ非ラサリシコト

凡生産業ノ發達ハ需要供給相俟テ經濟的ニ且ツ堅實ニ進歩發達ヲ遂クヘキモノナリ
 然ルニ本道ニ於テハ幕府時代既ニ馬匹ノ蕃殖ニ力ヲ注キシ結果道内ノ需用潤澤ニシテ年々移民渡來シ而シテ耕地擴張セリ
 ト雖モ決シテ馬匹ノ移入ヲ要セサリシナリ斯ル時世ニ於テ馬匹牧場ノ獎勵發達ヲ促ス必要ナク又起業ヲナスモ有利ニ經營
 シ得サルヤ論ナキナリ牛ニアリテハ肉牛、牛乳及乳製品ノ需要程度頗ル低ク積極的畜牛ノ増殖改良ヲナスハ社會ノ要求ニ
 非ラサリシヲ以テ斯ル起業ノ經濟的ニ合理的ニ發達シ得サリシハ又多言ヲ要セサルヘシ殊ニ明治二十七八年以前ハ本道農
 業ノ漸ク端緒ヲ開キタル場合ニシテ牧場ノ如キ起業ヲ見ルノ時代ニ非ラスシテ事實明治三十年末開地處分法改正後ニ之レ
 ヲ認ムル處ナリ然レトモ當地尙官有地到處ニ横ハリ散テ私有地ヲ設定シテ牛馬ノ放牧ヲナスヨリモ官地放牧ノ行ハレ牧場
 ヲ企業シテ牛馬ノ生産ヲ要スル時代ニ非ラサリシナリ同三十七八年ノ戰役ハ大ニ牛馬ノ價格ヲ向上セシメ又需用稍高マリ
 府縣ニ移出スルモノアルニ至レリト雖モ府縣ノ需用ヲ想定スヘキ根據ナク其價格モ僅ニ三ヶ年ニシテ沈靜ニ歸シ本道ノ實
 況ハ牛馬ノ牧場ヲ獎勵振興スヘキ事實ヲ發見スルコト能ハサルモノニシテ明治三十七八年戰役ノ前後著シク牧場ノ數増加
 シ又貸付、拂下地積劇増シタルモ時世ノ要求ニ伴ハサリシヲ以テ其素微不振散テ大差ナキ所ナリ明治三十八九年以降馬匹
 ニハ競馬ノ盛況ニモ伴ヒ馬券行ハレタルモ暫クニシテ禁止セラレ又乳製品ノ製造振興セシモ多クハ農家ノ生産ニシテ從來

乳牛ヲ飼養蕃殖シテ搾乳ヲナササル牧場中製酪ヲ開始シ牧場經營上其經濟ヲ潤澤ニシタルハ明ナル事實ナルモ又以テ牧場
 振興ノ力ナク今日ニ至リシモノニシテ農家ノ生産牛馬又ハ官地ニ放牧シテ生産セル牛馬ト市場ヲ共ニシテ牧場生産牛馬ハ
 有利ニ販賣シ得サルヲ以テ現況ヲ呈スル當然ナリト言ハサルヘカラス

二 牧場起業ノ意志ニ乏シキコト

從來我國民ノ畜産ノ智識經驗ニ乏シキハ清國人ニ及ハサルヤ遠ク況ンヤ泰西ノ畜産家ニ比シテ多大ノ遜色アリト言ハサル
 ヘカラス而シテ一ノ模範牧場ノ見ルヘキナキ本道ニ漫然牧場ヲ開始スト雖モ事實ノ證スル處ニヨレハ極度ニ木材伐採ヲナ
 シ漸ク成功檢査ヲ終レハ牛馬ノ片影ヲ認メサルモノ多シ即チ牧場ハ土地占領法ニ非ラサレハ徒ラニ放牧蕃殖ヲ事トシテ粗
 放ニ經營シ僅ニ地力ノ利用ニ止マリ土地ノ改良地力ノ増進等ニ至リテハ更ニ考フルモノナキ有様ナリ茲ヲ以テ草生著シク
 減耗シ十年前ハ馬上尙及ハサル草丈アリシ土地ハ倭短粗剛ノ草ト化シ漸ク膝節ヲ沒スルニ至ラサルヲ歎スルモノ比々トシ
 テ然ラサルハナシ殊ニ傾斜急ナル土地ハ牛馬ノ蹄傷ヲ受ケ表土ヲ流亡シテ心土ヲ露出シ愈々生産力ヲ失フ土地少ナカラス加
 フルニ牧場百年ノ計ナク樹木ヲ濫伐スルヲ以テ木葉落下シテ下草ヲ養フナク風害ハ愈々強烈ヲ極メ土地乾燥シ遂ニ藪、鈴
 蘭ノ如キ雜草跋扈シ又白樺、小檜ノ蹂躪スル處トナリ全ク休閒的狀態ヲ呈スルモノ甚タ多キヲ歎セサルヘカラス又牧場ニ
 於テ牛馬飼養ノ有様ニ於テモ徒ニ高貴ノ種牡牛馬ノ入場ニ腐心シテ之レカ飼養管理ノ伴フモノナク嚴冬其敷草ノ見ルヘキ
 ナク又厩肥ノ生産及此利用ニ留意スルモノ稀ナルカ如キヲ歎セサルヘカラス勿論將來畜産ノ需用盛大ナルヲ豫想シテ起業
 セルモノナキニ非ラスト雖モ多クハ起業者ノ目的牛馬ノ供給以外ニ存スルモノト認ムヘキモノ多ク又不振ノ一因タルニ至
 ルヘシ

三 貸付地過多ナルコト

大正元年末民有牧場地ハ六十八萬七千二百七十三町歩アルハ既ニ論セシ處ナルカスル大地積ノ貸付又賣拂ヲナスハ牧場企
 業者ハ有利ニ經營シ得ヘキカ亦本道又ハ府縣ノ需要供給上必要ナル者トシテ當局者ノ處分シタルモノナルヤハ極メテ疑問
 トスヘキ處ニシテ遠キ將來ハ之レヲ措キ近キ將來ヲ豫想セハ斯ル大地積ノ牧場ヲ成功セント欲セハ道廳ノ土地處分法ニヨ

ルモ所要牛馬頭數ハ多大ノ數ニ上リ到底本道生産牛馬ハ擧ケテ牧場ニ收容スルモ尙不足ヲ來スハ數字ノ示ス所ニシテ當局者ハ何ニヨリテ之カ牧場ノ成功検査ヲナサントスルカ或ハ府縣ノ移入ニ俟タントスルモノナルヤ知ルヘカラスト雖モ之レ不可能ノ事ナリト言ハサルヘカラス今本道牧場地ニ對スル土地處分上所要牛馬數ノ計算表ヲ表示スレハ左ノ如シ

各年度牧場所要牛馬數ト本道牝牛馬生産頭數對照表

年次	地積	明治	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	大正元
所要牛馬數計	九七七	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五
本道生産牛馬	九七七	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五
馬	九七七	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五
牛	九七七	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五	一、九七五

以上ノ數字ハ各年貸付牧場地積ヲ其時代ノ成功検査標準ニ依リ十ヶ年ヲ成功ノ年限トナシテ算出セルモノニシテ牧場ニ收容スヘキ牛馬ハ牝畜ニシテ二才ノモノト見做シ前年生産牝牛馬ハ道外ニ移出又ハ斃死等ナキモノト計算スルトキハ本道内生産牛馬ノ牝牛馬ハ全部ヲ牧場ニ收容スルモノトスルモ各年ノ不足夥シク成功不可能ナルハ明白ナル事ナリ然ルニ當局者ハ年々之レヲ貸付スルノミナラス其貸付牧場ノ經營上有望ナルモノ少ナキヲ關知セラルルモノノ如キニ於テハ本道牧場ノ不振又止ムヲ得サルナリ況ンヤ本道生産ノ牛馬ハ民有牧場ノミニ收容セラルル者ニ非ラスシテ道外移出益々増加シ此外斃死スルモノアリ其大部分ハ事實農馬トシテ新開地及農耕馬ノ補充馬ニ借用セラルルヲ思ハハ牧場貸付ノ漫然タル又驚クヘキ處アリ茲ヲ以テ本道牧場土地處分ノ成功検査上同一ノ牛馬ハ數回ニ計算セラレ又牛馬籍ヲ以テ頭數ヲ計算シテ實物ノ存セサルモノアリト言フモノアルハ當然出現スヘキ數理ナルヘシ茲ヲ以テ牧場成功上斯ク牛馬ノ需要多キ理由アルニモ拘ハラス道内牛馬ノ價格不振ニシテ却テ本道ニ於テ價格低廉ナル馬匹ニシテ道外移出頭數ハ本道馬匹ノ相場ヲ左右スルノ事實ヲ見ルニヨリ又知ルヘキナリ殊ニ畜牛ノ馬匹頭數ニ比シ甚タ少數ナルヨリ明治三十八年ヨリ同四十一年ニ至ル四年間管外輸入牝牛補助規程ノ下ニ青森、岩手縣地方ヨリ二才、三才牝牛ノ移入ヲナシタルモノ八百三十七頭ニ達シ其結果トシテ明治四十三年ハ本道ニ於テ二萬三千頭ノ畜牛ヲ算スルニ至リシ等其増殖ニカメシト雖モ尙以上各年ノ牧場成功用牛馬數ニ達セサルナリ況ンヤ牧場ノ經營上五町歩ニ一頭ノ牛馬ヲ收容スル程度ニ於テハ有利ナルモノニ非ラサルヲ思ハハ土地處分地積ノ過度ニシテ急速ナル又以テ牧場不振ノ一因タリト言ハサルヘカラサルナリ

自然要素ニ乏シキコト

農業畜産ノ如キ土地ヲ基本トスル生産業ニアリテハ土地ノ選定極メテ重要ニシテ忽緒ニ付スヘカラサル所ナリ然ルニ牧場地處分ノ跡ヲ見ルニ殖民地ノ殘地ニ外ナラサルヲ以テ傾斜地多クシテ農耕適地少ク又交通不便ニシテ合理的經濟的ノ牧場ヲ經營スルノ要素ニ乏シ茲ヲ以テ一般ニ粗放的經營ヲナスニ至レリ元來地産力ニ乏シキ土地ニ於テ粗放的ニ經營スルカ故ニ牛馬ノ増殖ニ伴ヒ益々地力ノ減耗ヲ來シ長ク維持經營スルコト能ハサルニ至ルヲ以テ拙ナル經營者ハ牧場地付與後ハ其經營ヲ中止シテ不生産的ニ土地ノ休閑ヲナシ又幸ニシテ時機到來セル地方ニアリテハ之レヲ開放シテ小作農民ヲ收容スル

ニ至ル有様ニシテ本道牧場ノ大部分ハ或ル時期間ノ土地利用法ニ過キサルハ全ク土地處分當局ノ注意ノ至ラサルト牧場貸
付出願者ノ土地選定ヲ過リタルニ外ナラサルナリ

設計書ナキコト

本道内牧場多シト雖モ設計書ヲ有スル牧場ハ實ニ僅少ナルハ經營ノ粗放ナルヲ證シテ餘リアル處ナルヘシ牧場貸付又ハ賣
拂ニ當リ起業方法書ナルモノヲ作成スルモ之レ土地處分上ニ必要ナル起業功程書ニシテ經濟的合理的經營上ニハ其關係極
メテ少ナキモノナリ即チ土地ノ地味地勢ヲ踏査シ其氣候ニ考ヘ市場其他社會經濟上ノ關係ニヨリ牛馬ノ種類ノ選定ヲナス
ニ非ラスシテ其起業方法書ハ二三雜形ニヨリ作成セラレタルニ過キサルモノニシテ設計書ヲ缺クテ以テ管理人ヲシテ經營
セシムルニ當リ起業主ハ管理人ノ勤勉狀態ヲ監査スルノ便ナク又管理人ハ自己ノ勤勞ヲ示スヘキ方法ナキヲ以テ事業ノ成
功上極メテ不利ナル狀態ニアリ而シテ何人モ更ニ之ニ留意セサルハ誠ニ惜ムヘキ處ニシテ投資金ノ如何ナル狀態ニ存スル
ヤヲ確知スルノ牧場ニ乏シキヤ當然ナリト言ハサルヘカラス之レ又牧場不振ノ原因タルヤ明ナリ

資本ニ乏シキコト

牧場ノ經營上資本ヲ多ク注入シテ多大ノ收利ヲ舉クルト又支出ヲ可成的ニ少クシテ收利ヲ舉クル方法アルヘシ本道牧場ノ
大部分ハ後者ニ屬スルモノニシテ一般ニ投資金少ナキヲ以テ土地改良ノ成績見ルヘキモノナク又家畜ノ改良極メテ遅々タ
ル有様ナリ以上掲ケタル牧場ハ代表的牧場ナリト雖モ固定資本ノ投資額ハ一町步千四百五十四圓ヲ最高トシ概テ三十圓内
外ヨリ五十圓以内ニ止マリ又流通資本ニアリテモ一町步最高四十二圓三十八錢ニシテ五圓内外ヲ普通トナス有様ナリ斯ル
過少ノ資本ニテハ土地利用上ニモ充分ナル施設ヲナシ得サルコト勿論ニシテ到底地力ノ増進ヲ企圖スルニ至ラサルト又土
地ノ生産物ヲ最高價ニ化スルコト能ハサルヲ以テ其收利少ナク益低下スルノ悲境ニ陥ルモノアルハ全ク資本金ニ伴ハサル
大規模ノ經營ヲナスニ歸セサルヘカラス若シ夫レ本道ニ於テ百萬坪即チ三百三十町步ノ牧場ニ於テ固定資本一町步百圓ヲ
要スルモノトセハ三萬三千圓ヲ要シ流通資本ハ一町步二十圓ヲ要スルトセハ六千六百圓ヲ要スヘシ斯ル資本ヲ投入シテ經
營シ得ルモノハ少クモ其資産十萬圓以上ノ者ニ非ラサレハ得テ望ムヘカラス處ナルヘシ而シテ之ヲ我國民ノ富力ニ對比

シ又我國現時ノ畜産ノ需給ニ鑑ミ本道牧場ノ成功覺束ナキ又知ルヘキモノニシテ資本過少ノ結果事業粗放ニ流レ地力ノ存
スル限リ又木材ノ存スル間ハ維持シ得ヘシト雖モ一度地力減耗スルヤ其回復ヲ計ルコト至難ナルヲ以テ之レヲ放棄スルハ
本道實例ニ乏シカラサル所ニシテ牧場不振又茲ニ原因スト言ハサルヘカラス

經營者其人ヲ得サルコト

本道牧場ノ經營ヲ見ルニ起業者自ラ其業ニ當ルモノニアリテハ其成績見ルヘキモノアルモ多クハ管理者ヲ置キ經營ノ事ニ
當ラシメツツアリ而シテ當事者ノ多クハ牧場經營上智識經驗ニ富ムモノ極メテ僅少ニシテ或ハ牛馬ノ飼養管理ニ智識ヲ有
スルモ農業上ノ智識經驗ヲ欠ク者多ク而シテ道内一ノ模範牧場ナク又準據スヘキ設計書ヲ有セサルヲ以テ經營其當ヲ得ル
モノ稀ナル又當然ナリト言ハサルヘカラス殊ニ牧場ハ殆ント起居社界ヨリ絶縁シタル觀ヲ呈シ見聞ノ進歩發達スヘキモノ
ナキヲ以テ幾多ノ故障ヲ防キ家畜ノ生産育成ヲナスノ苦心又察スヘキ處ナリ之レ畢竟資本充分ナラサルヨリ有力ナル當事
者ヲ得ル能ハサルモノアルヘク又交通不便ニシテ事業監督上困難ナルヨリ知己縁類ヲ以テ之ニ當ラシムルノ嫌ナキニ非ラ
サルナリ牧場ハ其經理ニ於テ事業ニ於テ農場ニ比シ尙復雜ニシテ技術ヲ要スル事多キヨリ之レヲ見レハ本道牧場ノ不振又
止ムヲ得サル處ナルヘシ

生産經濟ヲ調査セサルコト

本道牧場ノ數實ニ多シト雖モ牛馬一頭ノ生産費ヲ算定シ牛馬賣買ノ標準ヲ決定シタルモノ實ニ少ナシ茲ヲ以テ生産牛馬ノ
評價ハ根底ナク又事業經營上其收支ヲ節約スヘキ方法ヲ有セサルヲ以テ誠實業ニ當リ勤勉倦マサルモ其成績上ラサルハ當
然ナリト言ハサルヘカラス

(二) 牧場經營ノ改善方法

牧場設計書ヲ作成スルコト

牧場經營ノ事タル普通農業ニ比シ經營上更ニ復雜ナルヲ以テ其經理ノ方法整然タルヲ要スルハ勿論ナルカ土地ノ選定地産力ノ増進土地ノ利用ト家畜ノ選定等周到ナルヘク又經營上集約法ト粗法トノ得失ヲ考ヘ投入資金ハ其價值ヲ減損セザルノミナラス年々相當ノ金利ヲ上ケ又經常費ハ普通金利ヲ仕拂フテ尙有利ナラシムルニ非ラサレハ起業者ノ勞ニ報ユル處ナキニ至ルヲ以テ先ツ相當ノ學識經驗アル人士ニ依頼シテ之レカ設計ヲ作製シ之ニヨリ改善方法ヲ確立スルコト極メテ必要ナルコトニシテ牧場振興ノ第一義トナスヘシ

資本ノ整理及増資ヲナスヘキコト

既ニ設計書ニヨリ信スヘキ根據ヲ得ルトキハ從來投入セル資本ノ全然減損ニ歸スルモノアリ又更ニ改良設備ノ必要上投資ヲ要スヘキヲ以テ更ニ資本ヲ豊ニシ收入ノ増進ヲ計ルハ又牧場振興上極メテ必要ナル所ナルヘシ

經營者ノ選定ニ留意スルコト

設計書ヲ得ルヤ起業者必スシモ其業ニ直接從事セスト雖モ其設計ニ基キ時々事業ノ實地調査ヲナシ之レカ監査ヲナスノ便アルヲ以テ無經驗ナル縁類知人ニ牧場ノ經營ヲ托スルコトヲ止メ適當ナル管理者ヲ撰定シテ事業經營ハ一ニ其ノ人ノ手腕ニ俟タサルヘカラス尤トモ管理者ハ智識經歷アリ又人格アル人士タルヲ要ス

牧場經營上混畜方法ヲ重スルコト

今本道牧場ノ經營別ニヨルトキハ二千四十一ノ牧場中馬牧場一千六百三十六ニシテ八割ノ多キニ達シ又牛牧場ハ二百八十四ニシテ約一割四分ニ當リ牛馬牧場ハ六分ニ過キス斯ク馬ノ生産ヲナスハ馬専門ニ牛ノ生産ヲナスハ牛専門ニ生産ヲナスハ生産ノ技術上元ヨリ最善ノ法ナルヘキニ土地利用又地力ノ維持改良或ハ勞力ノ分配等ヨリ之ニ羊豚ノ如キ小家畜ヲ混畜スルハ極メテ必要ニシテ將來ノ經營上着過スヘカラサル處ナリ以上調査シタル牧場中綿羊及羊毛ノ生産收入アルモノアルモ未タ其頭數過少ニシテ茲其是非ヲ論證スルノ資料ニ供スルコトヲ得ス然リト雖モ歐米ノ牧場中綿羊ヲ混畜セザルモノ殆ント稀ナリ又牛牧場ニシテ製酪ヲナスモノニアリテハ必ス豚ノ飼育ヲナスハ畢畢土地及副産物ノ利用勞力ノ分配等ニ歸スルモノニシテ本道牧場ノ增收上一日モ忽ニスヘカラサル所ナルヘシ

牧場ハ集約經營ニヨルヘシ

本道牧場ハ一般ニ資本ニ於テ又勞力ニ於テ又土地ノ利用ニ於テ粗放經營ヲ取リタルハ多言ヲ要セザルヘシト雖モ之レ畢竟社會ノ需用ニ伴ハサル起業ナリシト一ハ土地開發ノ機運到來ニ至ル期間ノ土地利用法ニ過キサリシ結果ニシテ蓋シ餘儀ナキ所ナルモ今以上調査セル牧場ニ於テ調査シタル牛馬ノ生産費ニ徴スルトキハ普通農家ノ生産牛馬一頭ノ生産費ニ比シテ遙ニ高價ニシテ今日最モ需用多キ農用馬ノ如キハ牧場産ノ價格ヲ以テ賣買ノ行ハルヘキモノニ非ラサルハ今日農家ノ生計程度ニ徴スルモ明ニシテ又事實本道馬商ノ札幌、空知、上川支廳管内五歲馬匹ノ賣買價格牝馬平均金六十四圓牡馬平均金七十一圓ナルニ徴スルトキハ牧場ノ農馬供給ノ有利ナラサルヲ知ルヘク牛ニアリテモ普通農家ノ生産價格ハ牧場ノ生産價格ニ比シ著シク低廉ナルヲ以テ農家ト同等ノ牛馬ヲ生産スルノ不利ナルヤ明ナリ牧場ハ優良牛ノ生産ニ力メ普通牛ハ之レヲ農家ノ生産トナスコト極メテ必要ナル所ナリ茲ニ於テ之ヲ見レハ牧場ハ牛馬ノ別ナク集約經營ヲ取リ優良牛馬ノ生産方針ヲ取ラサルヘカラス

六、處分濟牧場ノ將來

明治二十年以降大正元年ニ至ル處分濟民有牧場ヲ見ルニ九十万四千二百八十八反四畝二十八歩ナルモ大正元年末現在牧場地積ハ六十八万七千二百七十三町五反六畝十四歩ニシテ此差二十一万七千七百八十八畝十四歩ハ返還地ト認メサルヘカラス處分濟牧場ニシテ斯ル大地積ノ返還地アルハ起業者ノ事業程度ノ規定ニ達セスシテ返還ヲ命セラレタルモノアルヘキモ將來有望ノ土地ニシテ起業ノ價值アルモノニ於テハ返還セラル、理由ナカルヘキヲ以テ之レヲ見ルモ牧場不適當ノ土地多キヲ證スヘク又以上調査牧場ハ本道牧場中其經營優良ナルモノ、ミヲ掲ケタルモ全地積ニ對シ耕地二割ヲ有スルモノ三牧場ノミナルヲ知ラハ本道牧場地ノ地味地勢カ如何ニ農耕ニ不適當ナルカヲ察知シ得ラルヘク將來牧場トシテ自然ノ要素ヲ具備セルモノ僅少ナルヲ知ルヘキナリ其經營上ヨリ之レヲ見ルモ設計書ニ基キ投資セスシテ既ニ多大ノ投資ヲナセル後漸ク其非ナルヲ覺醒スルモ地方減耗シ又投資スヘキ餘力ヲ存セザルモノ多キニ徴スルトキハ是等ハ時世ノ到來ト共ニ之レヲ開

放シテ耕地トナシ得ヘキ土地ニハ農家ヲ收容シ其農家ヲ收容シ耕地トナシ得サル土地ハ放牧地トシテ利用シ放牧地トナシ得サル土地ハ植樹地トナス等其土地利用ノ種目ヲ變シテ最モ生産的又集約的ニ利用スルノ方針ヲ立テサルヘカラス然ラハ本道農業ハ家畜ノ生産多キ又地力ノ維持改良上堅實ナル農業ヲ經營シ得ルニ至ルヘキナリ近年牧場地ヲ開放シテ農家ヲ收容スルモノ漸ク多キヲ致セルハ蓋シ自然ノ勢ニシテ時世ノ到來ト共ニ有利ニ經營セラル、ノ徴トシテ慶スヘキコトナリ

大正四年三月二十五日印刷
大正四年三月二十八日發行

北海道廳

札幌區北壹條西參丁目貳番地

印刷者 山中 國松

札幌區大通西貳丁目七番地

印刷所 高増 印刷所

電話 三六一番
電話 八四七番

産業調査報告書

(北海道廳種畜場)

第七卷其二

北海道廳



本調査ハ主トシテ左記ノ主査及委員之レヲ擔當調査セリ

主査 農學博士 橋本左五郎
委員 石澤達夫

大正
4. 7. 23
内交



北海道廳種畜場調查目次

種畜場經營ノ沿革	一
土地	三
垣	七
牛欄	八
沿草	八
畜牛頭數	一〇
種畜牛	一四
種畜牛種付表	一六
種付時期及回数	一九
繁殖牛	一九
受胎數及率	二一
懷胎日數	二一
生產數及率	二二
死産流産數及率	二三
搾乳及製酪	二四
搾乳	二四
檢乳	二五
製酪	二六
貸付種畜牛	二七
拂下牝牡牛	二九
飼養管理法	三〇
種哺育法	三〇
種體重表	三一

五 馬

(八) 飼料給與量.....三三

(二) 管理法.....四〇

(一) 畜牛飼育費調查.....四二

(一) 沿 革.....四二

(二) 馬 匹 頭 數.....四四

(三) 種 牡 馬.....五四

(四) 種 付 頭 數.....五五

(一) 種畜場種牡馬種付成績.....六二

(二) 國有種牡馬種付成績.....六三

(三) 民有種牡馬購買成績.....六五

(四) 蕃 殖 牡 馬.....七一

(一) 受胎數及率.....七三

(二) 懷胎日數.....七三

(三) 生產數及率.....七五

(四) 死產流產數及率.....七六

(五) 貸付種牡馬數.....七六

(六) 出張種付.....七八

(七) 拂下牝牡馬.....七八

(八) 使 役 馬.....七九

(九) 飼 養 管 理 法.....八〇

(十) 飼 養 管 理 法.....八〇

(十一) 馬匹飼育費調查表.....八九

六 綿 羊

(一) 沿 革.....一一

(二) 綿 羊 頭 數.....一一

(三) 種 牡 羊.....一三

(四) 蕃 殖 牡 羊.....一三

(一) 蕃 殖 成 蹟.....一四

(二) 剪 毛 量.....一四

(三) 綿 羊 移 動.....一五

(四) 飼 養 管 理 法.....一六

(五) 飼 養 管 理 法.....一六

(六) 飼 養 管 理 法.....一六

(七) 收 支 計 算 調 費.....一七

(八) 飼 育 費.....一八

七 豚

(一) 沿 革.....一八

(二) 種 牡 豚.....一九

(三) 蕃 殖 牝 豚.....一九

(一) 生 產 頭 數.....二〇

(二) 斃 死 頭 數.....二〇

(四) 拂 下 成 蹟.....二〇

(五) 飼 養 管 理 法.....二一

(六) 飼 養 管 理 法.....二一

(七) 飼 養 管 理 法.....二一

(八) 飼 育 費.....二二

八 家 禽

(一) 沿 革.....二二

(六) 飼 育 費.....二二

(一) 飼 養 管 理 法.....二二

(二) 飼 養 管 理 法.....二二

(四) 飼 養 管 理 法.....二二

(五) 拂 下 成 蹟.....二〇

(一) 生 產 頭 數.....二〇

(二) 斃 死 頭 數.....二〇

(三) 種 牡 豚.....一九

(四) 蕃 殖 牝 豚.....一九

(一) 沿 革.....一八

(二) 種 牡 羊.....一三

(三) 綿 羊 頭 數.....一一

(四) 蕃 殖 成 蹟.....一四

(五) 剪 毛 量.....一四

(六) 綿 羊 移 動.....一五

(七) 飼 養 管 理 法.....一六

(八) 飼 養 管 理 法.....一六

(九) 飼 養 管 理 法.....一六

(十) 收 支 計 算 調 費.....一七

(十一) 飼 育 費.....一八

九	耕作	一三
(一)	耕作反別及收穫表	一三
(二)	耕作方法	一四
(三)	耕作物生産實費調	一六
十	肥料	一八
十一	建築物	二〇
十二	器具器械	二二
十三	勞働者	二五
十四	種畜貸付及拂下法規則	二八
十五	試驗成績	三四
(一)	沿革	三四
(二)	飼料栽培試驗	三五
(三)	肉牛肥體試驗	三五
(四)	煉乳製造試驗	三八
(五)	ハム製造試驗	三八
(六)	畜産試驗費	三九
十六	講習生及實習生	三九
十七	小作地及山林並石山	四〇
十八	收入決算	四二

十九 種畜場ノ批評

(一)	土地	四六
(二)	垣	四六
(三)	牛	四七
(四)	馬	四七
(五)	綿	四九
(六)	羊	四九
(七)	豚	五〇
(八)	家禽	五〇
(九)	耕付	五一
(十)	建築物及農具其他器械	五一
(十一)	勞働者	五一
(十二)	種畜貸付及種付法規則	五二
(十三)	試驗事業	五三
(十四)	實習生	五三
(十五)	小作地及山林並石山	五三
(十六)	財政	五五
二十	種畜場の將來	五六
(一)	種畜種鶏ノ生産育成及拂下	五七
(二)	試驗事業	五八
(三)	種畜ノ拂下	五九
(四)	民有種畜ノ種付	六九
(五)	不用家畜ノ拂下	六九
(六)	畜産實習生養成	六九
(七)	新設分場數及位置	七〇
(八)	小作地	七〇

(九)	山林	七〇
(八)	石山	七〇
(七)	建築物	七〇
(六)	器具器械	七〇
(五)	財政方針	七一

目次

六

産業調査報告書

(第七卷其二)

北海道廳種畜場

一 經營ノ沿革

明治九年 札幌官廳假牧場ヨリ種牛四十七頭並ニ豚若干ヲ茲ニ移シテ業務ヲ開始シ之ヲ真駒内牧牛場ト稱セリ是即チ本場ノ起原ナリ

同十五年 二月閣下使ノ廢セラレタル結果七月ニ至リ農商務省事業管理局ノ所轄トナリ經營方針ニ改革ヲ加ヘラレ又經費大削減トナリケ年ノ經費四千五百九十圓ト決定セラル茲ニ於テ經營上緊縮方針ヲ取リ牛ノ如キモ優良種ノ外ハ去勢シ肉牛及不耕牛トシテ賣拂シ尙札幌區ニ乳牛派出所ヲ設ケ生乳ヲ賣却スル傍ラ牛酪及粉乳ヲ製出シテ賣却セリ

同十九年 二月廢縣置廳ニ際シ本道ハ北海道廳ノ所屬ニ歸セリ而シテ拓殖ノ進運ニ伴ヒ畜牛ノ外馬匹ノ改良蕃殖ヲモ獎勵スヘキ必要アルヲ認メ此年七月真駒内種畜場ト改稱スルニ至レリ

同二十六年 二月種畜場事務規程ヲ改正セラレ真駒内ヲ本場トシ七重勸業試驗場ヲ併合シテ之ヲ分場トナシ本場ヲ北海道廳種畜場ト稱ス

同二十七年 七重分場ヲ廢止シ民間ニ拂下クルト同時ニ同場ノ優良種畜ヲ移入シ且ツ牛馬共ニ種類ヲ一定スルニ至レリ

同二十九年 二月告示第二十六號ヲ以テ種豚ノ貸與ヲ廢止セリ

同三十四年 北海道地方費法及北海道地方費令ノ發布ニ依リ本場ハ四月ヨリ國庫ノ所屬ヲ離レ北海道地方費ノ所屬トナレリ從テ事業上多大ノ變遷ヲ來セリ即チ經營上特別會計トシ一定ノ方針ノ下ニ主産物及副産物ヲ増殖シテ收入ヲ増加シ以テ種畜場ノ獨立ヲ計リ一般地方費財政ノ狀態ニ伴ヒ本場經費ヲ増減セラルカ如キ事ヲ避ケ業務施設上會計ノ分立ヲ期スルノ得策ナルモノトナシ其理由ヲ具シテ上局ニ稟申シ局部設置ノ認可ヲ受クルニ至レリ七月廳令第五百一十一號ヲ以テ北海道廳種畜場規程ヲ發布セラレ此年第一回ノ通常道會ニ明治三十五年度ノ歳入歳出豫算案ト共ニ二箇年繼續費ノ形式ニ依リ總經費金四万七千二百十二圓九十三錢ヲ以テ英國及米國ヨリ種牡牛馬ヲ直接購買スルノ案ヲ提出シテ決議ヲ經タリ

北海道廳種畜場

一

同三十五年 本年度ヨリ特別會計ヲ實施スルニ至リ本場ニ特別會計部局ヲ設置セリ茲ニ於テ從來ノ方針ヲ改メ事業ノ擴張並ニ其確實ヲ期スルト共ニ一方歳入増殖ノ目的ヲ以テ貸付種牡牛馬ニ對シ規定ノ貸付料ヲ徵收スルノ外種牡牛馬交尾規則ヲ發布シテ民有牝牛馬種付施行ノ方法ヲ定ムルト同時ニ規定ノ種付料ヲ徵收スルコト、シ此外血統證明書下付又ハ書換ニ對シテモ相當料金ノ納付ヲ要スルコトニ定メタリ此年本場付屬地ヨリ生産スル軟石二十五万切宛年購買契約ヲ締結セリ

同三十七年 從來貸付種畜並ニ本場飼養ノ牛馬頭數ニ關シテハ特ニ一定ノ方針ナカリシヲ以テ種々調査ノ結果本場ニ繁養スル牛馬ハ蕃殖適齡牝牛七十五頭蕃殖適齡牝馬百頭ヲ以テ定數トナシ年々之ヨリノ生産スルモノ、内牝牛ハ二十九頭牝馬ハ二十五頭宛ヲ貸付シ貸付種牡牛ハ百五十頭同牡馬ハ三百頭ニ達セシムルノ方法ヲ確定セリ此年北海道應畜産課新設セラレ種牡馬検査並ニ貸付種畜ニ關スル事務全部ヲ同課ニ移セリ

同三十九年 二月廳令第三號ヲ以テ畜産階級講習規程ヲ發布セラレ四月種畜場内ニ假講堂ヲ開設シ十九名ノ講習生ニ授業ヲ開始セラレ修業年限ハ二箇年ナリ

同四十一年 三十九年入學ノ講習生十八名ニ修業證書ヲ授與セラレ本年限リ之ヲ廢止シ之ニ代フルニ種畜場費ヲ以テ畜産實習生ヲ養成スルコト、ナシ、修業年限ハ一箇年間トシ畜産ノ實務ヲ實習スヘキ者毎年十五名内十名ハ日當二十錢支給トシ他ハ無給トナセリ五月ヨリ十五名ノ入場ヲ許可セリ

同四十二年 從來本場ニ於テ生殖スル牝牛馬ハ種畜ノ候補ヲ除クノ外ハ全部貸付シ來リタルニ牛ニ於テハ著シキ不足ナキモ馬ニアリテハ民有蕃殖牝馬ノ數ニ伴ハサルモノアリ茲ニ於テ道内ニ在ル種馬牧場種馬所ノ種牡馬ヲ併算スルモ尙且ツ將來多數種牡馬ノ不足ヲ來スヘキ狀勢ニ進ミツ、アルヲ以テ今ニシテ之レカ爲メ相當ノ施設ヲナサ、レハ他日事業ノ上ニ一大蹉跌ヲ來スヘキハ明ナリ然リト雖モ今邊カニ本場蕃殖牝馬ヲ増加スルハ到底不可能ノ事業ニ屬スルノミナラス一面ニ在テハ現時ニ於テモ本場ノ蕃殖事業ハ比較的不經濟ニ陥ルヘキ事實アルヲ認メタルヲ以テ本場牧馬事業ニ一大改革ヲ加ヘ在場種牡馬及蕃殖牝馬ハ一定ノ年限内漸次貸付又ハ賣却シテ本場内蕃殖事業ヲ廢止シ更ニ一般民間ヨリ優秀ナル二三歲駒ヲ購買シテ明四歲迄充分ニ之レヲ育成シ年々五十頭宛ノ種牡馬ヲ貸付シテ遂ニ現在數ヲ六百頭ニ達セシメ同時ニ從來ノ貸付制度ニ改正ヲ加ヘテ一種牡馬ハ其使用期間ヲ平均十二箇年トシテ六箇年貸付シタル後飼養管理ノ良好ナル借受者ニハ獎勵的ニ貸付價格ヲ基準トシタル特價ヲ以テ一時又ハ二箇年分納ノ方法ニ依リ之ヲ拂下クルノ計畫ヲ立案シ通常道會ニ提出シテ決議ヲ經タリ四十二年入場實習生十一名ニ終了證書ヲ授與ス

同四十三年 四十二年入場實習生七名ニ終了證書ヲ授與ス

此年長萬部種馬所ヨリアンクノルマン種牡馬ゴリール號ハクニ一種牡馬ヘンキンカム號ノ出張種付ヲ受ク又種畜貸付

規則ヲ發布セリ其要點ハ牛馬共一期ノ貸付期間ヲ三箇年貸付料ハ牛馬共其價格ノ百分ノ五トシ借受中飼養管理ノ良好ナル者ニハ牛ハ三箇年馬ハ六箇年貸付ケタル後特ニ其種畜ノ拂下ヲ爲ス等ナリ

前年通常道會ノ決議ニ基キ此年ヨリ本場牧馬事業ノ改革ニ着手シ牡馬ハ凡テ明四歲ノ春貸付スルコト、ナリタルヲ以テ此年ニ在テハ場内產駒三歲牡馬ノ貸付ヲナサシテ在場種牡馬ノ内二十頭ヲ貸付シ蕃殖牝馬四十二頭ノ賣却處分ヲ行ヒタリ

此年種牡馬購買ヲ開始シ岩手縣ニ於テ七頭日高國ニ於テ十頭膽振國ニ於テ六頭石狩國ニテ二頭合計二十五頭ヲ購買ス價額金一萬二千九百九十圓ニシテ最高千三百圓最低二百圓一頭平均六百九圓五十錢ナリ

同四十四年 前年入場ノ實習生五名ニ終了證書ヲ授與ス

此歲購買セル種牡馬三十三頭ニシテ岩手縣ニテ七頭日高國ニテ十五頭渡島國ニテ二頭膽振國ニテ三頭本場ニ於テ七頭等ニシテ此金額二萬一千四百十圓ニシテ最高千五百圓最低三百圓牽付費合計一頭平均六百七十四圓三十九錢三厘ナリ

大正元年 前年入場實習生二名ニ終了證書ヲ授與ス

此歲購買セル種牡馬ハ二十二頭ニシテ岩手縣ニテ五頭日高國ニテ九頭本場ニ於テ六頭後志國一頭膽振國一頭等ニシテ最高千三百圓最低三百五十圓牽付費合計一頭平均六百七十三圓八十九錢ナリ

同二年 前年入場實習生ハ中途退場修了證書ヲ授與セシモノナシ

明治四十三年度ヨリ施行セル種牡馬貸付計畫ハ同年度ヨリ三ヶ年ニ於ケル成績ニ徵スルニ最初豫期セルカ如キ多數種牡馬ノ不足ヲ生セス貸付頭數ヲ減スルモ寧ロ優良ナルモノヲ貸付スルノ方法ヲ執ルノ得策ナルヲ確認セルヲ以テ更ニ本方法ヲ變更シテ此間購買ヲ廢シ在場蕃殖牝馬ノ定數ヲ六十頭トナシ年々之ヨリ生殖スルモノ、内十五頭宛ヲ貸付スルノ計畫ヲ立テ客年道會ノ決議ヲ得テ本年度ヨリ之ヲ施行スルコト、ナセリ此年四月種畜貸付規則ニ改正ヲ加ヘ貸付料ハ牛馬共價格ノ百分ノ三トシ借受者カ其種畜ヲ他人ニ寄托スルトキハ寄托料ヲ貸付料ノ三分ノ二ヲ超過スルヲ得サルコト貸付種畜ノ拂下ハ其借受者又ハ其他ノ希望者ニモ之ヲ許可スヘキコトニ定メラレタリ

二 土地

明治九年 地ヲ札幌郡真駒内ニトシ草葎ヲ伐リ屋舎ヲ建築シ區劃經營ヲナス先ツ百八町步餘ノ土地ヲ場中ニ相シ周圍ニ二千六百有餘間ノ牧柵ヲ設ケ畑地凡ソ三十二町六反步ヲ墾成シ之レニ牧草並ニ根菜類ヲ播種シ稍々大体ノ準備整ヒタルヲ以テ九月ニ至リ種牛四十七頭並ニ豚若干ヲ移シ開場セリ

同十二年 畜牛増殖ノ結果土地漸ク狹隘ヲ告クルニ至リシヲ以テ未開地三十三町四反六畝二十歩ヲ開墾セリ又場内ニ用水溝ヲ開穿シ真駒内川ヨリ流水ヲ通ス此延長千四百五十六間

同十四年 二月千歳郡漁村牧場地五百二十七町六反三畝二十七歩ヲ本場ノ附屬地トナシ夏期牛ノ放牧地トナス

此年本場地積ヲ實測シ八百九十九町四反八畝一步ナルヲ知ル而シテ開墾地進ミ墾成地百三十八町五反五畝二十歩ニ達ス

同十六年 墾成地ヲ實測スルニ百三十三町六反八畝七歩ニシテ前年ニ比シ二十四町八反七畝十三歩ヲ減セシハ實際作付反別ヲ實測セシニヨル

同十八年 八月札幌縣ノ請求ニ依リ場内豊平川沿岸ノ地百十六町一反六畝十八歩ヲ堤防敷地トシテ引渡ヲ了シ其代地トシテ本場東南真駒内ト精進川ノ間ニ於テ凡ソ七十萬坪ノ編入ヲ請求セリ千歳郡漁村附屬牧場ヲ夏季放牧地ニ充用セシモ本場ヲ距ル八里弱ニシテ放牧牛ノ送還ニ多大ノ不便アリ且ツ該地内ニ生セル草秣モ漸次欠乏ヲ告クルヲ以テ四月墾成地ノ東北ニアル未開地ヲ二部ニ分割シテ開墾ニ着手シ第一部二十九町三反四畝二十九歩第二部凡ソ十町歩合計三十九町餘歩ヲ墾成セリ

同十九年 未開地千九十六町四反六畝二十八歩ヲ種畜場敷地トシテ編入ヲ受ケタリ

同二十年 本場ノ一隅ナル真駒内川ト穴ノ川沿岸土地及真駒内川ニ沿ヒタル土地七十七町四反三畝十五歩ヲ返納シ其代地トシテ真駒内川精進川間ノ土地百三十六町五畝二歩ノ編入ヲ受ケタリ

同二十一年 未開地三町六反七畝四歩ヲ新墾ス

同二十七年 此年現在總地積八百八町二反一畝十二歩内成墾セルモノ百六十六町六反二畝二十二歩(内牧草地百三町八反七畝二十九歩雜穀根菜ノ圃地六十二町七反四畝二十三歩)ナリ而シテ是等ノ地積ヨリ生産スル收穫物ハ未ダ以テ全家畜ヲ養フニ足ラス年々其不足ヲ購買セシヲ以テ飼料圃ヲ擴張シ漸次購買ヲ廢スルノ設計ヲ立テ樹林地ヲ新墾スルコトニ決定シ伐木刈拂ヒヲナシタルモノ約十五町歩ナリ

同三十一年 放牧地狹隘ヲ告クルヲ以テ六月真駒内ニ於テ未開地百七十六町二反二畝十七歩ヲ同八月同所ニ於テ未開地八反五畝十二歩ヲ種畜場用地トシテ編入ヲ受ケタリ

同三十三年 作付反別ハ牧草畑ヲ併セ百六十七町歩ニ達セシモ燕麥根菜ノ如キハ發芽後三ヶ月ノ久シキ期間降雨稀ナリシヲ以テ著シク成育ヲ妨ケ減收ヲ見ルニ至レリ秋季ニ至リ三十九町歩ノ新墾ヲ完成セリ

同三十四年 本場財源ノ一部トシテ石狩郡常別村字青山奥ニ於テ針葉樹混合林地一萬七千五百七十九町二反九畝八歩ヲ種畜場附屬地トシテ編入ヲ受ケ又真駒内ニ於テ未開地二百六十九町一反九畝二十二歩ヲ種畜場用地トシテ編入ヲ受ケタリ

同三十七年 此年精進川ノ土地十五町歩ヲ開墾シ燕麥及牧草ノ栽培試験ナス

同三十九年 厚岸郡太田村ニ於テ未開地千五百町一反六畝七歩ヲ種畜場分場用地トシテ編入ヲ受ケ又札幌郡平岸村字籬舞ニ於テ百八十九町二反六畝十二歩ヲ種畜場用地トシテ編入ヲ受ケ又石狩郡常別村字青山奥ニ於テ種畜場用地トシテ編入ヲ受ケ

同四十年一月 檜山郡厚澤部村大字館村ニテ未開地五百三十八町二反一畝二歩大字鶉村ニ於テ未開地百七町四反十九歩ヲ分場用地トシテ編入ヲ受ケ又三月常呂郡野付牛村字調子府村ニ於テ未開地四千四十九町三反六畝五月野付郡平糸村ニ於テ未開地四千二町五反二十五歩十勝郡大津村字昆布刈石村ニ於テ未開地二千町歩ヲ何レモ種畜場分場用地トシテ編入ヲ受ケタリ

今大正二年末現在總地積ヲ舉クレハ三萬三千七百一十一町二反一畝二十歩五勾ニシテ内真駒内本場三千四百二十一町八畝六歩五勾常別村山林一萬七千五百六十三町九反三畝三歩漁村附屬地五百二十四町七反四畝二十八歩分場用地總計一萬二千二百一十四反五畝十三歩ナリ其詳細ハ左ノ如シ

地種	種	畝	地種	種	畝
本場	建物敷地	一六三、四七、七	同	小作地	四〇、四六、〇〇〇
同	牧草地	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	同	分場用地(厚岸郡太田村)	一、五〇四、一六、〇七、〇〇〇
同	耕作地	一、八七、〇〇〇、〇〇〇	同	(檜山郡館村)	五、八、二、一、〇、〇〇〇
同	放牧地	二、六三、七、九、八、一、五、八、八	同	(野付郡平糸村)	一、〇、七、四、〇、〇、九、〇〇〇
同	小作地	三、九、三、七、七、一、八、〇〇〇	同	(十勝郡昆布刈石村)	四、〇〇、一、五、〇、一、五、〇〇〇
同	常別樹林地	六、〇、三、七、〇、五、〇〇〇	同	(常呂郡調子府村)	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
同	小作地	一、七、一、七、六、七、〇、〇〇〇	同	計	四、〇、四、九、一、六、一、二、〇〇〇
同	漁村付屬地	三、九、〇、〇、〇、〇、〇〇〇	同		四、〇、四、九、一、六、一、二、〇〇〇
同	地	四、八、四、二、八、三、三、〇〇〇	同		三、三、七、一、一、三、一、〇、〇〇〇
同	地		同		

以上土地臺帳面ナリト雖モ前記ノ如ク種畜場本場ノ用地ハ數回ニ亘リ増地ヲナシ又堤防敷地返還等ノ事アルヲ以テ地積正確ナラサルモノ、如シ

穀菜地ハ畜舎ヲ中心トシ可成ノ近距離ニ設定シ又地味牧草地ニ勝レルカ如キモ又然ラサルモノアリ

牧草地ハ穀菜地ヨリ一般ニ遠距離ニアリ地勢平坦ナルモ未ダ整地等充分ナラサルモノナリ而シテ播種後二十年以上ヲ經過スルモノ三分ノ二以上ニ達シ輪作更新ヲ要スルコト急ナルモノ多シ

放牧地中ハ本場及漁分場合計二千八百八十六町一反六畝七歩ニシテ之ヲ分テハ天然放牧地二千七百八十二町一反六畝七歩

改良放牧地百四町歩ナリト雖モ實際利用スルモノト牛馬放牧利用別ヲ表示スレハ左ノ如シ

天然放牧地 改訂放牧地	面積	積	利用面積	百分率	牛放牧面積		馬放牧面積	
					面積	積	面積	積
天然放牧地	二五三九八五	一四七七八〇五	四九三	三三・三〇〇三	一〇、三三〇〇三	一〇、三三〇〇三	九七七	
漁付屬地	四八四二八三	四八四二八三	一〇〇〇	二〇、〇〇〇〇	一〇、〇〇〇	二八九二八三	七〇五	
改訂放牧地	一〇四、〇〇〇	九七、〇〇〇	九三三	五、〇〇〇〇	一、一〇	四五、〇〇〇	九六	
計	三、三三、三六八	一、八二、八四六八	五八五					

右表ニヨルトキハ漁附屬地ニ於ケル放牧地及改良放牧地ハ全部利用セラル、モ本場ニ於ケル天然放牧地ハ四九、二%ノ利用面積ヲ有スルニ過キササルヲ以テ全面積ニ對シ五八、五%ヲ利用スル割合ナリ又改良放牧地ハ牛一頭ニ付一町一反馬一頭ニ付九反六畝ニ當リ天然放牧地ハ牛一頭ニ付四町四反歩馬一頭ニ付九町七反七畝ニ當レリ

天然放牧地ハ放牧牛馬ノ逸出ヲ防ク爲メ境界ニハ牧柵ヲ建設シ倒木其他ノ家畜ニ障害危險ナルモノヲ除去スルノ外何等ノ改良ヲ加ヘサルモノニシテ地積廣大ナルモ生草ニ乏シク殊ニ年々劣惡トナリツ、アリテ之レカ改良ニ苦心スル所ナリ牧柵ハ放牧地附近ノ生木ヲ以テ柱長八尺巾八寸厚サ四寸トシテ三本横ヲ通シテ建設スルモノニシテ六尺ニ付二十五錢ノ建設費ヲ要セリ然レトモ年々腐朽燒失少ナカラサルヨリ今ヤ木柵ノ更新上其材料ノ供給ニモ容易ナラサル箇處多キニ至リタルヲ以テ四寸以上ノ丸太ヲ用ヒ八尺間ニ建込ミ積ノ代用ニ鐵線二條ヲ打付ケ笠木ヲ付シテ牛馬ノ負傷ヲ防キ又支柱ノ固定ヲ助ケツ、アリ

改良放牧地ニハ天然放牧地ヨリ畜舎ノ距離近ク地形平坦ノ箇處ヲ選定シ小藪等ヲ除去シ牧草種子ヲ播種シタルニ過キス而シテ放牧牛馬ハ搾乳中ノ乳牛種及仔付牝馬ノ放牧ニ充ツル所ナルモ尙改良ノ必要切ナルヲ唱フル所ナリ乳牛ノ如キハ放牧地狹隘ナルヨリ耕地ノ周圍其他ヨリ刈草ヲナシ補充スル有様ナリ小作地ハ本場所屬地燒山ニ三百十三町六反八畝アリ事務所ヨリ南二里餘ノ地位ニアリテ自作上ノ利益ナルヲ以テ小作人ヲ收容シテ其生産物ヲ購入スルヲ得策トスヘク又農閑ヲ利用シ場内ノ工夫ヲ補充スルノ便アルニ基キ設定シタルモノニシテ明治四十二年以降小作ヲ收容シツ、アリ漁村附屬地ノ小作地ハ四十町四反六畝餘ナリ同地ハ三十九年以降牧羊場トナセシモ四十二年廢止ト共ニ其後牛馬ノ夏期放牧ニ過キサリシヲ以テ穀菜地ヲ貸付スルコト、ナシタルニ起因スル所ナリ當別ニ於ケル小作地ハ山林地ニシテ民有地ニ連續セル耕作適地ニ小作人ヲ收容シ火災豫防其他森林ノ保護ニモ便スルヲ以テ設定セルモノニシテ大正三年末現在小作戸數三百三十二戸兼成耕地九百八十六町三反四畝七步ニ達ス

林地ハ種畜場收入ノ目的ヲ以テ當別村ニ一萬七千七百七十三町歩ヲ有セリ防風林トシテハ特ニ場内ニ設定セス然ルニ種畜場

本場ハ北西ノ風烈シク場内ノ立木年々伐採シタル損失少ナカラサル所ナリ

三垣柵

種類	所用ノ目的	延長間數	建設費	單價	修繕費	建設年次	經過年數	構造	概要
土壘	種馬厩付屬運動場	二〇、三三〇	一九三、七五〇	九五〇余	三、六〇〇	明治三十五年	一三	底幅六尺頭幅三尺高六尺ニ築上芝植ナシ	
同	馬匹種付場	五三〇	六、九〇〇	一、三〇〇	一、七七八	同 四十五年	二	同上	
石垣	畜舎附屬運動場	四八〇	八、六四〇〇	一、八〇〇	七、四八八	同 三十五年	一三	欵石尺角三尺物ヲ疊高五尺ニ築上セリ	
柴垣	鷄舍附屬運動場	一〇、二〇〇	一、三六〇〇	一、三六〇	一、三六〇	同 三十七年	一〇	柱ハ雜木樁四本入レ小柴木ヲ間隔ナキ積ニ打付ケ	
牧柵	放牧地境界	三、四四五〇	五〇、九二五五	一、四七五	四、七五〇	同 九	一〇	割木造鐵線二木樁笠木付六尺間トス	
同	耕地並ニ放牧地境界	一、六五三、〇二五	二五、三〇、三五〇	一、五三六、六三三	一、八七	同 三十四年	一三	全部割木造六尺一間三木樁トス	
同	同	二、二四〇	五、七六、〇〇〇	二、六〇〇	二、〇、四七四	同 四十年	七	同	
同	同	五、七八二	八、七、〇〇〇	一、五〇	二、八五、〇〇八	同 九	三八	全部割木造八尺間二木樁トス	
同	漁村放牧地境界	四三、〇	三、四、七四〇	七九〇余	一、六八、四八	同 四十四年	三	概丸太四寸以上ノモノヲ柱トシ四寸槽ニ打付ケ處々ニ支柱ナスル	
同	牝馬厩付屬運動場	二八、八〇九	三、五、八六、九〇	九八〇、八、五三					

各種垣柵ノ得失 前表ノ内石垣ハ丘地ノ一端ヲ切り崩シ豚舎トノ間ニ設ケタル豚運動場ノ周圍ニ取設ケタルモノ又柴垣ハ鷄運動場ノ周圍ニ建設セルモノニシテ其性質上元ヨリ特殊ノモノニ屬シ一般牛馬ノ放牧場柵トシテハ割木造木柵ヲ以テ主トスヘシ種畜場ニ於テハ此木柵中明治九年頃建設ノモノアリ經過年數實ニ三十八年ニ垂ントスルモノアリト雖トモ之等ハ建設後幾分宛年々之ニ修理ヲ加ヘ建設當時ヨリ存立セルモノハ極メテ少部分ニ屬スル故ニ此經過年數ヲ以テ直ニ保存年限ト爲スコトヲ得ス然ラハ幾年ヲ以テ木柵ノ保存年限トスルノ至當トスルヤ調査スルニ從來ノ經驗ヨリ推斷スレハ本道柵材ヲ使用シタルモノハ最長期約十箇年其他ノ堅木材ヲ使用シタルモノハ以上ノ二三割ヲ減シタルモノヲ以テ其保存年限トスヘシ而シテ之ニ適應スヘキ樹木ハ年々減少シツ、アリ木柵ハ建設最モ容易ニ且ツ其費用モ僅少ナリト雖トモ以上ノ如ク僅ニ十年間ノ保存ニ過キササルヲ以テ一間ノ費用金貳拾五錢トセハ一ヶ年當リ即チ貳錢五厘ニ相當シ土壘ハ一間ヲ金壹圓トスルモ特別ノ被害ナキ限リ多大ノ修理費ヲ要セス且ツ永久的ナルヲ以テ木柵ニ比シ有利ナルヘシ然レトモ經營着手ノ當時牧柵ニ多大ノ資金ヲ固定セシムルヲ以テ最上ノ者ナラサルヘシ

四 牛

本場ハ元真駒内牧牛場ト稱シ種牝牛蕃殖牝牛ヲ道内ニ普及シ又乳製品ノ發達ヲ計ルニアリシモノニシテ畜牛ニ就テハ其經歷他ノ家畜ニ比シ最モ古キモノナリ
今畜牛ノ沿革ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 沿革

明治九年 札幌官園假牧場ニ繋留セル種牝牛合計四十七頭ヲ移シテ業務ヲ開始シ真駒内牧牛場ト稱セリ
同十年 東京青山試驗場ヨリ短角種牝牛三頭同種牝牛一頭短角「ハイグレイド」牝牛一頭「デボン」種牝牛二頭ヲ入牧シ千歳郡漁村牧場ニ於テ飼養セシ畜牛ヲ舉テ本場ニ移ス
同十一年 十月露國浦鹽斯德ヨリ牝牛五頭ヲ購入ス
同十三年 畜牛若干頭ヲ千歳郡漁牧場ニ移出ス
同十四年 四月短角種牝牛一頭同種牝牛二頭同種牝牛二頭ヲ第二回内國博覽會ニ出陳シ有功二等賞ヲ得タリ
同十五年 農商務省事業管理局ノ所轄トナリ經營方針ニ改革ヲ加ヘ一箇年ノ經費ハ四千五百九十圓ニ削減セラレタルヲ以テ開拓使ノ方針ヲ繼キ民間牧畜者ノ爲メ特別保護ノ下ニ種牛豚ノ拂下ヲ行ヒ以テ斯業獎勵ノ途ヲ講スルヲ得ス専ラ經濟的經營ノ方法ヲ執ルノ止ムナキニ至レリ即チ一面ニハ支出ニ於テ充分ノ節約ヲ加フルト同時ニ他ノ一面ニハ勉メテ收入ノ増加ヲ圖ラサルヘカラサルカ故ニ從來種用トシテ拂下クヘキ牝牛ノ如キモ骨格拔群ノモノヲ除クノ外皆去勢シテ肉牛或ハ耕牛トシテ賣却セリ
同十八年 十一月米國ヨリ短角種牝牛メーボーク號ヲ購入ス
同十九年 札幌農園ヨリエアシャヤ種牝牛一頭(有球號)同牝牛三頭(第三號農第二十四號農第二十七號)ヲ入牧ス之レ本場エアシャヤ種飼養ノ嚆矢ナリ
而シテ牛馬飼養ノ結果牝牛ノ數ヲ減少シ短角種十五頭改良種十三頭デボン種八頭エアシャヤ種八頭短角雜種一頭計四十五頭ノ優良牛ヲ精選シテ存置スルニ至リ他ハ之ヲ拂下タリ
同二十一年 米國ヨリデボン種牝牛サリト號ヲ輸入ス
同二十二年 十二月米國ヨリエアシャヤ種牝牛ボツバル號短角種牝牛ロイヤルバリーングトン號ヲ輸入ス
同二十四年 札幌郡江別村ニ短角種メーボーク號ヲ出張セシメ民有牝牛十二頭ニ種付ヲナス
同二十五年 札幌區ニ於テ民間ヨリ「ホルスタイン」種牝牛ルスタースタースクロセルデー號ヲ購入スエアシャヤ種牝牛ホツバ

ル號ヲ七重勸業試驗場ニ移ス

同二十七年 九月七重分場ヲ廢シテ之ヲ民間ニ拂下ケ短角種牝牛第三百三十八號同種牝牛第九十號第百一號エアシャヤ種牝牛ホツバル號計六頭ヲ移入セリ此年貸與種牝牛不足ヲ生シタルヲ以テ札幌農學校ヨリエアシャヤ種牝牛厚志別號樽川號札幌郡篠路村茨戸堀農場ヨリ同種牝牛堀第八號堀第二十一號ヲ購入セリ
又道内牛ノ種類ヲ一定セントシ種々審議ノ結果本道ノ氣候風土ニ適シ從來ノ成績良好ナリト認ムヘキモノヲ選定シエアシャヤ種短角種ト決定シ同時ニ嚴重ニ種畜ノ選擇ヲ行ヒ牛二十六頭ヲ排除セリ而シテ從來種牛トシテ飼養セルデボン種牝牛サリユート號第二サリユート號第四サリユート號同牝牛札第三十七號紅號芙蓉號明石號良辰號アリユーズド一號ホルスタイン種牝牛ルスタースクロセルデー號第二ルスタースクロセルデー號等ヲ學生教授用トシテ札幌農學校ヘ移セリ此歲札幌郡茨戸農場ヨリエアシャヤ種牝牛第十五號ヲ購入ス
同二十八年 エアシャヤ種牝牛ビユーチー號同牝牛第二ホツバル號短角種牝牛第二初菊號同牝牛第四バリーングトン號ヲ京都ニ開カレタル第四回内國博覽會ニ出陳シ大ニ好評ヲ得タリ
同二十九年 此年土中ニ穴ヲ穿テ假リニ粗造ナル「サイロ」ヲ造リニ番牧草並ニ玉蜀黍稈ヲ寸斷混和シテ「エンシレーシ」ヲ製シ稍佳品ヲ得之レヲ牛羊ニ與フ
同三十年 五月學生教授用トシテ短角種牝牛一頭同ハイグレイド牝牛一頭ヲ北海道尋常師範學校ニ移ス
同三十一年 八月短角種牝牛第十四バリーングトン號ヲ札幌農學校ニ移ス五月篠路村前田農場ヨリエアシャヤ種牝牛第二十三號ヲ購入ス
同三十四年 落雷ノ爲メ火災ヲ起シ牝牛六十一頭ヲ燒失シ多大ノ損失ヲ來セリ
牝牛岩號札幌郡前田農場ヨリエアシャヤ種牝牛グランドエセルバスター號第八秋號雜種牝牛第八十三號同第八十六號根室山縣牧場ヨリエアシャヤ種牝牛第四十六號第五十八號第六十號第六十六號龜田郡園田牧場ヨリエアシャヤ種牝牛園田號
同三十六年 昨年出張ノ購買官ノ購買セル英國產エアシャヤ種牝牛ロッドジョージ號ヲ返還セシメタリ
種牝牛バーボヒ號バチエスキーパーツ號第二スノードロツプ號モングランドマリ一號短角種牝牛二頭ゴールデンカウ
ント號ラツチントンブリ、アンドスター一號同種牝牛二頭シツチートンギニアラツシユ號第三アッキングレイス號到着セリ
同四十二年 此歲農商務省ニ委託シ英國ヨリエアシャヤ種牝牛オーケンブレインタフト號ボロームスキングオブゼアイル
ス號同種牝牛二レーターベツメホワイター一號短角種牝牛バブラハムモナーク號アドポールトンマリオキンク號合計五頭
ヲ購入セリ

同四十四年 前年英國ヨリ購買豫定ノヘレフオード種牝牛ハレリアマイノス號プロツソム三世號無事到着セリ
 以上沿革ニ就セル如ク本場ハ牧牛場トシテ開始シタル來歴ヲ有シ從テ畜牛ニ對シテハ馬羊豚家禽等ニ比シ經歷ニ富ミ又其
 頭數多シ今明治十九年以降大正三年ニ至ル畜牛四年末現在表ヲ舉クレハ左ノ如シ

年次	種別	性	本場	貸	付	計
十九年	短角種	牝	一〇	六	三	一九
	同ハイグレイト種	牝	三〇	一	三	三〇
二十年	短角種	牝	四七	一	一	四八
	同ハイグレイト種	牝	三三	一	一	三三
二十一年	短角種	牝	三六	一	一	三六
	同ハイグレイト種	牝	五五	一	一	五五
二十二年	短角種	牝	五八	一	一	五九
	同ハイグレイト種	牝	四四	一	一	四五
二十三年	短角種	牝	三一	一	一	三二
	同ハイグレイト種	牝	四三	一	一	四四
二十四年	短角種	牝	二二	一	一	二三
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
二十五年	短角種	牝	一四	一	一	一五
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
二十六年	短角種	牝	一四	一	一	一五
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
二十七年	短角種	牝	二二	一	一	二三
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
二十八年	短角種	牝	一三	一	一	一四
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
二十九年	短角種	牝	一三	一	一	一四
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
三十年	短角種	牝	二二	一	一	二三
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三

年次	種別	性	本場	貸	付	計
十九年	短角種	牝	一〇	六	三	一九
	同ハイグレイト種	牝	三〇	一	三	三〇
二十年	短角種	牝	四七	一	一	四八
	同ハイグレイト種	牝	三三	一	一	三三
二十一年	短角種	牝	三六	一	一	三六
	同ハイグレイト種	牝	五五	一	一	五五
二十二年	短角種	牝	五八	一	一	五九
	同ハイグレイト種	牝	四四	一	一	四五
二十三年	短角種	牝	三一	一	一	三二
	同ハイグレイト種	牝	四三	一	一	四四
二十四年	短角種	牝	二二	一	一	二三
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
二十五年	短角種	牝	一四	一	一	一五
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
二十六年	短角種	牝	一四	一	一	一五
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
二十七年	短角種	牝	二二	一	一	二三
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
二十八年	短角種	牝	一三	一	一	一四
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
二十九年	短角種	牝	一三	一	一	一四
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三
三十年	短角種	牝	二二	一	一	二三
	同ハイグレイト種	牝	一	一	一	三

四十三年				四十二年				四十一年				四十年				三十九年	
洋	短	エ	小	洋	短	エ	小	洋	短	エ	小	洋	短	エ	小	洋	短
種	種	種	計	種	種	種	計	種	種	種	計	種	種	種	計	種	種
牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝
八一	三六	八七	一七〇	二七	七五	一四	二〇六	三六	三七	九三	一六六	六九	二八	二四	二二〇	三八	三七
八	三	四	一五	三	二	一	六	九	六	八	二二	一〇	四	四	一八	四	一
一六一	五五	六七	一七九	九六	一五	一八	二二九	一八	九七	五三	二七〇	二九	六八	五四	一五〇	六八	四七

大正二年				大正五年				四十四年			
内	洋	短	小	内	洋	短	小	内	洋	短	小
種	種	種	計	種	種	種	計	種	種	種	計
牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝
三九	二一	一四	七四	五八	三〇	一一	九九	五三	一一	五	六九
一	一	一	三	一	一	一	三	一	一	一	三
三九	二一	一四	七四	五八	三〇	一一	九九	五三	一一	五	六九

三十四年				三十三年				三十二年				三十一年				年次
小	短	エ	小	小	短	エ	小	小	短	エ	小	小	短	エ	小	種
種	種	種	計	種	種	種	計	種	種	種	計	種	種	種	計	別
牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	性
三三	五六	一五	一〇四	二七	〇六	一六	四九	三三	〇八	一五	五六	三九	一五	二二	七六	本場
七	三	一	一一	一	一	一	三	一	一	一	三	一	一	一	三	貸
三三	五六	一五	一〇四	二七	〇六	一六	四九	三三	〇八	一五	五六	三九	一五	二二	七六	付
三三	五六	一五	一〇四	二七	〇六	一六	四九	三三	〇八	一五	五六	三九	一五	二二	七六	計

三十八年				三十七年				三十六年				三十五年				年次
短	小	洋	エ	短	小	洋	エ	短	小	洋	エ	短	小	洋	エ	種
種	種	種	計	種	種	種	計	種	種	種	計	種	種	種	計	別
牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	性
一八	二九	一七	六四	二七	二六	〇六	五九	一七	一四	二九	六〇	一六	一五	四九	八〇	本場
一	一	一	三	一	一	一	三	一	一	一	三	一	一	一	三	貸
一八	二九	一七	六四	二七	二六	〇六	五九	一七	一四	二九	六〇	一六	一五	四九	八〇	付
一八	二九	一七	六四	二七	二六	〇六	五九	一七	一四	二九	六〇	一六	一五	四九	八〇	計

年次	種別	種計		本場	貸付	計	年次	種別	種計		本場	貸付	計
		種	計						種	計			
大正三年	雜種	一	一	一	一	二	大正三年	雜種	一	一	一	一	二
	小計	一	一	一	一	二		小計	一	一	一	一	二
大正二年	雜種	一	一	一	一	二	大正二年	雜種	一	一	一	一	二
	小計	一	一	一	一	二		小計	一	一	一	一	二
大正元年	雜種	一	一	一	一	二	大正元年	雜種	一	一	一	一	二
	小計	一	一	一	一	二		小計	一	一	一	一	二

右表ニ依リ之レヲ見レハ在場牛及貸付牛ハ年ニヨリ多少ノ増減アリト雖モ大体ニ於テハ増加ノ趨勢ヲ有シ殊ニ明治二十九年ニ至リ俄然頭數ヲ増加シ爾來増減ヲ示シツ、アルモ同四十二年ニ至リ再ヒ著シク増加セシハ何レモ戰爭後畜牛振興ノ大勢ニ伴ヒタルモノト見ルヘシ牡牛ニアリテモ大体牝牛ノ増加ニ伴ヒタルモ日清日露ノ戰役後著シク増加ヲ示セリ若シ種類ヨリ之レヲ見レハ最初ハ短角種同ハイグリード種デボン種エアシヤ一種等ナリシモ同二十五年ニ至リホルスタイン種牝牛ヲ購入シ種類ヲ増加シタルモ同二十七年牛馬ノ種類ヲ一定シタル結果エアシヤ一種短角種ニ限ラレタルモ其後返納牛等アリテ同三十一年迄ハ二種類ナラサリシモ同三十二年以降二種類トナリ同四十四年ニ至リヘレンフォード種ヲ加フルニ至レリ大正元年ニ至リ和牛ヲ加ヘシハ試驗牛ニシテ種類ニ關係ナキモノナリ

今大正二年現在本場種牡牛ヲ表示スレハ左ノ如シ

種別	名	號	生年	月	体尺	體重	產地	血統	購入價格	使用年限
短角種	エアシヤ一種	オーケンブレンドタフト	明治四十一年四月		三三〇	英國	父、オーケンブレンドタフト 母、ホワイトヒューチー	五〇	明治四十三年ヨリ	
同	同	キングオブセアイルス	同 四十一年三月		一七二	同	父、ハクウスグイスコット 母、クオンアブセアイルス	五〇	同	
同	同	第四十三	同 四十二年四月		二〇五	本場	父、ロードザロウ 母、第三スノードロップ	評價五〇	明治四十四年ヨリ	
同	同	第四十三	同 四十二年四月		二〇五	本場	父、ロードザロウ 母、第三スノードロップ	評價五〇	明治四十四年ヨリ	
同	同	第四十三	同 四十二年四月		二〇五	本場	父、ロードザロウ 母、第三スノードロップ	評價五〇	明治四十四年ヨリ	
同	同	第四十三	同 四十二年四月		二〇五	本場	父、ロードザロウ 母、第三スノードロップ	評價五〇	明治四十四年ヨリ	
同	同	第四十三	同 四十二年四月		二〇五	本場	父、ロードザロウ 母、第三スノードロップ	評價五〇	明治四十四年ヨリ	
同	同	第四十三	同 四十二年四月		二〇五	本場	父、ロードザロウ 母、第三スノードロップ	評價五〇	明治四十四年ヨリ	
同	同	第四十三	同 四十二年四月		二〇五	本場	父、ロードザロウ 母、第三スノードロップ	評價五〇	明治四十四年ヨリ	

種牡候補牛現在表 (大正二年)

種別	名	號	生年	月	体尺	體重	產地	血統	購入價格	使用年限
同	エアシヤ一種	第八オーケンブレンドタフト	明治四十五年七月		二四〇	同	父、エンチヤンター 母、ロイヤルメーデンフヒラス	一五〇	同	
同	同	第十七オーケンブレンドタフト	大正二年五月		二四五	同	父、ロイヤルメーデンフヒラス 母、レイアメソット	一五〇	同	
同	同	第十七モナーイグ	同 二年四月		二四五	同	父、ロイヤルメーデンフヒラス 母、レイアメソット	一五〇	同	
同	同	第十七モナーイグ	同 二年四月		二四五	同	父、ロイヤルメーデンフヒラス 母、レイアメソット	一五〇	同	
同	同	第十七モナーイグ	同 二年四月		二四五	同	父、ロイヤルメーデンフヒラス 母、レイアメソット	一五〇	同	
同	同	第十七モナーイグ	同 二年四月		二四五	同	父、ロイヤルメーデンフヒラス 母、レイアメソット	一五〇	同	
同	同	第十七モナーイグ	同 二年四月		二四五	同	父、ロイヤルメーデンフヒラス 母、レイアメソット	一五〇	同	
同	同	第十七モナーイグ	同 二年四月		二四五	同	父、ロイヤルメーデンフヒラス 母、レイアメソット	一五〇	同	
同	同	第十七モナーイグ	同 二年四月		二四五	同	父、ロイヤルメーデンフヒラス 母、レイアメソット	一五〇	同	

以上候補ニ就テハ場内生産牛ヲ以テシ別ニ購入計畫ヲ見サル所ナリ
種牡牛ノ種類ハ明治二十七年以降エアシヤ一種短角種ト定メ其純粹蕃殖ヲナシ之レヲ民間ニ貸付シ又餘勢ノ種付ヲナス所ナリト雖モ明治四十四年ヘレンフォード種ノ輸入ヲナシ肉牛ノ改良蕃殖ノ試驗ヲナシツ、アリ今大正二年末貸付種牡牛年齢別表ヲ舉クレハ左ノ如シ

支廳	種別	類種	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計
札幌	支	短エ										
空知	支	短エ										
上川	支	短エ										
後志	支	短エ										
檜山	支	短エ										
南館	支	短エ										
室蘭	支	短エ										
浦河	支	短エ										
支廳	支	短エ										
計												

支	河	銅	根	網	宗	增	支
別	支	支	支	支	支	支	支
類	類	類	類	類	類	類	類
才	才	才	才	才	才	才	才
才	才	才	才	才	才	才	才
才	才	才	才	才	才	才	才
才	才	才	才	才	才	才	才
才	才	才	才	才	才	才	才
才	才	才	才	才	才	才	才
才	才	才	才	才	才	才	才
才	才	才	才	才	才	才	才
才	才	才	才	才	才	才	才
才	才	才	才	才	才	才	才
計	計	計	計	計	計	計	計

右表ニヨレハ大正二年未現在貸付種付牝牛ハ總數六十五頭ニシテエアシヤ一種三十九頭ニシテ六〇%ヲ占メ短角種ハ十七頭ニシテ二六、一%ヲ占メエアシヤ一種短角種ハ九頭ニシテ三、九%ナリ而シテ種牝牛ノ貸付數最モ多キ支應ハ銅路支應ニシテ二〇、〇%ノ多キヲ占ム最モ少ナキハ根室支應ナリ之レヲ種類別ヨリ見ルトキハ銅路支應ハ短角種十頭ノ貸付ヲ受ケ貸付短角種牝牛ノ約六〇%ヲ占メエアシヤ一種ノ貸付種牝牛多キハ室蘭支應ニシテ同種中二〇、五%ニ當レリエアシヤ一種及短角種ノ貸付種牝牛多キハ河西銅路ノ二支應ニシテ同種中各二二、二%ヲ有セリ更ニ年齡別ヨリ之レヲ見レハ四才種牝牛數最モ多ク其前後ハ次第二數ヲ減スルヲ見ルヘク四才種牝牛ハ全數ノ四六、〇%ニ當リ三才種牝牛ハ三〇、七%ニ才及五才種牝牛ハ二三、〇%六才種牝牛ハ二〇、三%七才種牝牛ハ約一三、〇%ニシテ其他ハ極メテ少數ナル十一才ノ種牝牛ヲ貸付セルハ種々ノ事情存スヘシト雖モ大ニ注意ヲ要スル所ナリ

(イ) 種牝牛種付表

年次	種別	頭數	短角種	エアシヤ種	アヴオン種	ハイクレッド種	ヘルフォード種	洋種	雜種	計
三十五年	小エアシヤ種	二	三	三						五
	短角種	一	一	一						二
	エアシヤ種	一								一
	計									

年次	種別	頭數	短角種	エアシヤ種	アヴオン種	ハイクレッド種	ヘルフォード種	洋種	雜種	計
三十六年	小エアシヤ種	八	八	九						一七
三十七年	小エアシヤ種	四	一	三						四
三十八年	小エアシヤ種	三	一	二						三
三十九年	小エアシヤ種	四	二	二						六
四十年	小エアシヤ種	四	一	三						四
四十一年	小エアシヤ種	六	一	五						一六
	計									

年次	四十二年			四十三年			四十四年			大正元年			大正二年		
	種別	短角種	エアシヤ種	種別	短角種	エアシヤ種	種別	短角種	エアシヤ種	種別	短角種	エアシヤ種	種別	短角種	エアシヤ種
頭數	二	三	五	三	六	九	二	四	六	二	四	七	二	四	七
場外	一	二	三	一	二	三	一	二	三	一	二	一	二	三	四
場内	一	一	二	二	四	六	一	二	三	一	二	六	二	一	三
短角種	一	二	三	一	二	三	一	二	三	一	二	一	二	三	四
エアシヤ種	一	一	二	二	四	六	一	二	三	一	二	六	二	一	三
アウオン種															
ハイタレット種															
ヘレフォード種															
洋種															
雜種															
計	二	三	五	三	六	九	二	四	六	二	四	七	二	四	七
計	二	三	五	三	六	九	二	四	六	二	四	七	二	四	七

右表ニヨルトキハ蕃殖牝牛ニ對シ種牝牛數比較的多キヲ示シエアシヤ種牝牛ハ明治四十三年以前ハ同三十六年ヲ除キ三頭以下ニシテ從テ種付頭數多カリシモ同四十三年種牝牛數六頭ニ増加シ同四十四年以降四頭ヲ持續スルヲ以テ種付頭數四十三年度ヨリ遙ニ少數ナリ短角種ニアリテハ明治三十六年四頭ヲ繁留シタルハ最多ニシテ四十一年四十三年ハ三頭ナルモ其他ハ二頭ヲ繁留シ蕃殖牛比較の少ナキヨリ種付頭數又少ナキヲ見ル所ナリ

本場ニ於ケル種付ハ製酪上通年平均ノ乳量ヲ上クルヲ要スルヲ以テ其時期一定セス民間ニ於テ近年畜牛ノ飼養集約ニ進ミツ、アリテ種付時期ヲ一定セサルモ分娩期ハ五月、六月七月多シ

種付時期及回数
種付回数ハ一社一日二回ヲ限度ト同牝牛ニ對スル種付回数ハ一回乃至二回二分ニシテ平均一回九分ニ當レリ種付料ハ各種牝牛共同ニシテ一頭三圓ナリ

蕃殖牝牛
蕃殖牝牛ハエアシヤ種短角種及ヘレフォード種ノ牝牛ニ限リエアシヤ種牝牛二頭ヘレフォード牝牛一頭ハ英國産ナルモ他ハ全部本場生産牝牛ナリ今大正二年末現在蕃殖牝牛年齡別表ヲ舉クレハ左ノ如シ

種別	エアシヤ種			短角種			ヘレフォード種		
	種	種	種	種	種	種	種	種	
頭數	二	三	五	三	六	九	二	四	七
場外	一	二	三	一	二	三	一	二	三
場内	一	一	二	二	四	六	一	二	四
短角種	一	二	三	一	二	三	一	二	三
エアシヤ種	一	一	二	二	四	六	一	二	四
アウオン種									
ハイタレット種									
ヘレフォード種									
洋種									
雜種									
計	二	三	五	三	六	九	二	四	七
計	二	三	五	三	六	九	二	四	七

右表ニ依レハエアシヤ種牝牛ハ八〇、三%短角種一八、一八%ヘレフォード種一、五二%ノ割合ヲ保チ年齡別ヨリ之レヲ見レハ三才以上八才ノ牝牛ハ七四、二四%九才以上ノ牝牛ハ二一、二二%二才牝牛ハ四、五五%ニ當レリ

更ニ蕃殖牝牛ノ体尺体量ヲ表示スレハ左ノ如シ

右表ニヨレハエアシャー種四才以上牝牛四十頭中四尺以上ノモノ三十九頭ニシテ体重百三十貫以上即チ一千斤以上ノモノ三十二頭ナルヲ見レハ一般ニ體輕少ナルノ嫌アルヲ以テ注意ヲ要スル所ナリ又短角種ニアリテハ四才以上牝牛十頭中四尺一寸以上ノモノ十頭ニシテ體重ニアリテハ百五十貫以上ノモノ五頭ナルヨリ之ヲ見レハ體重ニ於テ稍輕キヲ認ムヘシ今蕃殖牝牛母系ヲ調査スルハ左ノ如シ

Table with columns: 系 (Breeds), 統 (Groups), 産地 (Origin), 所産 (Origin), 名 (Names), 號 (Numbers), 頭數 (Counts). Lists various breeds like エアシャー種, エセルパター系, etc., with their respective origins and counts.

右表ニ徵スルトキハエアシャー種ニアリテハ蕃殖牝牛ヲ生産シタルモノ最多キハ第十一ヒユチー號ニシテ十六頭ノ多キヲ占メ之ニ次クハ第三スノードロップ系ニシテ十頭ニ達シ之ニ次クハ第五エセルパター號系ノ八頭ナリ其他ハ大差ナシ短角種ニアリテハ第七號系最多數ニシテ四頭ナリ他ハ大差ナク極メテ小數ナリ同種ニモ優良種アリシト雖モ明治四十三年一時ニ短角牝牛ヲ拂出シタルヲ以テ減少セシモノナリ

Table showing pregnancy rates (受胎頭數及率) for different years from 1907 to 1911. Columns include year, number of pregnancies, and percentage rate.

右表ニヨレハ受胎率ハ最高八八、五%最低七四、六%ニシテ平均八三、八%ナリ (口) 蕃殖牝牛懷胎日數

Table showing average pregnancy periods (懷胎日數) for different years (1907-1911) and breeds (短角種, 牝種, 牝種). Columns include year, breed, and average days.

年次	種要項				種類	頭數	平均	最長	最短	平均	最長	最短
	平	最	最	頭								
大正二年	均	短	長	數	牝	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三
	均	短	長	數	牝	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三
大正元年	均	短	長	數	牝	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三
	均	短	長	數	牝	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三
四十四年	均	短	長	數	牝	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三
	均	短	長	數	牝	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三
四十三年	均	短	長	數	牝	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三
	均	短	長	數	牝	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三	二八六	二八三

右表ニヨリ之レヲ見レハ種類ニヨリ懷胎日數ニ多少長短アルモノ、如ク又牝牡ニヨリ長短アルヲ見ルヘシ即チエアシャイ種ニアリテハ牝ハ牝ヨリモ一般ニ長ク其平均日數ニ於テ六日八分長シ又短角種ニアリテハ牝牛ノ最長日數ハ牝牛ノ最長日數ヨリ三十四日長キ例外ヲ見ルモ牝牛ハ牝牛ヨリ一般ニ長ク平均日數ニ於テモ約一日長キヲ見ル所ナリ又エアシャイ種及短角種ニアリテハ牝ノ最短ハ牝ノ最短ヨリ六日短キ例外アルモノ一般ニ牝ハ牝ヨリ長ク平均日數ニ於テ二日長キヲ見ルヘシ而シテ種類ノ比較ヲナストキハ大体ニ於テエアシャイハ短角種ヨリ懷胎日數長ク短角種ハエアシャイ短角種ヨリモ長キヲ見ル所ナリ

(ハ) 累年畜牛生産數率

年次	前年度牝牛種付數	性	頭數	生産數	計數	生産百分率
明治三十五年	一七	牝	二九	四九	一三	七六〇
同 三十六年	二九	牝	三二	四三	二六	八九〇
同 三十七年	五三	牝	三二	四四	二六	八三〇
同 三十八年	五五	牝	三二	四三	二六	七六〇
同 三十九年	四四	牝	三二	四三	二六	五二〇
同 四十年	五五	牝	三二	四三	二六	六八〇
同 四十一年	五五	牝	三二	四三	二六	七九〇
同 四十二年	六六	牝	三二	四三	二六	八二〇
同 四十三年	七三	牝	三二	四三	二六	八三〇
同 四十四年	七三	牝	三二	四三	二六	八三〇
大正元年	六六	牝	三二	四三	二六	七八〇
同 二年	六六	牝	三二	四三	二六	七七〇
計	六六	牝	三二	四三	二六	七五〇
平均生産率						七五〇

右表ニ依リ之レヲ見ルトキハ種畜場ニ於テハ近年種付牝牛頭數次第ニ増加シツ、アト雖モ生産率ハ却テ低率ヲ示ス有様ニシテ過去十二ヶ年ノ平均生産率ハ七五、四%ナリ是等ハ前表調査ノ如ク受胎率ニ於テ低率ヲ見ルノミナラス流産死産ニ於テ研究調査未タ定カラサルノ致ス處ト言ハサルヘカラス

(ニ) 死産流産數及率

年次	受胎數	死産數	率	流産數	率	合計
明治四十一年	五三	三一	五八	三三	六一	四四
同 四十二年	六〇	三一	五二	三三	五五	四九

年次	受胎數	死數	産率	流産數	産率	合計率
明治四十三年	56	2	80.2	1	1.5	81.7
同 四十一年	55	2	80.0	1	1.5	81.5
同 四十年	56	3	80.6	4	6.0	74.6
大正二年	56	3	80.6	4	6.0	74.6
同 元年	56	3	80.6	4	6.0	74.6
平均	56	3	80.6	4	6.0	74.6

右表ニヨレハ死産流産共ニ稍多キヲ見ルヲ以テ之レカ研究ヲ要スル所ニシテ大正三年流産豫防法研究ノ目的ヲ以テメチーレンブラウノ服用試験ヲ行ヒタリ然レモ未タ其効果明ナラス

(ホ) 搾乳及製酪

大正二年度ニ於テ搾乳ニ供用セシ牝牛ハエーア種五十三頭短角種十八頭計七十一頭ナリ之レカ一ケ年ノ延頭數ハ一万三千九百八十八頭ニシテ總搾乳量七百三十四石九斗五升一合トス故ニ一日平均三十八頭三分二厘強此ノ搾乳量二石〇一升三合餘一日一頭平均搾乳量ハ五升二合六勺餘ナリ尙ホコレヲ種類別ニ舉クレハ「エーア種」一ケ年延頭數一萬一千四百七十八頭ニシテ其ノ搾乳量六百二十一石九斗六升一日平均三十一頭四分三厘此ノ搾乳量一石七斗〇六合八勺一日一頭平均五升四合二勺短角種一ケ年ノ延頭數二千五百一十一頭其ノ搾乳量百一十一石六斗一升五合一日平均六頭八分八厘其ノ搾乳量三斗〇六合一頭平均四升二合六勺トス

以上總搾乳量ノ内犢哺育用及ヒ其他ノ家畜ニ給與セシモノ百〇七石〇五升生乳ノ儘拂下タルモノ十二石七斗八升九合ヲ控除シタル殘量六百一十一石二斗四升一合ヲ以テ牛酪九千五百十二斤八分ヲ製出セリ即チ牛酪一斤ニ付キ牛乳六升四合二勺餘ヲ要シ一日平均二十六斤〇厘ヲ製出シタル割合ナリ全乳汁「クリーム」分離量トノ割合ハ一割一分餘ニシテ其渣乳五十四石四斗九升三合ハ犢哺育及ヒ鶏豚ニ給與セリ

(イ) 搾乳

搾乳ハ朝夕二回ニ行ヒタルモノニシテ夏期ハ晝夜共放牧シ居ルヲ以テ搾乳ハ其ノ都度放牧地ヨリ牛舎ニ收容シ飼料給與ト共ニ搾乳セリ然レトモ七、八月ノ兩月ハ炎暑又ハ蚊虻ノタメ日中放牧スルモ放牧地ニ於テ充分ニ採食スルヲ得サルヲ以テ此ノ期間ハ特ニ夜間及ヒ朝夕ノミ放牧シ日中ハ牛舎ニテ別ニ刈り取りタル青牧草ヲ給與セリ冬期ハ朝飼給與後直チニ第一回ノ搾乳ヲナシ第二回ノ搾乳ハ夕飼給與後トセリ乳牛ノ飼料中「サイレーシ」ハ一種特有ノ香氣ヲ有シ其香氣カ自然乳汁ニ感染スルノ虞アルヲ以テ本品ニ限リ必ス搾乳ニ給與スルヲ常例トセリ

今搾乳ノ狀態ヲ月別ニテ表示スレハ左ノ如シ

月別搾乳表

月次	搾乳總量	延頭數	均一日一頭平均搾乳量	搾乳量	延頭數	均一日一頭平均搾乳量	搾乳量	延頭數	均一日一頭平均搾乳量
四月	565.3	112	5.05	47.8	83	5.75	93.8	33	2.84
五月	679.3	135	5.03	49.8	77	6.47	181.6	27	6.73
六月	857.6	143	6.00	68.5	94	7.30	176.8	37	4.78
七月	838.3	143	5.86	69.3	94	7.37	176.8	37	4.78
八月	789.0	146	5.40	69.9	94	7.45	176.8	37	4.78
九月	682.8	137	4.99	65.9	83	7.94	129.6	31	4.18
十月	580.3	126	4.60	58.3	73	7.99	129.6	31	4.18
十一月	501.9	103	4.87	52.0	53	9.83	110.7	26	4.26
十二月	460.9	93	4.96	46.3	36	12.86	100.0	16	6.25
一月	419.0	83	5.05	41.0	36	11.42	94.0	16	5.88
二月	494.0	99	4.99	49.3	35	14.09	100.0	16	6.25
三月	514.5	100	5.15	48.4	34	14.53	100.0	16	6.25
平均	623.6	127	4.91	51.3	83	6.18	120.1	30	4.00

(2) 檢乳

本年度内蕃殖ニ供シタル牝牛七十一頭ノ内搾乳セシ頭數四十七頭及ヒ前年度ヨリ引キ續キ搾乳セシモノ二頭ヲ加ヘタル四十九頭ニ對シ初乳期ヲ經過シタル後一週間ツ、檢乳シタル成績ヲ各種類別ニ表示セハ左ノ如シ

檢乳表

種	頭数	平均	備
エーアシャー種	四二	三三.四九三	本種ノ内ニ脂肪高キハ四〇〇ニシテ最モ抵キハ三〇〇ナリ本種ノ内脂肪率ノ最モ高キハ四六〇ハニシテ最モ抵キハ三〇七四ナリ
短角種	四七	三二.四一〇	
平均	四九	三三.六三五	

エーアシャー種能力成績 (大正二年度)

名	號	總搾乳量	搾乳日數	一日平均乳量	總脂肪量	脂肪含有量	分娩	月日	産次
第一	三	六八一九〇	二二七	七五二	二二五九四	三九〇	(大正二)	七月十五日	三
第二	三	一七、四七五	二二八	七五五	二二二二五	三〇九	(同)	四月廿日	三
第三	三	一七、九二五	二二六	六三六	二二七四八	三六五	(同)	六月一日	四
第四	三	一七、〇八〇	二二〇	五八五	二六六七六	三八〇	(同)	六月卅日	四
第五	三	一七、〇〇〇	二二〇	五八五	二六六七六	三八〇	(同)	六月卅日	四
第六	三	一七、〇〇〇	二二〇	五八五	二六六七六	三八〇	(同)	六月卅日	四
第七	三	一七、〇〇〇	二二〇	五八五	二六六七六	三八〇	(同)	六月卅日	四
第八	三	一七、〇〇〇	二二〇	五八五	二六六七六	三八〇	(同)	六月卅日	四
第九	三	一七、〇〇〇	二二〇	五八五	二六六七六	三八〇	(同)	六月卅日	四
第十	三	一七、〇〇〇	二二〇	五八五	二六六七六	三八〇	(同)	六月卅日	四

製酪ニ供用スル牛乳ハ「アルファ」デラバセバレターヲ以テ其、クリームヲ分離シ渣乳ハ積及ヒ鶏豚ニ與ヘ「クリーム」

ハ一定時間内酸酵セシメタル後製酪ス本場製酪ノ特色トスル處ハ四季ヲ通シテ其色淡黄色即チ「バター」色ヲ呈スルニアリ殊ニ夏季ニ於テ乳牛青草ニ付キ「クローバー」其他ノ若芽ヲ食シタル場合ニ於テ其色最モ濃厚ナリ一年ヲ通シテ牛酪製出量ノ最モ多キハ例年六七八九ノ四ヶ月ナリ今製酪ノ状態ヲ月別ニ表示スレハ左ノ如シ

月別製酪表

月	次	製酪ニ要シタル牛乳量	製出量	脱脂乳量	牛酪一斤ニ對スル牛乳量	一日平均製造斤數
四月	一	四四、〇九二	七三.三五	三九.一六〇	六一.八	二三八
五月	一	五五.八八二	八八.〇三	四九.六四〇	六三.五	二八四
六月	一	七三.一七八	一一七.〇	六五.二八〇	六三.五	三七一
七月	一	七二.七三九	一一四.〇	六四.八八〇	六三.〇	三三三
八月	一	六八.五二九	一一〇.五五〇	六一.〇五〇	六一.〇	三三九
九月	一	五七.九九七	九〇.八〇	五一.六九〇	六一.〇	三三九
十月	一	四七.九九一	七四.六五	四二.七八〇	六一.〇	三三九
十一月	一	三八.九九三	六三.三五	三四.七八〇	六一.〇	三三九
十二月	一	三〇.〇七二	六一.〇	三四.二二〇	六一.〇	三三九
平均	一	五〇.九三七	九五.二二八	五九.九三〇	六一.〇	三三九

今明治三十五年以降貸付種牝牛累年表ヲ擧ケレハ左ノ如シ

(五) 貸付種牝牛

年	次	札幌	空知	上川	後志	檜山	函館	室蘭	浦河	河内	釧路	根室	網走	宗谷	増毛	札幌	小樽	函館	計
明治三十五年	一	八	二	二	二	一	二	二	五	八	三	二	一	一	三	一	一	一	七九
同 三十六年	一	六	一	一	一	一	一	二	五	八	三	二	一	一	二	一	一	一	七五
同 三十七年	一	二	一	一	一	一	一	二	五	八	三	二	一	一	二	一	一	一	七一
同 三十八年	一	三	一	一	一	一	一	二	五	八	三	二	一	一	三	一	一	一	七二
同 三十九年	一	四	一	一	一	一	一	二	五	八	三	二	一	一	三	一	一	一	七六

平均價格ハ九十圓九十錢ニシテ稍低廉ナルヲ見ルヘシ短角種ニアリテハ二才三才牛ハ牝牛ハ牝牛ニ比シ高價ニシテ壯齡牛ニアリテハ牝牛ハ牝牛ヨリ高價ヲ示シ平均價格ニアリテハ牝牛百圓六十九錢ニシテ牝牛ハ百十六圓六十五錢ナリ又短角種ニアリテハ牝牛ハ牝牛ヨリ遙ニ高價ニシテ平均價格ニアリテハ牝牛ハ八十九圓六十錢ニシテ牝牛ハ百九十六圓ニ當レリ

(七) 飼養管理

(イ) 積 哺 育 法

大正元年度内ニ生産シタル種牝計六十頭ノ内「エアシヤア」種牝十三頭、同種牝十二頭、短角種牝五頭、同種牝九頭合計三十九頭ハ年度内六箇月ノ間ニ於テ人工哺育ヲ施行セリ、之ニ要シタル乳汁並其他ノ飼料品ヲ種類、性別ニ平均日量總日數及其數量等ヲ區分シテ之ヲ算出スレハ左表ノ通ニシテ以上積ノ内育成中最モ多量ノ乳汁ヲ要シタルモノハ「エアシヤア」種牝ニ在リテハ全乳八十五日間此量一石九斗五合、脱脂乳百九十日此量七石八斗八升、同牝ニ在リテハ全乳八十六日此量二石三斗二升、脱脂乳百九十一日此量七石五斗四升五合、短角種牝ニ在リテハ全乳八十四日此量一石七斗六升五合、脱脂乳二百日八石二斗九升五合、同牝ニ在リテハ全乳八十六日二石一斗三升、脱脂乳百七十八日此量七石六斗七升ニシテ最モ少量ノ乳汁ヲ要シタルモノハ「エアシヤア」種牝ニ在リテハ全乳五十九日此量一石四斗九升五合、脱脂乳百七十三日此量七石四斗七升五合、同種牝ニ在リテハ全乳六十七日此量一石六斗七升、脱脂乳百七十三日此量七石六斗四升、短角種牝ニ在リテハ全乳六十九日此量一石五斗四升、脱脂乳百七十二日、此量七石三斗九升、同種牝ニ在リテハ全乳七十一日此量一石四斗六升、脱脂乳百七十三日此量六石五斗七升六合ナリ、乳汁以外ノ飼料ハ生後二十日前後ヨリ一房四頭ニ付キ一日數一斤、割燕麦一升位ヲ給與シ以テ漸次之ニ慣レシメ追次其量ヲ増加シテ約等分ノ全乳ト脱脂乳トヲ給與スルトキニ至レハ左表ノ飼料ヲ給與スト雖トモ本飼料ハ未タ哺乳期間中ノ間食ニ止マリ自ラ此等ノ飼料ヲ嗜好スルニ至ルハ生後二箇月半乃至三箇月位ヨリ以後ナリトス、當場ニ於テ去勢ハ之ヲ行ハス

エアシヤア種牝十二頭平均哺育量

(期間百八十八日)

Table with 12 columns for various feed items and their quantities for 12 cows. Items include 初乳, 全乳, 脱脂乳, 亞麻仁, 割燕麦, 乾草, 牧草, 油, 鹽. Values are listed in liters and kilograms.

エアシヤア種牝十三頭平均哺育量

(期間百九十一日)

Table with 13 columns for various feed items and their quantities for 13 cows. Items include 初乳, 全乳, 脱脂乳, 亞麻仁, 割燕麦, 乾草, 牧草, 油, 鹽. Values are listed in liters and kilograms.

短角種牝九頭平均哺育量

(期間百八十八日)

Table with 9 columns for various feed items and their quantities for 9 cows. Items include 初乳, 全乳, 脱脂乳, 亞麻仁, 割燕麦, 乾草, 牧草, 油, 鹽. Values are listed in liters and kilograms.

短角種牝五頭平均哺育量

(期間百八十九日)

Table with 5 columns for various feed items and their quantities for 5 cows. Items include 初乳, 全乳, 脱脂乳, 亞麻仁, 割燕麦, 乾草, 牧草, 油, 鹽. Values are listed in liters and kilograms.

計	初乳		全乳		脱脂乳		亞麻仁		燕麥		牧草		油		粕	
	日數	日量	日數	日量	日數	日量	日數	日量	日數	日量	日數	日量	日數	日量	日數	日量
五	三	五	三	六	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一五〇	三〇	一七三	一八四	七〇	一三四	三五七	九〇	一一一	九〇	八〇〇	九〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
八〇	一五	一七三	一八四	七〇	一三四	三五七	九〇	一一一	九〇	八〇〇	九〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
一五〇	三〇	一七三	一八四	七〇	一三四	三五七	九〇	一一一	九〇	八〇〇	九〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇

各種平均一頭六ヶ月間哺育量 (期間百九十一日)

計	初乳		全乳		脱脂乳		亞麻仁		燕麥		牧草		油		粕	
	日數	日量	日數	日量	日數	日量	日數	日量	日數	日量	日數	日量	日數	日量	日數	日量
六	三	六	三	六	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一八〇	三〇	一七三	一八四	七〇	一三四	三五七	九〇	一一一	九〇	八〇〇	九〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
九〇	一五	一七三	一八四	七〇	一三四	三五七	九〇	一一一	九〇	八〇〇	九〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
一七三	三〇	一七三	一八四	七〇	一三四	三五七	九〇	一一一	九〇	八〇〇	九〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇

備考 平均ノ日數及數量ハ四捨五入ノモノナルヲ以テ各別ノモノニ比シ稍ヤ増加セリ
右表ニヨルトキハ短角種ノ如キ早熟ニシテ體重大ナル種ニ對シエアシヤ種積ヨリ哺育量少ナキヲ認ムル所ナリ

(ロ) 體重量

年別種類	性	生時平均體重	平均一ヶ月後	平均二ヶ月後	平均三ヶ月後	平均六ヶ月後
計		一八五	一七三	一七三	一七三	一七三
短角種		一八五	一七三	一七三	一七三	一七三
エーアシヤ種		一八五	一七三	一七三	一七三	一七三

平前五ヶ均年	大正元年度	
	短角種	エーアシヤ種
短角種	八三〇〇	八三〇〇
エーアシヤ種	八三〇〇	八三〇〇
計	一六六〇〇	一六六〇〇

右表ニヨリ之レヲ見レハ大正元年度ノ種牛生時體重及其發育狀態ハ一般ニ前五ヶ年平均數ニ劣リツ、アリテ僅ニ生時ノ體重
秤量中短角種牝牛ニ於テ稍多キト生後六ヶ月ニ至ルモ以然劣リツ、アリテ短角種牝牛ニ於テ稍勝レルノミナリ
今大正二年中ノ畜牛飼料給與量ヲ表示スルハ左ノ如シ

(ハ) 飼料給與表 (種牝牛)

月次	飼糧	頭數	燕麥		牧草		油		粕	
			日量	日量	日量	日量	日量	日量		
七月	五五八〇	三〇〇	五五八〇	三〇〇	三三四八	一八〇〇	三三四八	一八〇〇	一八〇〇	
八月	五五八〇	三〇〇	五五八〇	三〇〇	三三四八	一八〇〇	三三四八	一八〇〇	一八〇〇	
九月	五五八〇	三〇〇	五五八〇	三〇〇	三三四八	一八〇〇	三三四八	一八〇〇	一八〇〇	
十月	五五八〇	三〇〇	五五八〇	三〇〇	三三四八	一八〇〇	三三四八	一八〇〇	一八〇〇	
十一月	五五八〇	三〇〇	五五八〇	三〇〇	三三四八	一八〇〇	三三四八	一八〇〇	一八〇〇	
十二月	五五八〇	三〇〇	五五八〇	三〇〇	三三四八	一八〇〇	三三四八	一八〇〇	一八〇〇	
計	五五八〇	三〇〇	五五八〇	三〇〇	三三四八	一八〇〇	三三四八	一八〇〇	一八〇〇	

Table with columns for months (三月 to 八月), material types (燕麥, 豆, 玉蜀黍, 亞麻仁粕, 牧草, 大豆, 綠肥), and various statistics (數量, 日量, 延頭數, etc.).

(乳牛)

Table with columns for months (三月 to 十月), material types (燕麥, 豆, 玉蜀黍, 亞麻仁粕, 牧草, 大豆, 綠肥), and various statistics (數量, 日量, 延頭數, etc.).

Table with columns for months (三月 to 十一月), material types (燕麥, 豆, 玉蜀黍, 亞麻仁粕, 牧草, 大豆, 綠肥), and various statistics (數量, 日量, 延頭數, etc.).

(乳牛)

Table with columns for months (三月 to 十一月), material types (燕麥, 豆, 玉蜀黍, 亞麻仁粕, 牧草, 大豆, 綠肥), and various statistics (數量, 日量, 延頭數, etc.).

月次	飼糧		燕麥		豆		麻		仁		牧草		草	
	頭數	一日一頭量	頭數	一日一頭量	頭數	一日一頭量	頭數	一日一頭量	頭數	一日一頭量	頭數	一日一頭量	頭數	一日一頭量
八月	七九五	六八〇	六九五	六九五	七五五	七五五	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
九月	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇
十月	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
十一月	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
十二月	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一月	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
二月	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
三月	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
計	八六三六五	一三三三五	一三三三五	一三三三五	一三三三五	一三三三五	一三三三五	一三三三五	一三三三五	一三三三五	一三三三五	一三三三五	一三三三五	一三三三五

(二) 管理法

本年度内畜牛ノ飼養延頭數六万三千二百五十二頭即チ一日平均百七十三頭二分強是レヲ細別スレハ種牛及牝牛延七千七百〇一頭之レニ要シタル人員八百三十四人即チ一人一日ノ取扱頭數九頭三分弱乳牛及牝牛ハ延頭數一万四千四百五十四頭之レニ要シタル人員二千七百〇八人即チ一人一日ノ取扱頭數九頭強他ノ畜殖用牝牛(ニ才ニ才モ含ム)ハ延一万一千〇七十三頭是レニ要シタル人員五百八十三人即チ一人一日ノ取扱頭數十九頭貸付豫定牝牛延九千百一十一頭之レニ要シタル人員五百十人即チ一人一日ノ取扱頭數十八頭トス然シテ夏期ノ放牧中ト雖モ放牧地ハ何レモ天然ノ林地ナルト周圍ハ全ク民地ニ接續シテ管理容易ナラサル爲メ比較的多大ノ人員ヲ要シタリ放牧牝牛延七千七百七十三頭ニ對シ人員四百七十人即チ一人一日付キ十七頭トス故ニ舍飼ヨリ一人一日ノ取扱頭數ニ於テ一日平均僅カニ二頭強ヲ減シタルノミナリ之レ等ハ全ク他ト事情ヲ異ニスル所ナリトス左ニ本年度中ノ備人賃金表ヲ掲ケ其概要ヲ示スヘシ

備人賃金表

種別	延人員		額		平均賃金	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額
種牛及牝牛	350	16992.9	486	13940.0	384	3840.0
乳牛及製酪牛	978	46492.0	475	14180.0	332	3320.0
牝牛	209	20480.0	247	10870.0	127	4336.0
牝牛	326	27330.0	86	3660.0	188	5684.0
牝牛	149	82050.0	353	13960.0	68	5340.0
放牧牛	146	91540.0	6	2110.0	73	36000.0
豚			383	18260.0	11	37400.0
鶏					409	19610.0
碎穀					192	73040.0
修除					101	100100.0
掃除					26	7250.0
忌引					9	4860.0
新運					8	4000.0
公暇						
水貯						
合計	2133	168010.0	2746	110670.0	403	174700.0

種牛及牝牛	延人員		額		平均賃金	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額
種牛及牝牛	350	16992.9	486	13940.0	384	3840.0
乳牛及製酪牛	978	46492.0	475	14180.0	332	3320.0
牝牛	209	20480.0	247	10870.0	127	4336.0
牝牛	326	27330.0	86	3660.0	188	5684.0
牝牛	149	82050.0	353	13960.0	68	5340.0
放牧牛	146	91540.0	6	2110.0	73	36000.0
豚			383	18260.0	11	37400.0
鶏					409	19610.0
碎穀					192	73040.0
修除					101	100100.0
掃除					26	7250.0
忌引					9	4860.0
新運					8	4000.0
公暇						
水貯						
合計	2133	168010.0	2746	110670.0	403	174700.0

(飼養) 種牝牛ハ周年舍飼ニシテ特種ノモノハ運動場ニ於テ自由運動セシムルモ多クハ一日一回牽運動ヲ爲サシム牝牛ハ例年四月中旬ヨリ五月中旬迄ハ晝夜豫備放牧ヲ朝飼及ヒ夕飼ヲ給與シ五月中旬以降十月下旬迄ハ食糧ノミヲ與ヘテ全部放牧スルヲ常トス然レトモ牝牛ハ分娩ニケ月以前ヨリ別房ニ移シ多量ノ濃厚飼料ヲ與フルト共ニ特ニ管理ニ注意ヲ加フ乳牛モ夏季ハ朝夕二回搾乳ノ際舍内ニ於テ濃厚飼料ヲ與フルノ外全ク放牧ニ依ルモノトス

(放牧) 乳牛ハ四月下旬ヨリ晝間放牧ヲナスヲ常トシ晝夜共全ク放牧ニ移ルハ六月初旬ヨリ十月中旬迄ナリ全ク舍飼ヲナ

スハ例年十一月上旬ナリ其他ノ牝牛ハ穴ノ澤放牧地ニ六月初旬ヨリ放牧ヲ開始シ十月下旬舍飼ニ移シ爾後乳牛ト共ニ晝間ハ牧草地ニ放牧ス放牧地ハ年々一ヶ所ニ連續セルヲ以テ草生モ從テ粗惡トナリ小柴密生放牧中ノ管理容易ナラス且ツ周圍ハ民有地ニ接續シ場内ノ草生粗惡トナルト共ニ逸失ノ憂多ク管理困難ナリニ才牝牛ハ六月初旬ヨリ十月中旬迄千歳郡漁村附屬地内ニ放牧ス該地ハ地勢平坦放牧地トシテ良好ナルモ年々多數ノ牛馬ヲ放牧シタル結果稻々生草繁茂ヲ減シタルカ故ニ放牧中一日一同舍内ニ收容シ燕麥一升乃至一升五合ヲ給與シツ、アリ

(八) 畜牛飼育費調査

今畜牛飼育費調査ヲ表示スレハ左ノ如シ

畜別	飼育期間	延日數	燕麥	玉蜀黍	牧草	藁	根菜	穀	鹽	油	人夫費	雜費	計	一頭平均飼育費
種牝牛	自四月一日至三月卅一日	330	7,600	10,000	6,800	1,000	1,000	7,600	6,800	1,000	110,000	110,000	110,000	110,000
種牝牛	自四月一日至三月卅一日	330	7,600	10,000	6,800	1,000	1,000	7,600	6,800	1,000	110,000	110,000	110,000	110,000
二歲牝牛	自四月一日至三月卅一日	330	7,600	10,000	6,800	1,000	1,000	7,600	6,800	1,000	110,000	110,000	110,000	110,000
當歲牝牛	自七月一日至七月卅一日	30	760	1,000	680	100	100	760	680	100	11,000	11,000	11,000	11,000

五 馬

(一) 沿革

明治十九年 二月廢縣置廳ニ際シ真駒内牧牛場ハ北海道廳ノ所屬トナリ馬匹改良蕃殖ヲモ獎勵スヘキ必要アルヲ認メ七月真駒内種畜場ト改稱シ馬匹ヲ飼養蕃殖スルコトトナレリ是レヨリ前種牝馬及蕃殖牝馬ヲ米國ヨリ購入スルコト、ナセシカ此年到着入場スルニ至レリ

同二十年 乗用種デンマーク號ハ牝馬真駒内號ヲ産ス又七重勸業試驗場ヨリ乗用種牝馬東京號アメリカ號ヲシントン號巴里號サルガン號ノ五頭及乗用種牝馬南部號三本木號原口號手稻號綠號白瀧號禮文華號及川號白波號大原號二百十日號達磨號紋號號南海號大波號ヲ移入セリ又土產牝八同牝五頭ヲ購入ス

此歲民有牝牛馬ノ種付ヲ開始シ且ツ種付期間中民有牝馬ヲ場内ニ預托スルコトヲ許可セリ

同二十一年 七重勸業試驗場ヨリ乗用種牝馬一頭同種牝馬真天號ヲ移入ス又青森縣廣澤牧場ヨリ貨車用一回雜種牝馬三頭内國種牝馬六頭ヲ購入セリ

同二十二年 七重勸業試驗場ヨリ移入シタル牝馬第八號ハ豐平號ヲ産ス

同二十四年 産馬獎勵ノタメ根室共同牧場ヨリ農用種牝馬一頭一回雜種牝馬一頭余市郡黒川農場ヨリ農用一回雜種同牝馬二頭同牝馬一頭ヲ購入シ牝馬ハ直ニ貸付セリ

同二十七年 七重分場廢止ノ爲メ乗用種七重綠號第二キングスリ一號同牝馬ボツプエークルス號ジジョンアール號晴嵐號乗用雜種牝馬紅葉號紅蘭號北光號計八頭ヲ何レモ入牧セリ

此年道内ニ於テ獎勵スヘキ牛馬ノ種類ヲ一定セントシ種々審議ノ結果本道ノ氣候風土ニ適シ從來ノ成績良好ナリト認メタルモノヲ選定シテ種馬ハ乗用種(トロッター)農用種(ベルシユロン)ト決定シ本場種畜ノ選擇ヲ嚴重ニ行ヒ馬十二頭ヲ排除セリ

此年乗用種牝馬第四ダイヤモンド號同牝馬第二ワシントン號農用種牝馬宗谷號同牝馬レギユリエー號ヲ學生教授用トシテ札幌農學校ヘ移セリ

十一月第二軍糧餉部ヨリ征清ノ役齒獲ニ係ル支那遼東產ノ驢馬牝牡各一頭ヲ寄贈セラレタリ

同二十九年 四月場長村上要信種牝馬購買ノ命ヲ受ケ青森岩手秋田ノ三縣ニ出張シ南部產牝馬六十頭ヲ購買シ内第五久慈號釜津田號田名部號第三宮古號ノ四頭ハ種馬トシテ本場ニ繋養シ他ハ全部牛馬貸與規則ニ依リ本道各地ニ貸與セリ之レニ十七八年戰役ニ際シ本道馬匹ニシテ徵發セラレモノ實ニ三千三百有餘頭ニ及ヒ馬產地到ル處俄カニ種牝馬ヲ失ヒ牧馬事業上困難ヲ來セシヲ以テ種牝馬ノ缺乏ヲ補充セシムルニシテ雖モ亦一方ニハ馬匹改良上比較的體軀ノ矮少ナル本道產牝馬ニハ先ツ其骨格ヲ大ナラシムル爲メ之ニ南部產牝馬ヲ配シ更ニ乗用種及農用種若クハ洋和雜種ヲ交配スルヲ順序ナリト認メタルヲ以テナリ

同三十年 十月農商務省農務局ノ請求ニヨリ農用種牝馬第二シユベルブ號ヲ與羽種馬牧場ヘ移セリ十一月場長技手二名ヲ從ヘ青森岩手ノ二縣ニ出張シ牝馬田代號築川號谷地頭號吉松號ヲ購入シ本場蕃殖牝馬ノ不足ヲ補フ

同三十二年 此年滿州種驢馬北海道號社金州號芳容號花萬里號ヲ札幌農學校ニ移シ學生教授用トナス

同三十四年 此年札幌區ニ於テ内國種牝馬飛電號ヲ購入セリ

同三十五年 五月與羽種馬牧場ヨリアングロアラブ種牝馬第三アラデュ號ヲ道廳ニ保管轉換シ本廳ヨリ更ニ本場ニ移セリ十一月種畜場長及同技手種馬購買ノ爲メ英國及米國ニ出張ス

同三十六年 前年出張購買官ノ購買セル米國産トロッター種牡馬ベール號及サラブレット種牡馬モルモン號同ラビアス號到着セリ

同三十九年 此歳馬政局ヨリ濠洲産サラブレット種牡馬オードンガー號クライデスデー種牡馬チャックモア號函獲牝馬福龍號松樹山號及濠洲産牝馬三十頭ノ貸付ヲ受ケタリ

同四十二年 馬政局ヨリ種牡馬ノ貸付ヲ受ケ日高種馬牧場ヨリサラブレッド種カールマ號秋田種馬所ヨリブラバンソン種ユース號入場ス此年ヨリ種付ヲナス

同四十三年 種牡馬生産ヲ次第二廢止方針ノ下ニ蕃殖牝馬四十二頭ヲ賣却ス此年種牡馬二十五頭ヲ購買ス

長萬部種馬所ヨリアンクロナルマン種牡馬ゴリール號ハクニ種牡馬ヘンギンカム號ノ出張種付ヲ受ク

同四十四年 長萬部種馬所ヨリアンクロナルマン種牡馬オメル號ベルシユロン種牡馬ガスバラン號ノ出張種付ヲ受ク

十勝種馬牧場サラブレッド種牡馬イーボア配合ノ爲メトロッター牝馬初薄號及香玉號ヲ派遣セリ此年購買種牡馬ハ三十三頭ナリ

大正元年 長萬部種馬所ヨリアンクロナルマン種牡馬アンテリユーム號ベルシユロン種ガスバラン號ノ出張種付ヲ受ク

此年購買ノ種牡馬ハ二十二頭ナリ

大正二年 此歳イーボア號配合ノ爲メトロッター種牡馬第三初薄號香玉號ヲ十勝種馬牧場ニ派遣ス前年派遣ノ初薄號牡馬駒内イーボア號ヲ産セリ

今明治十九年以降累年馬匹頭數ヲ表示スレハ左ノ如シ

年次	種別		性	本場	貸付	計
	トロッター種	ベルシユロン種				
十九年	小	和	牝	五七	二六	三一
	同	同	牝	一五	三六	五一
二十年	小	和	牝	一三	五八	七一
	同	同	牝	三二	五八	九〇

年次	種別		性	本場	貸付	計
	トロッター種	ベルシユロン種				
二十一年	小	和	牝	一五	四	一九
	同	同	牝	一七	四	二一
二十二年	小	和	牝	二五	一五	四〇
	同	同	牝	一三	三七	五〇
二十三年	小	和	牝	二五	一五	四〇
	同	同	牝	一三	三七	五〇
二十四年	小	和	牝	二五	一五	四〇
	同	同	牝	一三	三七	五〇
二十五年	小	和	牝	二五	一五	四〇
	同	同	牝	一三	三七	五〇
二十六年	小	和	牝	二五	一五	四〇
	同	同	牝	一三	三七	五〇

三十三年				三十二年				三十一年							
同	ベルシユロン	同	トロツター	小	和	退	雑	同	ベルシユロン	同	トロツター	小	和	退	雑
種	種	種	種	計	種	種	種	種	種	種	種	計	種	種	種
牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝
六九	七九	八六	〇六	四二	五七	二一	三二	五九	〇二	九三	九三	二四	四三	一	二八
五	一	一	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三
二〇	七九	八六	〇六	一〇	七	二	五	五	〇	七	七	一	六	四	一

二十八年				二十七年				二十九年				三十年			
小	和	退	同	小	和	退	同	小	和	退	同	小	和	退	同
計	種	種	種	計	種	種	種	計	種	種	種	計	種	種	種
牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝	牝牝
三七	四一	四三	六六	六六	三一	二二	五七	七三	三一	九二	五七	一〇	四	六	〇
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三七	四一	四三	六六	七三	三一	九二	五七	七三	三一	九二	五七	一〇	四	六	〇

四十年										三十九年											
和牛	クアアイ	同	ベルシユロン	トロツター	トロツター	サラブレッド	アラブ	小	和	退却	雑種	洋種	牛血	クアアイ	同	ベルシユロン	トロツター	小	和	雑種	
種	種	種	種	種	種	種	種	計	種	種	種	種	種	種	種	種	種	計	種	種	種
牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝
一〇八	六二	一三	一三	五四	五九	四四	五一	一	七六	二	一	七三	三	四三	一一	二一	四三	一三	一三	一三	一三
一〇八	九二	一三	一三	二四	五九	六五	五一	一	三六	一	一	二二	三	七三	一一	二一	四三	一三	一三	一三	一三

四十二年																	
同	トロツター	小	和	洋	雑	牛	クアアイ	同	ベルシユロン	トロツター	トロツター	アラブ	サラブレッド	アラブ	小	和	雑
種	種	計	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	計	種	種
牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝
六六	六六	九七	三	九	八三	八三	二四	七三	四三	七三	四七	一	五二	一	九六	三	九三
六六	七四	四七	五	一四	二二	〇三	二四	一三	一三	七三	六五	一	五二	一	三九	六	二二

三十七年										三十六年										
退却	アラブ	サラブレッド	同	ベルシユロン	同	トロツター	小	雑	和	退却	アラブ	サラブレッド	同	ベルシユロン	同	トロツター	小	和	雑	
種	種	種	種	種	種	種	計	種	種	種	種	種	種	種	種	種	計	種	種	種
牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝
一	一	二	一	五〇	五七	〇八	二四	四四	二	三	一	一	二	四八	五六	七六	一四〇	四四	三	三
一	一	二	一	五〇	五七	〇八	二四	四四	二	三	一	一	二	四八	五六	七六	一四〇	四四	三	三

三十八年																				
トロツター	アラブ	サラブレッド	同	ベルシユロン	同	トロツター	小	和	雑	退却	アラブ	サラブレッド	同	ベルシユロン	同	トロツター	小	和	雑	
種	種	種	種	種	種	種	計	種	種	種	種	種	種	種	種	種	計	種	種	種
牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝
六五	一	四	一	六	二	一	一四	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六五	一	四	一	六	二	一	一四	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

大正十五年														
サラブレッド種	小計	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場
貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
一四一	一三〇	六四	一四	五四	二一	一	一	四二	二四	六六	五九	二五	八	二一
二	一九三	一	一	七	六	一	一	二	一	四	一	五	一	二
六一	三二〇	六四	二	二	二	一	一	六二	二四	〇六	五九	七三	八	四一

大正二年														
同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場
貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

四十二年														
サラブレッド種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場
貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

四十四年														
同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種	同種
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場	本場
貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付	貨付
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

種	類	性	水		場	貸	付	計
			四歲以上	四歲以下				
グライアステール種	種	牝	1	1	1	1	1	1
アラア種	種	牝	1	1	1	1	1	1
クリーアランドペー種	種	牝	1	1	1	1	1	1
アラバンソン種	種	牝	1	1	1	1	1	1
雜	種	牝	1	1	1	1	1	1
計			5	5	5	5	5	5

右表ニヨルトキハ本場馬ノ牝馬數ハ明治十九年以降逐年増加シ三十七年以降急速ノ増加ヲ示シ四十三年ヨリ大正元年迄ハ著シク増加シ百二十四頭乃至百四十七頭ヲ繋留セリ又牝馬ニアリテモ逐年増加ヲ示シ三十九年以降著シク増加ヲ示シ四十二年以來稍減少ヲ見ル所ナリ

貸付馬匹中牝馬ハ明治十九年一頭アリシ外同三十七年迄ハ貸付セシモノナク二十七年以降増加シ三十三年三十四年ハ最モ多ク爾來減少シテ三十九年全ク貸付牝馬ナキニ至リ牝馬ニアリテハ明治廿八年迄ハ少數ナルト又増減常ナキモ同三十年以降三十九年迄ハ増加ノ趨勢ヲ示シ四十年ニ至リ稍減シタルモ再ヒ増加ヲ示シ大正二年ハ最高二百二十二頭ニ達シ同年ハ百九十九頭ニ減シタルヲ以テ之レヲ見レハ貸付種牝馬三百頭ニ達スル尙前途遠シク觀テ呈スル所ナリ

種類ニアリテハトロッター及ベルシユロン種ヲ主トシ殊ニ明治三十七年同二種ヲ本場貸付馬種ニ決定シタルヲ以テ長ク同種類ニ限ラレタルモ同三十六年サラブレッド種ヲ加フルニ至リ又此年閑院宮殿下ノ御下馬アラブ種牝馬ヲ加フルニ至レリ同三十九年ニ至リ濠洲サラブレッド種及グライアステール種ノ入場アリ益々種類ノ増加ヲ來セリ之レ蓋シ本道馬匹ノ改良上同種ヲ飼養蕃殖セルモノト言ハンヨリハ無償交付及有償貸下ノ便宜アリシニ基クモノナリ同四十二年馬政局ヨリブラレン種ノ貸付ヲ受ケ種付ヲナスニ至リ同四十二年以降長萬部種馬所ノ種牝馬アングロノルマン種ノ種付ヲナスニ至リ種牝馬ノ種類ヲ増加スルニ至レリ大正元年種牝馬ノ生産ヲ廢止シ購買貸付ノ方法ヲ取ルニ至リシヲ以テ益々種牝馬ノ種類ヲ増加シ大正二年末ニ於テハ十四種ノ種牝馬ヲ有スルニ至レリ

(三) 種 牝 馬

大正二年未現在種牝馬中本場ニ繋留セルモノ十頭民間貸付中ノモノ二百十七頭ナリ今本場種牝馬ヲ表示スレハ左ノ如シ

種	類	名	號	生	年	月	毛	色	体	尺	体	重	産	地	血	統
サラブレット種	種	モルモン	フピアス	同	同	同	栗毛	毛	五三	五	一五二	米	國	同	母サ、ウヨウシクスライ	
同	種	オードンガ	同	同	同	同	黒鹿毛	毛	五五	五	一四〇	濠洲	同	母サ、フバロ		
同	種	第五ヨシノアール	同	同	同	同	鹿毛	毛	五五	五	一五	木	場	同	母ト、初薄	
同	種	第四・豐平	同	同	同	同	同	毛	五〇	五	一八	同	同	同	母ト、第二岩見	
同	種	第五シユベル	同	同	同	同	青毛	毛	五三	五	一六	同	同	同	母ト、第二シユベル	
同	種	第九シユベル	同	同	同	同	同	毛	五四	五	一八	同	同	同	母ト、シユベル	
同	種	清山	同	同	同	同	同	毛	五三	五	一七	同	同	同	母ト、第三シユベル	
同	種	飛驒	同	同	同	同	同	毛	五三	五	一九	同	同	同	母ト、文里	
同	種	ジャックモア	同	同	同	同	同	毛	五三	五	一九	同	同	同	母ト、第九シユベル	
同	種	同	同	同	同	同	同	毛	五三	五	一九	同	同	同	母ト、第二岩見	
計				同	同	同			五三	五	一九	濠洲			母ト、不詳	

右表ニヨリ之レヲ見レハ馬種トシテハ年來標榜セルトロッター種牝馬ハ僅ニ二頭ニ過キサルハ血液ノ更新充分ナラサルヨリ本場ニ繋留シ得ヘキ種牝馬ヲ得サルニ起因スル所ニシテ今ヤ同種ノ優良牝馬ヲ購入補充ノ急ヲ見ル所ナリベルシユロン種ニアリテハ体重ニ於テモ体尺ニ於テモ父馬シユベル比スヘカラサルモ本道重鞍馬ノ用途ニ考フルトキハ種牝馬トシテ却テ好適ナルカ如キモ今ヤ老齡ニ達シツ、アルヲ以テ同種ノ更新モ急ヲ告クル所ナリサラブレット種ニ至リテハ三頭ノ多キヲ有スルモ内一頭ヲ除キ本場種牝馬ニ好適ナラサルカ如ク從テ其産駒ノ種牝馬ニ供セラル、モノ少ナキニ徴シ又年齡ヨリ之レヲ見ルモ何レモ更新補充ノ計畫ヲ要スルヤ切ナリ

(イ) 種 付 頭 數

種牝馬ノ種付ハ本場ニ於テハ専ラ種牝馬生産ノ目的ヲ以テ之レヲ行フモ又民有牝馬ニ餘勢種付ヲ行フ此外民間貸付種牝馬ハ民有馬匹ニ種付ヲナシ本道馬匹改良ヲナシツ、アルヲ以テ種付頭數ヲ知ルハ極メテ必要ナリト雖モ貸付種牝馬ノ種付頭數及其成績ハ調査ヲ欠ク遺憾トスル所ナリ今本場ニ於ケル種付成蹟ヲ舉クレハ左ノ如シ

今明治三十五年以降大正二年ニ至ル本場ニ於ケル種付成蹟ヲ舉クレハ左ノ如シ

		同三十九年								同三十八年							
種	社	計	洋	トロッター	ベルシユロン	トロッター	アングロアラブ	アラブ	サラブレット	計	洋	トロッター	ベルシユロン	トロッター	アングロアラブ	アラブ	サラブレット
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一	三三	三二	一一	二	一	五二	二五	一	一一	二二	五七	一一	五二	一五	一一	一一	二二
一	八二	三八	二八	一	一	三七	三〇	一	一	七五	二四	一	一〇	六六	一	一	四五
八	五六	七五	四〇	三	三	一〇	五九	二八	三	三七	五九	九	九五	四〇	三六	一四	四六
九	一一	三八	三	七	六	八〇	四九	一一	一一	一一	三七	三	二〇	二〇	一	一八	六
一七	一四	一四	五九	四〇	五〇	一八	九三	一一	一一	九七	九一	四	一八	六	七	三	五〇

		同三十六年								明治三十五年											
種	社	計	内	トロッター	ベルシユロン	ア	アラブ	サラブレット	計	内	トロッター	ベルシユロン	ア	アラブ	サラブレット	計					
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同					
三	九	六二	三	四	一	一一	一一	一一	九二	一	二	五二	一一	二八	七九	一	三	五三	九六		
三	八	二九	一	一	一	一一	一一	一一	六七	一	一	一	一	一	三三	一	一	一	八	三三	
三	九	六三	七	三	三	七	三〇	一一	七四	三	三	七九	一一	二五	一九	七	六	四一	一五	五七	
二	六	一一	二	二	一	八	一一	一一	二二	二	二	七	一	八	二五	六	二	一〇	二	八	四
六	八	一〇	三	四	一	二	一一	一一	四一	二	二	二	一	二	四二	二	二	一五	二	三	八

同四十三年							同四十二年								
合	馬政局出張種付	計	洋種	トロッター種	サアラレット種	アンダロアラブ種	合	馬政局賃付	計	アラバントン種	アラバントン種	クワイアズアール種	ベルシユロン種	洋種	トロッター種
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三〇九	一〇八	一一	一一	三二	三二	一九三	三九	一	一	三三	一	一一	三二	一一	二五七
一九〇	三九	一三六	六四	九七	七五	一〇三五	三九	四九	二四	三三	三二	一一	六八	五	二二七
九二五	六	九	九	五五	一〇	一九三	九三	二七	二七	一	一〇	三	六四	一九	四九
二	二	二	四	五	五	二六	二〇	一	一	一〇	一	一	二	五	七
二二	三	二	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一三三	三	三	三	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二

同四十一年							明治四十年							年次		
合	馬政局出張種付	計	洋種	トロッター種	サアラレット種	アンダロアラブ種	合	馬政局賃付	計	アラバントン種	アラバントン種	クワイアズアール種	ベルシユロン種	洋種	トロッター種	種
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	種
五三一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	頭
九六〇	二五	七七	一一	二五	二五	七	八	六	七	六	七	六	九	五	五	馬
九五五	一〇	四	三	九	二	八	五	六	七	六	七	九	六	五	四	配
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	種
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	合
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	種
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	種
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	種
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	計
一七三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	計

一五、四%乃至一八、六%の間ニ下レリ而シテ重種タルベルシユロン種及同雜種ノ種付ハ三十五年以降三十八年迄ハ二五、〇%乃至三一、二%の間ニアリシカ三十九年以降產馬熱ノ勃興ト競馬ノ全盛時代ナル四十二年ニハベルシユロン種同雜種クライデスデル、ブラバンソン種等ヲ加フルモ一七、三%乃至二六、九%ノ間アリ之ニ反シ明治三十五年以降三十八年迄ハ四、六%乃至一、一%ニ過キサリシサラブレッド種ハ種付數ヲ増加シ四十四年ノ如キハ二二、三%ニ達シ其後稍減少ノ傾向ヲ認ムルモ重種系ニアリテハ四十四年以降五九、二%乃至六七、八%ノ種付希望者ヲ見ル有様ナリ以テ種付希望變遷ノ急劇ナルヲ知ルヘキナリ

今更ニ本場ノ内外ニ於テ種付セル牝馬ノ重種別頭數ヲ表示スレハ左ノ如シ

年次	輕種牝馬種付數		重種牝馬種付數		計
	場内	場外	場内	場外	
明治四十二年	四七	三六七	二	二	五四七
同四十二年	三三	二〇三	二	二	四三三
同四十三年	三三	二〇三	二	二	四三三
同四十四年	三三	二〇三	二	二	四三三
大正二年	二四	一三三	二	二	三三九
同三年	二四	一三三	二	二	三三九
同四年	二四	一三三	二	二	三三九
計					四五三

右表ニヨリ之レヲ見レハ種畜場牝馬ノ種付頭數ハ輕種ニアリテハ四十二年以降四十四年ヲ除ク外ハ減少ヲ示セリ之レ畢竟本場種牝馬ヨリモ馬政局出張種付種牝馬ニ重キヲ置キタルモノト認メサルヘカラス重種ニアリテモ明治四十三、四十四年ノ外ハ著シク少數ナルハ馬政局種牝馬ノ種付多カリシニ因ルヘシ民有牝馬ニアリテハ輕種ノ種付希望者年々減少ノ傾向ヲ示シ之レト反對シ重種ニアリテハ年々増加ヲ示セリ若シ種付總頭數ヨリ之レヲ見ルトキハ明治四十二年以降本場留種牝馬種付數著シク減少セルヲ見ルヘシ之レ畢竟場内牝馬ノ種付ヲ國有馬ニ配合シタルニ因ル又民有牝馬ノ種付頭數ヲ減少シタルニ因ル所ナリ

(1) 種畜場種牝馬種付成績

今明治四十二年以降大正元年ニ至ル四ヶ年間に種畜場内ニ於ケル種畜場留種牝馬ノ蕃殖成績及其貸付種牝馬蕃殖候補牝馬拂下馬等ヲ表示スレハ左ノ如シ

種牝馬名號	年次	種付牝馬數	生産馬數	生後斃死數	拂下馬數		貸付留種牝馬數	雜役馬
					未濟	濟		
サ種モルモン號	明治四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同第五モルモン號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一

種牝馬名號	年次	種付牝馬數	生産馬數	生後斃死數	拂下馬數		貸付留種牝馬數	雜役馬
					未濟	濟		
同第十五モルモン號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同第三ラピアス號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同オールドシガール號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同種奔星號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同第四豐平號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同第五シオンアール號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同種第八ホップエーグル號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同種英號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同第十ベール號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同第五シユベル號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同第九シユベル號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同飛號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同飛號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
同シヤクモア號	同四十二年	一〇	一九	一	二	一	一	一
計		一六五	八六	二四	一	一	一	一

備考 四十五年以降ハ生産馬未處分ナルヲ以テ省略ス

右表ニヨルトキハ種畜場ニ於ケル明治四十二年以降四十四年ニ至ル種付牝馬數百六十五頭ニシテ生産馬數ハ八十六頭即チ五二、一二%ノ生産率ヲ示スモ生産數ノ一六、二%ハ斃死減損セリ而シテ種牝馬トシテ貸付シタルモノハ三〇、二二%ニ貸付馬ハ種類トシテハベルシユロン種最モ多ク之ニ次クハトロツター種ニシテ重種輕種ト對照スルトキハ重種ハ輕種ヨリ多キヲ示セリ蕃殖候補牝馬ニアリテハ生産馬ノ七%ニシテベルシユロン種最モ多シ拂下牝馬ニアリテハ三三、七%ニ當リトロツター系最モ多キヲ見ル所ナリ

(2) 國有種牝馬種付成績

種牝馬名號	年次	種付牝馬數	生産馬數	生後斃死數	拂下馬數		貸付留種牝馬數	雜役馬
					未濟	濟		
同四十二年	同四十二年	一五	一	一	一	一	一	一
同四十二年	同四十二年	一五	一	一	一	一	一	一

種	類	名	號	年齢	毛色	体尺	体量	産地	血統	購買地	購買價格
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	五〇五	一一四	知内村	父アラブ、母松風	八雲村	七〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四八五	九六	門別村	父ト、母第六アイヤモンド	門別村	六〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四九〇	八八	外山村	母ト、母キートン	盛岡市	三八〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四九〇	一一二	龜田村	母ト、母セイントホルムスチーナ	八雲村	六〇〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	五〇〇	一一四	伊達村	母ト、母ケネスマツケンネー	八雲村	六〇〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	五〇〇	一一〇	靜内村	母ト、母アノル、母エタンダー	浦河町	四〇〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四八五	九七	外山村	母ト、母第七アラブキホーク	盛岡市	七五〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四八五	一〇八	八雲村	母ト、母トツキヒール	八雲村	六〇〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四九〇	一一〇	小岩井	母ト、母クシヤク	八雲村	六〇〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四九五	一一六	小岩井	母ト、母アラブクバフオーマー	盛岡市	一〇〇〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四九五	一一六	靜内村	母ト、母ケイト	下々方村	二〇〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四七五	一一〇	小岩井	母ト、母アラブクバフオーマー	盛岡市	七五〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四七〇	九二	外山村	母ト、母サリ、母ホニ	同	二五〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四七〇	九二	玉山村	母ト、母サリ、母芳凌	同	三五〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四九〇	九五	外山村	母ト、母サリ、母久鶴	同	四〇〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四八五	一一四	伊達村	母ト、母クワ、母マクフライ	伊達村	三〇〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四九〇	一一三	花畔村	母ト、母サリ、母第二シユベル	札幌區	六五〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四八五	八六	門別村	母ト、母サリ、母第三モルモン	門別村	四五〇〇〇
アラブ種	種	飛龍	三三	三歳	黒鹿毛	四八五	一〇五	下々方村	母ト、母サリ、母青柳	下々方村	三五〇〇〇

(明治四十四年度)

種	類	名	號	年齢	毛色	体尺	体量	産地	血統	購買地	購買價格
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	五二五	一一二	米國	父ト、母マクマク	盛岡市	五五〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	五二〇	一一二	新冠	父ト、母クワ、母ランドアライト	新冠	九〇〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	五二二	一一四	同	父ト、母クワ、母ランドアライト	同	六〇〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	五二〇	一一八	新江村	父ト、母クワ、母ランドアライト	下々方村	一〇〇〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	四八七	一一二	新冠	父ト、母クワ、母ランドアライト	新冠	七五〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	五二〇	一一三	龜田郡	父ト、母クワ、母ランドアライト	兩館	五三〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	五二〇	一一三	新冠	父ト、母クワ、母ランドアライト	新冠	四六〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	四九六	一一〇	新冠	父ト、母クワ、母ランドアライト	同	三三〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	四八五	一一〇	新冠	父ト、母クワ、母ランドアライト	同	三三〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	四八五	一一三	新冠	父ト、母クワ、母ランドアライト	同	四五〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	四八五	一一二	伊達村	父ト、母クワ、母ランドアライト	伊達村	六〇〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	五〇〇	一一〇	龜田村	父ト、母クワ、母ランドアライト	龜田村	六〇〇〇〇
トロッター種	種	マノマキネ	三四	三歳	黒鹿毛	五〇〇	一一〇	余市町	父ト、母クワ、母ランドアライト	木場	五〇〇〇〇

種	類	名	號	年齢	毛色	体尺	体量	産地	血	統	購買地	購買價格
種	洋種	進路	三	三	鹿毛	五〇・五	一一・三	三石村	父ト、豊平 母洋、トビギリ		浦河町	八〇〇・〇〇
種	同	野	同	同	同	五〇・〇	一〇・〇	萩伏村	父ト、第三ホトカ		同	七〇〇・〇〇
種	同	圓山	同	同	黒鹿毛	四八・五	一〇・〇	圓山村	父ト、第九シユベル 母ト、第八シユベル		本場	八〇〇・〇〇
種	同	松風	同	同	同	五〇・五	一二・〇	丘珠村	父ト、第九シユベル 母ト、第九シユベル		同	六五〇・〇〇
種	同	春風	同	同	青毛	五〇・〇	一二・五	篠路村	父ト、第九シユベル 母ト、第九シユベル		同	四〇〇・〇〇
種	同	苗穂	同	同	同	四七・五	一二・五	苗穂村	父ト、第九シユベル 母ト、第九シユベル		同	三三〇・〇〇
種	同	北斗	同	同	鹿毛	四九・五	一二・三	伊達村	父ト、マクライジ 母ト、マクライジ		伊達村	六五〇・〇〇
種	同	壯矢	同	同	同	四九・五	一一・九	壯警村	父ト、千鳥 母ト、千鳥		同	四五〇・〇〇
種	同	天龍	同	同	同	四九・五	一一・〇	由仁村	父ト、ホトニ 母ト、ホトニ		本場	六〇〇・〇〇
種	同	第二浦里	同	同	同	四八・七	一一・〇	高江村	父ト、フレイ 母ト、フレイ		新冠	五〇〇・〇〇
種	同	第十八アラクバ	同	同	星鹿毛	五〇・〇	一一・八	小岩井	父ト、アラクバ 母ト、アラクバ		盛岡	一〇〇〇・〇〇
種	同	第一アラクバ	同	同	栗毛	四九・三	一一・五	静内	父ト、光月 母ト、光月		門別村	八五〇・〇〇
種	同	第二日ノ出	同	同	黒鹿毛	四八・〇	一一・〇	同	父ト、フレイ 母ト、フレイ		同	七〇〇・〇〇
種	同	錦聲	同	同	鹿毛	四八・六	一一・四	浦河町	父ト、深緑 母ト、深緑		同	七五〇・〇〇
種	同	數島	同	同	鹿毛	四七・八	一一・八	静内	父ト、玉川 母ト、玉川		同	六〇〇・〇〇
種	同	驛	同	同	栗毛	四八・八	九・九	沙流郡	父ト、ノ、エタンダー 母ト、ノ、エタンダー		同	六〇〇・〇〇
種	同	驛	同	同	鹿毛	四七・九	一一・〇	同	父ト、オソ 母ト、オソ		同	七〇〇・〇〇
種	同	第十一アラクバ	同	同	青毛	五二・二	一一・六	小岩井	父ト、ハク 母ト、ハク		盛岡	一一〇〇・〇〇

計	年	齡	頭	數	購買價格	一頭平均價格	奉付費	購買費合計	一頭平均價格
三	二	才	才	二二	九〇〇・〇〇	七五・六六	八四・〇〇	三三三・五五	六七四・三三
同	同	同	同	二二	一三三・四七	六〇・八四	八四・〇〇	三三三・五五	六七四・三三

(明治四十五年度)

種	類	名	號	年齢	毛色	体尺	体量	産地	血	統	購買地	購買價格
種	洋種	黒山	三	三	鹿毛	五〇・〇	一一・三	浦河郡	父ト、ア、アラア 母ト、入重		萩伏村	九〇〇・〇〇
種	同	豐春	同	同	同	五〇・五	一一・〇	三石郡	父ト、豊平 母ト、三石		三石付	一三〇〇・〇〇
種	同	チヤイ	同	同	栗毛	四七・〇	一一・〇	静内郡	父ト、アレモ 母ト、カスミ		下々方村	八〇〇・〇〇
種	同	日新	同	同	黒鹿毛	五二・〇	一二・〇	新冠郡	父ト、第四スプ 母ト、梅雲		同	八〇〇・〇〇
種	同	日吉	同	同	栗毛	五二・〇	一一・八	札内郡	父ト、ベッキン 母ト、青梅		本場	六〇〇・〇〇
種	同	第一シエント	同	同	黒鹿毛	五二・〇	一二・三	岩内郡	父ト、空色 母ト、シエント		岩内町	七〇〇・〇〇
種	同	櫻盛	同	同	青毛	五二・〇	一二・五	札内郡	父ト、第九シユ 母ト、凱旋		本場	七〇〇・〇〇
種	同	北盛	同	同	鹿毛	四八・五	一一・五	茅部郡	父ト、北調 母ト、初霜		野田	四八〇・〇〇
種	同	岩盛	同	同	黒鹿毛	四八・五	一一・〇	札内郡	父ト、飛騨 母ト、初霜		本場	七〇〇・〇〇
種	同	黒鷹	同	同	青毛	五二・五	一一・五	沙流郡	父ト、黒龍江 母ト、第二花山		門別村	四〇〇・〇〇
種	同	エタン	同	同	栗毛	五二・〇	一一・五	新冠郡	父ト、ノ、エタン 母ト、花摺		下々方村	七五〇・〇〇

種	年											
	明治四十三年	明治四十四年	明治四十五年	明治四十六年	明治四十七年	明治四十八年	明治四十九年	明治五十年	明治五十一年	明治五十二年	明治五十三年	明治五十四年
ベルシユロソ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サラブレッド	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
クワイアスアル	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
洋種	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
トロツター種	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ベルシユロソ種	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

右表ニヨリ之レヲ見レハ蕃殖牝馬中洋種牝馬最多キヲ見ルヘシ而シテ洋種中濠洲牝馬十六頭濠洲牝馬ノ生産牝馬六頭ノ多キヲ占ム之レ明治四十四年種牝馬ノ生産ヲ廢止シニ歲牝馬ノ購買トナスニ至リ牝馬淘汰ヲナスニ當リ濠洲牝馬ハ馬政局貸付中ニシテ淘汰ノ自由ヲ得サリシヲ以テ從來改良蕃殖ヲナシタルトロツター種及同種牝馬ノ淘汰スルノ餘儀ナキニ至リタル結果洋種牝馬最多トナリ四歳以上ノ蕃殖牝馬數三二、八五%ヲ占ムル所ナリトロツター及同種種ハ三八、五七%ベルシユロソ及同種種ハ二五、七%サラブレッド及クワイアスアルハ各一、四四%ナリ
 更ニ年齡別ニ就キ之レヲ見レハ十五歳牝馬最多ク一七、一%ヲ占メ之ニ次クハ十四歳牝馬ノ一二、八五%十二歳及九歳牝馬ノ一、四三%十六歳八歳ノ八、五七%其他ハ極メテ小數ニシテ六歳五歳馬ヲ欠クハ種牝馬購買貸付計畫中候補牝馬ヲ取ラサリシニ起因スヘク四歳馬ノ僅ニ二頭ニ止マルモ又同一理由ト認ムヘキモノニシテ三歳以降約一割ノ更新補充馬ヲ取リタルハ明ニ之レヲ知り得ヘキナリ要之蕃殖牝馬中四歳以上十五歳迄ノ年齡馬ハ六十頭ニシテ八五、七%ヲ占メ十六歳以上ノ馬匹ハ一四、三%ヲ占ムルニ過キサルナリ

蕃殖牝馬血統調

今蕃殖牝馬ノ父系及母系ヲ調査スルトキハ左ノ如シ

種	父系	母系
トロツター種	ボツプエーグル系一〇、ダイヤモンド系三、モルモン系二、豊平系一、ヘーデンマード系一、バイル系一、ラビナス系一	一〇 巴里系五、一號系二、初花系一、不詳二 六一 南五系一、南五二系一、南五五系一、南六二系一 一三 南五〇系五、南五四號系二、南六二號系一、根室系二、黒鹿系二、南五二號系一
サラブレッド	シユベル系一、カスバラ系三	一九 テンマク系五、飛花系九、巴里系二、八重錦系一 一 バイグスヒーク系一
ベルシユロソ種	シユベル系一、カスバラ系三	一四 一號系一、六號系二
クワイアスアル	不詳	不詳

種	種	種
洋種	ダイヤモンド系二、ボツプエーグル系五、シヤツクモア系一、カスバラ系一、不詳一	一〇 巴里系五、一號系二、初花系一、不詳二
トロツター種	ベール系二、奔星系一、ボツプエーグル系三	六一 南五系一、南五二系一、南五五系一、南六二系一
ベルシユロソ種	シユベル系一〇、カスバラ系三	一三 南五〇系五、南五四號系二、南六二號系一、根室系二、黒鹿系二、南五二號系一

右表ニ依ルトキハ父系ニアリテハ輕種ニ於テハボツプエーグル系最多ク十六頭中十八頭即チ二七、二%ヲ占ム而シテボツプエーグル系直系ハ九頭初番系九頭ナリ之ニ次クハマクダイヤモンド系ニシテ五頭其他ハ一頭ナリ重種ニアリテハシユベル系二十二頭ニシテレギユリ系全ク跡ヲ絶ツニ至レリカスバラ系六頭ヲ占ム
 母系ニアリテハ輕種ハ飛花系最多ク九頭巴里系八頭ニシテ之ニ次キテンマク系五頭一號系二頭ナリ其他ハ濠洲牝馬ノ血統不明ノ外ハ各一頭ナリ重種ニアリテハ一號系十二頭ニシテベルシユロソ種十四頭中ノ八五、七%ヲ占メ六號系二頭ナリベルシユロソ種雜種ニアリテハ南五〇系五頭南五四號系黒鹿系及根室系ハ各二頭ナリ

明治四十三年前ノ調査ナキヲ以テ四十四年以降大正二年ニ至ル本場牝馬受胎數及率ヲ舉クレハ左ノ如シ

年	次	種	付	頭	數	受	胎	頭	數	同	上	百	分	率
明治四十三年	年				一〇七				七四				六九	一
明治四十四年	年				一二六				八〇				六九	〇
大正元年	年				九四				六七				七二	三
大正二年	年				七四				四七				六三	五
四ヶ年平均	均								六八				六六	六

右表ニヨリ之レヲ見レハ民間牧場ハ勿論日高種馬牧場等ノ成績ニ微シ良好ナリト云フヘカラス是等ハ不受胎ノ原因ヲ研究排除スルハ勿論或ハ牝馬淘汰ヲナシ受胎生産率ヲ高ムルコトナカルヘカラサルナリ

(ロ) 懷胎日數

年	次	種	頭數											
			北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
四十一年	年	種	三六	三九	三三	三〇	三六	三九	三三	三〇	三六	三九	三三	三〇
四十一年	年	種	三六	三九	三三	三〇	三六	三九	三三	三〇	三六	三九	三三	三〇

年次	種			項			類		
	平均	最短	最長	平均	最短	最長	平均	最短	最長
大正二年	338	333	342	338	333	342	338	333	342
	338	333	342	338	333	342	338	333	342
大正元年	337	332	341	337	332	341	337	332	341
	337	332	341	337	332	341	337	332	341
四十四年	336	331	340	336	331	340	336	331	340
	336	331	340	336	331	340	336	331	340
四十三年	335	330	339	335	330	339	335	330	339
	335	330	339	335	330	339	335	330	339
四十二年	334	329	338	334	329	338	334	329	338
	334	329	338	334	329	338	334	329	338

右表ニヨリ之レヲ見レハ牝馬ノ懷胎期間ハ種類ニヨリテ一定セサルカ如キモ又年齢ニヨリ差等アルヘク一定日數ヲ見サル所ナリ然レトモ一般ニ牝馬ハ牝馬ヨリ懷胎日數多キヲ示ス所ナリ若シ明治四十一年以降大正二年ニ至ル六ヶ年二百九十七頭ノ牝馬中懷胎日數ノ最モ多キモノヲ見ルニ三百六十四日ニシテ最モ少ナキハ三百四日ニシテ平均ハ三百三十七日ヨリ三

百四十七日ノ間ニアルヲ知ルヘシ

(ハ) 生産率表

年次	前年種付牝馬數	性	頭生數	計數	生産百分率
明治二十六年	42	牝	15	15	35.7
同二十七年	36	牝	13	13	36.1
同二十八年	40	牝	14	14	35.0
同二十九年	35	牝	12	12	34.3
同三十年	38	牝	13	13	34.2
同三十一年	37	牝	12	12	32.4
同三十二年	33	牝	11	11	33.3
同三十三年	34	牝	12	12	35.3
同三十四年	32	牝	11	11	34.4
同三十五年	31	牝	10	10	32.3
同三十六年	30	牝	9	9	30.0
同三十七年	29	牝	8	8	27.5
同三十八年	28	牝	7	7	25.0
同三十九年	27	牝	6	6	22.2
同四十年	26	牝	5	5	19.2
同四十一年	25	牝	4	4	16.0
同四十二年	24	牝	3	3	12.5
同四十三年	23	牝	2	2	8.7
同四十四年	22	牝	1	1	4.5

右表ニヨルトキハ生産率ノ最高ハ明治三十一年ノ七七、六%ニシテ最低三十六年ノ三五、九%ニシテ二十一年平均生産率ハ五八、九%ニ過キス

(ニ) 死産流産數及率

該調査モ明治四十三年以前ハ之ヲ欠クテ以テ四十三年以降大正二年ニ至ル死産流産數ヲ調査スルニ左ノ如シ

Table with columns for Year (年), Births (出生), Deaths (死亡), Abortions (流産), and Production Rate (生産百分率). It includes data for various years from Meiji to Taisho.

右表ニヨルトキハ明治四十四年度ハ死産流産共ニ多カリシ外他ハ極メテ少數ナリ

(五) 貸付種牡馬數

Table showing the number of loaned breeding stallions (貸付種牡馬數) across different regions and years.

右表ニヨリ貸付種牡馬頭數ヲ見ルニ明治三十五年以降同四十年ニ至ル七年間ハ漸次貸付頭數ノ低減ヲ見ル所ナリ之レ果...

貸付種牡馬種類別現在表

Table detailing the current status of loaned breeding stallions by breed (種類別) and region (支廳別).

支廳別	種別										計		
	トロッター	ベルシ	サラブ	アング	クアライ	ハクニ	アング	アラブ	アラバ	クリアラ		内洋	キドラ
宗谷	二												
十勝													
釧路													
小樽													
函館													
計	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

右表ニヨレハ貸付種牡馬ノ最モ多キ支廳ハ網走支廳ニシテ二〇、〇%ヲ占メ之ニ次クハ河西ニシテ一、七%其他ハ一〇%以下ニシテ後志浦河釧路空知等之ニ次ク若シ種別ヨリセハトロッター種系最モ多ク三二、二%ヲ占メ之ニ次クハサラブレット種系ニシテ二六、八%第三ニ位スルハベルシ種系ニシテ一六、八%其他ハ一〇%以下ナルモ十四種類ノ多キニ達セリ若シ之レヲ輕種及重種ニ分ツトキハ輕種ニ屬スルモノハ七四、五%重種ニ屬スルモノハ二五、五%ナリトス

(六) 出張・種付

明治二十四年札幌郡江別村ニ乗用種牡馬第二マクタダイヤモンド號及短角種牡牛メーボキ號ヲ出張セシメ民有牝牛十二頭及牝馬三十五頭ニ種付ヲ施行セリ之レヲ出張種付ノ嚆矢トナス

同三十五年十勝廳振日高國ノ各所ニ種牡馬ノ出張種付ヲ行フ同三十六年廳振日高國ニ出張種付ヲ行フ同三十七年廳振日高國ノ各所ニ種牡馬ノ出張種付ヲ行フ同三十八年十勝廳振日高國走各々ニ出張種付及委託種付ヲ行フ同三十九年十勝廳振日高國走釧路渡島石狩ノ各地ニ種牡馬ノ出張又ハ委託種付ヲナセリ同四十年十勝廳振日高國走釧路渡島石狩ノ各地種牡馬ノ出張又ハ委託種付ヲナセリ同四十一年十勝廳振日高國走釧路渡島石狩ノ各地種牡馬ノ出張又ハ委託種付ヲ行ヘリ同四十二年十勝廳振日高國走釧路渡島石狩ノ各地種牡馬ノ出張及委託種付ヲナス同四十四年出張及委託種付ヲ廢止セリ出張種付開始以來十年委託種付開始以來七年ヲ經過セリ

(七) 拂下牝牡馬

明治四十三年以降大正二年ニ至ル四ヶ年ノ拂下種牡馬ハ六十八頭一萬三千六百六十五圓二十錢ニシテ一頭平均價格ハ百五十二圓四十三錢ニ當リ拂下牝馬ハ九十三頭二萬五千八百七十四圓ニシテ一頭平均價格ハ三百二十一圓二十二錢ニ當リ廢馬トシテ賣拂シタルモ種牡馬及使役馬ハ二十八頭五千二百二十五圓ニシテ一頭平均百八十二圓八十五錢ニ當レリ今種類別年齢別平均價ヲ表示スレハ左ノ如シ

均價ヲ表示スレハ左ノ如シ

種類	年齢	種別												
		トロッター	ベルシ	サラブ	アング	クアライ	ハクニ	アング	アラブ	アラバ	クリアラ	内洋	キドラ	フリオ
種牡馬	二才	101	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	三才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	四才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	五才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	六才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	七才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	八才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	九才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	十才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	十一才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
種牝馬	二才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	三才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	四才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	五才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	六才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	七才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	八才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	九才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	十才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	十一才	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111

右表最高價ノ拂下ハ種牡馬豐平號ニシテ二十二歳ノ高齡ナルモ千四百圓ニ拂下ケラル牝馬ニアリテハクアライデスデル三歳五百五圓ヲ最高トス而シテ最低拂下ハ種牡馬ニアリテハトロッター種十七歳六十圓牝馬ニアリテハ洋種八十圓等ニシテ廢馬ニアリテハ最高トロッター種三歳三百七十五圓最低廢馬十四歳三十五圓ナリ

(八) 使役馬

明治四十三年迄ハ使役馬トシテ牡馬ヲ常置シ試情馬及放牧牛馬ノ看視乗用等ニ供セシ耕用トシテハ別ニ蕃殖牝馬ノ不妊馬ヲ使役セシカ爾來使役馬ノ老齡ニ達スルヤ拂下ヲナシ其補充ヲ購買スルコトナク返納種牡馬ヲ利用シ耕作用馬トシテハ從來ノ如ク不妊馬ヲ使役スル所ニシテ大正二年未現在使役馬ハ十四頭ナリ今之レヲ表示スレハ左ノ如シ

使役馬現在表

Table with columns: 種類 (Type), 名 (Name), 號 (Number), 生年月日 (Date of Birth), 毛色 (Color), 体尺 (Body Measurements), 產地 (Origin), 血統 (Pedigree). Rows include names like トロツター種, 第十二ペーベル, 第十八モルモン, etc.

計十四頭

(九) 飼養管理法 (1) 飼養法

飼養 種牡馬並ニ二歳三歳及四歳牡馬ハ周年舎飼ナレトモ四歳以上蕃殖牝馬並ニ二歳三歳及當歳馬ハ例年五月上旬ヨリ下旬マテハ晝間放牧ヲナシ朝飼ヲ給與ス六月初旬以降十月三十一日迄ハ食鹽ノミ與ヘ晝夜放牧シ十一月一日ヨリ翌年四月下旬マテハ舎飼トス

大正二年度馬匹飼料給與表

Table with columns: 月次 (Monthly), 飼料 (Feed), 延頭數 (Total Headcount), 日頭數 (Daily Headcount), 草 (Hay), 糠 (Chaff), 豆 (Beans), 麥 (Wheat), 雜糧 (Miscellaneous). Rows for months 四月 through 十月.

月次	飼料	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量
計	三	二	一	十	十一												
月	月	月	月	月	月												
次	月	月	月	月	月												
料	料	料	料	料	料												

使役馬

月次	飼料	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量
計	十	十	十	九	八	七	六	五	四								
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月								
次	月	月	月	月	月	月	月	月	月								
料	料	料	料	料	料	料	料	料	料								

月次	飼料	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量
計	三	二	一														
月	月	月	月														
次	月	月	月														
料	料	料	料														

四歳牡馬

月次	飼料	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量
計	三	二	一	五	四												
月	月	月	月	月	月												
次	月	月	月	月	月												
料	料	料	料	料	料												

備考 六月以降ハ貸付セリ

三歳牡馬

月次	飼料	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量	延頭量	頭量
計	七	六	五	四													
月	月	月	月	月													
次	月	月	月	月													
料	料	料	料	料													

月次飼料	燕		麥		牧草		草		藜		菜		鹽	
	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量
三月	一六二八〇	八〇四	二〇	二〇	一〇	八〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
二月	一六二八〇	八〇四	二〇	二〇	一〇	八〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
計	三二五六〇	一六〇八	四〇	四〇	二〇	一六〇	二〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二〇	二〇〇

備考 七、八、九、十、十一、ノ五ヶ月間ハ放牧ス

二歳牝牡馬

月次飼料	燕		麥		牧草		草		藜		菜		鹽	
	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量
三月	一五九〇〇	八〇四	二〇	二〇	一〇	八〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
二月	一五九〇〇	八〇四	二〇	二〇	一〇	八〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
一月	一五九〇〇	八〇四	二〇	二〇	一〇	八〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
計	四七七〇〇	二四〇八	六〇	六〇	三〇	二四〇	三〇	三〇〇	三〇	三〇〇	三〇	三〇〇	三〇	三〇〇

備考 七、八、九、十、ノ四ヶ月間ハ放牧シ十一月、十二月、ノ二ヶ月間ハ牝牡ヲ分チテ給與セシニヨル

當歳牝牡馬

月次飼料	燕		麥		牧草		草		藜		菜		鹽	
	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量
十一月	七二〇〇〇	三〇〇	一〇	一〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
計	七二〇〇〇	三〇〇	一〇	一〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇

月次飼料	燕		麥		牧草		草		藜		菜		鹽	
	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量
十二月	三九二〇〇	一四八	一〇	一〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
計	三九二〇〇	一四八	一〇	一〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇

半含飼牝馬

月次飼料	燕		麥		牧草		草		藜		菜		鹽	
	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量
十一月	一五八〇〇	一〇〇	一〇	一〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
計	一五八〇〇	一〇〇	一〇	一〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇

病馬

月次飼料	燕		麥		牧草		草		藜		菜		鹽	
	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量
二月	三三六〇〇	一四〇	一〇	一〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
一月	三三六〇〇	一四〇	一〇	一〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
計	六七二〇〇	二八〇	二〇	二〇	二〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二〇	二〇〇

月次	飼料		麥		牧草		草		糠		糞	
	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量	頭	量
計	五〇八八	九三〇	三六	九三〇	一三六	九三〇	四七	九三〇	三九	九三〇	七五	九三〇

(口) 馬匹ノ管理法

厩舎 厩舎ハ現在種牡馬厩四棟、牝馬厩三棟、幼馬厩一棟、追込厩二棟ニシテ之等ノ厩舎ハ何レモ高燥ナル箇所ヲ撰定シ各厩適宜ノ距離ヲ以テ南北ニ長ク建設シ追込厩ヲ除クノ外皆南北ニ入口アリ其中央ハ通路ニシテ兩側ニ馬房ヲ設ケ而シテ各房外壁ニ一窓ヲ造リ空氣ノ流通並ニ光線ノ透入ヲ計レリ厩床ハ平坦ニシテ少許ノ石灰及砂ヲ以テ適度ノ硬度ヲ保タシメ蹄ノ保護及掃除ニ便ナラシム馬房及通路ハ種牡馬厩ニ於テハ各房ノ間口及奧行共ニ二間ニシテ通路ハ一間半トス牝馬厩及幼馬厩ニ於テハ各房ノ間口奧行共ニ一間半自至二間ニシテ通路モ亦一間半乃至二間トス此ノ如ク各房不同アルハ馬匹ノ大小ニヨリ適宜配厩スルヲ以テナリ

掃除 早朝糞尿ニ汚染シタル糞糞ハ悉ク之レヲ取り出シ其汚染甚タシカラサルモノハ之レヲ分チテ日光ニ乾シ夕刻糞糞ト共ニ加與ス而シテ一日數回房内ヲ檢シ糞糞ハ其都度之レヲ除去シ房壁ノ汚物ハ其ノ附着當時直チニ之レヲ洗去清拭セリ厩槽ハ食後必ス洗滌シ務メテ房内ノ清潔ヲ圖リ夏季ニ於テハ出入口ハ勿論房ノ窓戸ヲ開放シ空氣ノ流通ニ便スト雖モ冬季寒冷ノ候ニ於テハ單ニ出入口ヲ開放ナシ空氣ノ新陳代謝ノ行ハル、ヲ待テ之ヲ閉シ可及的保溫ニ勉ム舍ノ通路及其他附近ハ飼付後必ス掃除整頓ヲナセリ

手入、削蹄 手入ハ何レノ馬匹ヲ間ハス運動後發汗ノ乾クヲ待テ鐵櫛根ヲラツシユ、毛ヲラツシユ、木櫛等ヲ使用シ手ヲ以テ撫シ汚垢ノ附着セサルヲ度トス而シテ後布巾ヲ以テ額面、肛門陰部等ヲ清拭シ蹄ハ微温湯ニテ充分ニ洗滌シ附着セル汚穢物ヲ去リ後干乾拭シ蹄底ニ蹄油ヲ塗布シ壁面ハ單ニ光澤ヲ付スルニ止ム各馬ヲ論ヤス毎月一回必ス削蹄ヲ行フト雖モ尚ホ毎日厩舎ヲ巡視シテ各馬匹ヲ檢査シ過長部ハ時々鋸削矯正シ其過失ナキヲ期セリ

運動 種牡馬中乗用ノモノハ一日一回一時間ノ乘運動ヲナス其歩度ノ配合ハ始メ常歩次ニ速歩次ニ駈歩次ニ及ヒ後テ漸次速歩ニ移リ次ニ常歩ニ復シ以テ完了ス而シテ農用種牡馬ハ夏季ハ車又ハ板棹冬季ハ棧ヲ以テ曳運動一時間トス種付期間ニハ尙ホ午後三十分間ノ運動ヲ課ス三歲牡馬ハ十月迄ハ特別牧夫(十二三歲ノモノ)ノ騎乘及廻運動ヲナシ十一月ヨリ乘運動ヲ始ム其始メハ常歩ノミニテ次ニ速歩ヲ教ヘ漸次慣ル、ニ從ヘ駈歩ヲ教ヘ且ツ其運動時間モ亦次第ニ増加スルモノトス當歲

及二歲ハ一日一回一時間ノ追運動ヲナシ蕃殖牝馬ハ夏季ハ山野ニ放牧シ舍飼時ニ在リテハ牝馬厩附屬ノ馬場ニテ追運動ヲ行ヒ初メ常歩ニテ速歩ニ移リ終リニ常歩トス其ノ時間約一時間トナス

種付 種牡馬ノ種付回数ハ朝夕二回トス朝ハ遲クモ午前七時夕ハ早クモ午後五時ニ開始ス配合牝馬頭數ハ乘用種ノモノハ五十頭農用種ノモノハ六十頭ノ限度トシ若馬又ハ高齢ノモノハ其ノ頭數ヲ適宜ニ定ム而シテ此期間ニ於テハ飼養ノ項ニ於テ述ヘタルカ如ク充分ノ増飼ヲナシ且ツ飼付及間食回数四回トナシ運動ハ午前一時午後三十分ノ二回各速歩運動及ヒ曳運動ヲ課シ種牡馬三頭ニ牧夫一人ヲ附クルヲ以テ手入モ亦二回之レヲ行フ蕃殖牝馬ハ毎日二回朝夕試情ヲナシ發情ノ如何ヲ檢シ其適期ヲ見テ種付ヲナセリ

育成 晩秋舍飼ヲ始ムルニ當リ種馬乘用種ヲ區別シ其豫定分娩期日ノ相接近セルモノヲ整然一厩舍内ニ收容シ以テ蹴傷其他ニ起因スル流産及早産ヲ避ケ分娩時ニ於ケル取扱上ノ不便ナラサルニ務メ愈々分娩期ニ入ル時ハ看護人ヲシテ徹夜各厩ヲ巡視セシメタリ之レ産兒強健ナル時ハ生後暫時ニシテ起立シ自ラ母馬ノ乳頭ニ口付クルモ時ニ虛弱ニシテ哺乳シ能ハサルモノ及初産牝馬ニシテ仔兒ヲ哺乳セシメサルモノ並ニ胞衣ノ儘出產スルモノ又ハ難産等アルヲ以テ之レニ充分ノ注意ヲナサシメ危險ナキヲ期セリ

生後一週間ニ及ヘハ晴天ノ日ヲ撰ヒテ母仔共ニ運動場内ニ放テ漸次外氣ニ慣レシメ且ツ自由運動ヲナサシム此時期ニ及ヘハ産兒ハ己ニ母馬ノ飼槽ニ口付クルニ至リ加フルニ母馬ノ食慾モ亦増加シ來ルヲ以テ飼養ノ項ニ述ヘタルカ如ク豫メ増飼ト共ニ飼付回数増加シ且ツ間食ヲ與ヘタリ而シテ生後一ヶ月ニ及ヘル放牧ヲ始メテ之レニ慣レシメ氣候暖氣ヲ加フルニ從ヒ母ト共ニ晝夜放牧ス以後母馬ノ乳汁ト青草ノ採食ニ委スルト雖モ常ニ其狀態ニ留意シ下痢感冒等ノ不幸ナキヲ期セリ十一月ニ入り漸次秋冷ヲ催シ降雪ヲ見ルニ及ンテ離乳ス離乳後ノ幼駒ハ全部追込厩ニ收容シ一日六回ノ飼付及一回ノ運動後ハ牧夫ヲシテ常ニ幼駒ノ身邊ヲ履シメ充分ノ手入ヲナサシムト同時ニ能ク人ニ慣レシメ且ツ肢ヲ舉上シ蹄裡ノ汚物ヲ除去輕打數回ヲ與ヘ或ハ面綱ヲ裝スルコト等ニ慣レシメ二歲ニ及ヘハ牽運動及廻運動ヲ教ヘ三歲ニ及ヘハ漸次水靱及鞍ヲ裝置スルコトニ慣レシメ以テ小兒牧夫ヲシテ騎乘ヲ教ヘシメ末年ニ至レハ自由ニ乘運動ヲナシ得ルカ如ク訓練シ調教ヲ加ヘ遂ニハ歩様其他ヲ修得セシムルニ勉メタリ

(九) 馬匹飼育費調査表

種馬	畜別	頭數	舍飼期間		延頭數		大豆	牧草	藁	根菜	糠	糞	人夫賃	雜費	計	飼育平均
			日數	頭數	日數	頭數										
九	白	五	四	一	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
五	七	月	卅	一	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

畜別	畜頭數	舍飼期間	延日數	飼料										計	一頭平均		
				燕麥	大豆	牧草	紫萁	根菜	穀	鹽	人夫賃	雜費					
計	九	自八月一日至三月一日	二二〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
四歲以上	六〇	自四月一日至七月一日	一五〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	六〇	自四月一日至七月一日	一五〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
三歲牝馬	五	自四月一日至三月一日	一〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	五	自四月一日至三月一日	一〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
二歲牝馬	三三	自七月一日至十二月一日	一〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	三三	自七月一日至十二月一日	一〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
常馬	三六	自十一月一日至二月一日	一〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	三六	自十一月一日至二月一日	一〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
病馬	一〇	自六月一日至十一月一日	一〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

運動(A)運動場ハ各厩舎ヲ接續シテ區劃設備シ其面積種馬厩ノ分ハ一厩毎ニ平均百九十坪ヲ有シ高サ六尺ノ土疊ヲ以テ之カ周圍ヲ境界シ、牝馬厩ノ分ハ南北ニ併立セル各厩ノ間隔餘地此面積三千三百坪ニ各厩ヲ概九太造ノ木柵ヲ以テ聯絡セシメ其中間ヲ各區ニ仕切り以テ之ヲ運動場ニ充用セリ、厩舎ノ分ハ各厩毎ニ面積六十坪ヲ高サ一間幅一尺ノ石垣(軟石造)ヲ以テ區劃シ、雞舎ノ分ハ接續地四百二十坪ニ竹垣ヲ周ラシ更ニ各房幅一間半毎ニ區劃セリ(B)追込ハ厩舎ニ接續セル追込運動場ヲ指示セルモノト認メタルヲ以テ之レハ前述各厩ノ運動場ト同一ノモノニ付キ之ヲ省略ス(C)馬場ハ各厩集地點ノ南方接續地ニ中心距離一哩十間幅凡ソ十五間ノ土地ヲ區劃シ其中央ハ圃地ニ利用シ外割ハ長方形ノ牧柵、内割ハ楕圓形ニ割木柵ヲ周ラシ其面積約壹万參千五百拾坪ヲ有セリ上記厩舎接續ノ運動場ハ牝馬ノ外夏冬共當該厩舎ニ繋飼セル家畜ノ追運動ニ便シ特別ノ運動方法トシテハ種牝馬中適齡以上ニシテ種付供用ノ内乗用種ノモノハ馬場若クハ構内適宜ノ空地ニ於

テ毎日午前給飼前約一時間ノ乘運動(歩度ノ配合ハ常歩ヨリ速歩次ニ駈歩ニ至リ後テ速歩ニ移リ次ニ常歩ニ復ス)農用種ノモノハ夏季ハ四輪車又ハ板棧冬季ハ棧ヲ以テ曳運動一時間ヲ行ヒ種付期間内ハ更ニ午後三十分間宛尙以上ノ運動ヲ課シ明細牝馬ハ九月十日頃ヨリ特別牧夫十二才ノモノヲ騎乗セシメ十一月ヨリ普通ノ乘運動ヲ始ム其始メハ常歩ノミニシテ次ニ速歩ヲ教ヘ漸次慣ル、ニ從ヒ駈歩ヲ教ヘ且ツ其運動時間モ次第二増加ス當歲及二歲ハ一日一回一時間ノ追運動ヲ爲ス冬季ニ於ケル蕃殖牝馬ハ牝馬厩付屬ノ運動場又ハ馬場ニ於テ追運動ヲ行ヒ初メ常歩ニテ速歩ニ移リ再ヒ常歩ニ復シ終リス其時間一時間トス

六、綿羊

(一) 沿革

明治二十一年七月 札幌牧羊場ノ廢止ニ決定スルヤ從來飼養セシ牧羊ノ淘汰拂下ヲナシ其殘部ハ之ヲ二分シテ一部ハ札幌農學校ニ移シ一部ハ之ヲ種畜場ニ移畜セリ其種類ハ「メリノー」「サウスダウソン」「コックウオールド」ノ三種ニシテ牝羊百三頭、牡羊二十七頭合計百三十三頭ナリシモ斃死四頭ヲ出シ六頭ヲ撲殺セシヲ以テ同年末ニハ百二十頭ニ減シ左ノ種類頭數ヲ飼養スルニ至レリ

明治二十一年末

種類	性	頭數	種類	性	頭數	種類	性	頭數	種類	性	頭數	合計
メリノー種	牝	20	コックウオールド種	牝	47	サウスダウソン種	牝	7	計	牝	27	合計
	牡	4		牡	16		牡	93		牡	120	

當時牧羊ニ關係セルモノノ談ニ依レハ「コックウオールド」種ハ成績比較的良好ニシテ牧羊ノ如キハ三十貫以上ニ達セシト云フ而シテ其數モ亦他種ニ比シテ多カリシヲ知ルヘシ

翌二十二年ニ至リ生産増加セシモノ六十一頭ナリシモ老衰虛弱或ハ体格不良ナル者五十頭ヲ屠殺シ又札幌官園ニ移シ五十頭ニ縮少セリ其種類頭數ハ左ノ如シ

明治二十二年

種類	性	頭數	種類	性	頭數	種類	性	頭數	種類	性	頭數	合計
メリノー種	牝	6	コックウオールド種	牝	22	サウスダウソン種	牝	2	計	牝	44	合計
	牡	2		牡	2		牡	6		牡	50	

爾來其増加稍遲々タル觀アルモ年々増加シテ二十三年ハ六十六頭、二十四年ハ八十一頭、二十五年ニ於テハ百二頭ノ年末現在數ヲ見ルニ至レリ其蕃殖狀況ヲ調査スルニ蕃殖歩合ハ平均七割三分強ニシテ最高七割六分強ヲ示シ甚タシク不良ト云フヘカラス各種類ノ強弱適否ハ之ヲ決定スヘキ資料ニ乏シキモ何レモ適セサルモノト認定スヘキ理由ナキヲ以テ見レハ各種共ニ適種ナルヲ證スヘシ
今蕃殖歩合ヲ表示スレハ左ノ如シ

年次	種付 ¹⁾ 牝羊數	生殖羊數	生産歩合(百分率)
明治二十三年	三三〇	二二〇	七二・七〇
明治二十四年	三四三	二二〇	七六・四七〇
明治二十五年	四二四	三〇〇	七〇・七〇
平均	三六	二六	七二・八三八

明治二十六年ニ至リ村上要信氏種畜場長トナルヤ從來ノ牧羊ハ試驗事業ナリシモ試驗法ノ改良ヲ要スルモノアリトシ左ノ方法ヲ取レリ

種類ノ撰擇及配合 從來飼養ノ種類中「メリノ」種ハ最モ虚弱ニシテ本道ニ適セサルモノトナシ「サウスダウソ」種「コウソウオールド」種ノ蕃殖ヲ圖リ「メリノ」種ノ牝羊ニ「サウスダウソ」種牝羊又ハ「コウソウオールド」種牝羊ヲ配スルニ至レリ然レトモ如斯基優等牝ニ劣等ノ牝ヲ配スルハ良好ノ蕃殖法ニアラサルヲ以テ二十六年之ヲ改メ飼養管理、撰擇配合ノ方法ヲ嚴ニシ「メリノ」種ノ蕃殖ヲ主トシ且ツ「メリノ」種ノ血液七分五厘「サウスダウソ」種ノ血液二分五厘マテ組成セシモノヲ蕃殖スル方針ヲ取リ之ヲ實行セシニ其結果頗ル良好ナリ加之同年以降ノ經驗ニ徴スルニ「メリノ」種ハ最モ壯健ニシテ「サウスダウソ」種之ニ次キ「コウソウオールド」種ニ至リテハ冬期ノ飼養ニ充分ノ穀類ヲ要スルノミナラス病死多ク最モ虚弱ナル事ヲ認メタリ

飼養ノ改良 從來飼料トシテ日々乾草、根菜、燕麥或ハ穀ヲ與ヘタリシカ經濟上損失ヲ免レス因テ冬期仔羊ニハ凡ソ一二ヶ月間牝羊ニハ分娩前後、牡羊ニハ配合季節ノミ燕麥ヲ與ヘ他ハ牧草及根菜ノミヲ給與セシニ大ニ費用ヲ節シ且ツ綿羊ハ頗ル壯健トナレリ

淘汰 老衰、虚弱、蕃殖ノ目的ナキモノ二十五頭ヲ二十六年中ニ拂下ケタリ
 斯ル方針ノ下ニ牧羊ニ意ヲ注キタル結果漸次其成績良好トナリ二十六年以降三十二年ニ至ル六ヶ年間ハ蕃殖歩合モ最高九割三分ヨリ九割一分ノ好況ヲ示シ五割五歩ヲ最低トナシ約七割四分ノ蕃殖ヲナセリ其成績佳良ナリト云フヲ得サルモ二十三年前ニ比シ良好ナルニ至レリ

以上ノ方針ト共ニ二十六年以來羊數ヲ増加シ三十一年ニ至リ百七十三頭ニ達セリ此間「コウソウオールド」及「サウスダウソ」種牝羊ニ「メリノ」種牝羊ヲ配シ其雜種ヲ得タルニ産兒強健ナルト一方牝羊ヨリ毛質善良ナルモノヲ得ルニ至レリ二十八年日清戰役後清國羊牝一頭、牡四頭アリシモ蕃殖ヲ見ルニ至ラスシテ拂下又ハ斃死シ成績ヲ擧ケサリシヲ遺憾ナリトス爾來牧羊ハ同一ノ方針ノ下ニ行ハレ羊數亦増加シ三十六年海外ヨリ種畜購入ノ事アルヤ「サウスダウソ」種牝二頭、牝二頭ヲ購入シ明治十四年以來新血輸入ノ途絶ヘタリシカ茲ニ新血ヲ注入スルノ擧ニ出テタルハ牝羊ヲ五百頭ニ増殖シ而シテ民

間ニ仔羊拂下計畫ヲナシタルニヨルモノニシテ三十七年以降牝羊數次第ニ増加ヲ示セリ而シテ同三十九年ノ漁出張所ノ移轉羊舍事務所落成ト共ニ牧羊ヲ擧ゲテ漁出張所ニ移畜スルニ至レリ此年英國ヨリ種牝羊一頭、牝羊一頭ヲ購入シ又護羊犬ヲ下總御料牧場ヨリ購入セリ斯ル施設ノ下ニ明治三十五年二百頭ニ上リシ以來著シキ増加ナキモ年末現在數ハ二百頭以上ニ達セリ

(二) 種羊頭數

年度	種羊頭數
明治三十五年	一九
明治三十六年	二九
明治三十七年	九八
明治三十八年	一一〇
明治三十九年	一五五
明治四十年	一五五
明治四十一年	一九七
明治四十二年	二二四
明治四十三年	二二四
明治四十四年	二二八
明治四十五年	二六〇
明治四十六年	三〇四

(三) 種牝羊

年度	種牝羊頭數
明治三十五年	三
明治三十六年	三
明治三十七年	二
明治三十八年	二
明治三十九年	二
明治四十年	二
明治四十一年	四
明治四十二年	四
明治四十三年	五
明治四十四年	三

(四) 蕃殖牝羊

年度	種牝羊頭數
明治三十五年	一〇三
明治三十六年	一八
明治三十七年	二二
明治三十八年	二七
明治三十九年	四〇
明治四十年	五二
明治四十一年	五九
明治四十二年	五〇
明治四十三年	一〇〇
明治四十四年	一〇〇
明治四十五年	一〇三
明治四十六年	一〇三
明治四十七年	一〇〇
明治四十八年	一〇〇
明治四十九年	一〇〇
明治五十年	一〇〇
明治五十一年	一〇〇
明治五十二年	一〇〇
明治五十三年	一〇〇
明治五十四年	一〇〇
明治五十五年	一〇〇
明治五十六年	一〇〇
明治五十七年	一〇〇
明治五十八年	一〇〇
明治五十九年	一〇〇
明治六十年	一〇〇
明治六十一年	一〇〇
明治六十二年	一〇〇
明治六十三年	一〇〇
明治六十四年	一〇〇
明治六十五年	一〇〇
明治六十六年	一〇〇
明治六十七年	一〇〇
明治六十八年	一〇〇
明治六十九年	一〇〇
明治七十年	一〇〇
明治七十一年	一〇〇
明治七十二年	一〇〇
明治七十三年	一〇〇
明治七十四年	一〇〇
明治七十五年	一〇〇
明治七十六年	一〇〇
明治七十七年	一〇〇
明治七十八年	一〇〇
明治七十九年	一〇〇
明治八十年	一〇〇
明治八十一年	一〇〇
明治八十二年	一〇〇
明治八十三年	一〇〇
明治八十四年	一〇〇
明治八十五年	一〇〇
明治八十六年	一〇〇
明治八十七年	一〇〇
明治八十八年	一〇〇
明治八十九年	一〇〇
明治九十年	一〇〇
明治九十一年	一〇〇
明治九十二年	一〇〇
明治九十三年	一〇〇
明治九十四年	一〇〇
明治九十五年	一〇〇
明治九十六年	一〇〇
明治九十七年	一〇〇
明治九十八年	一〇〇
明治九十九年	一〇〇
明治一〇〇年	一〇〇

右表中明治三十五年迄ハ在來種ナリ而シテ三十六年英國ヨリ二頭ノ牝羊入場シタルヲ以テ全部更新シ得タルモ一頭斃死ノ爲メ在來種一頭及輸入種一頭ヲ種羊トシ牡羊ハ之レヲ廢止セリ四十年ニ至リ四頭トナリシハ三十九年英國ヨリ再ヒ二頭ノ牝羊入場セシヲ以テナリ

右表ニヨルトキハ牝羊中「メリノ」雜種最モ多ク頭數ニ於テハ明治三十五年以降牝羊逐年増加シ明治四十二年ニ於テハ二百六十九頭ニ達シ牝羊五百頭ヲ蕃殖羊トナスノ日期待スヘカリシニ四十三年遂ニ廢止スルニ至リ爾來全部拂下ヲナスニ二ヶ年ヲ要シ同四十四年ニ全部拂出ヲナスニ至レリ

(イ) 蕃殖成績

年次	種付牝羊數	生殖羊數	蕃殖歩合	年末現在數
明治三十五年	六〇	六二	一〇三	一一三
同三十六年	六八	六二	九〇	一五三
同三十七年	八五	七九	九二	一五五
同三十八年	九二	八六	九三	一五五
同三十九年	一一九	一一〇	九二	一七二
同四十年	一三九	一〇四	七四	一五五
同四十一年	一三九	一〇四	七四	一五五
同四十二年	一三五	一〇三	七五	一五五
同四十三年	一五三	一〇〇	六六	一五五
同四十四年	一五三	一〇〇	六六	一五五

右表ニヨレハ明治三十五年以降逐年増加ヲ示シ其蕃殖成績ニ至リテハ「サウスダウソ」種ノ如キ多産種トシテハ良好ナリト言フヘカラスト雖モ九〇%或ハ九二%ニ達セシヲ示セリ

(ロ) 剪毛成績

年次	性	年度首頭數	一頭平均剪毛量	剪毛量	羊毛一斤販賣價額	羊毛總價額
明治三十五年	牝	一九五	三・四七	五二三	三二六	一六二〇八
同三十六年	牝	一九九	四・三〇	四七八	三七〇	一七六八〇
同三十七年	牝	二〇八	五・八一	六五八	三七〇	一四三三六〇
同三十八年	牝	二二四	四・八四	七四二	三七〇	一七四二七〇
同三十九年	牝	二五五	五・二二	一〇〇七	四二〇	四二八七〇

剪毛成績ニ至リテハ見ルヘキモノ少シト雖モ其減少セル理由ヲ攻究シ之レカ改良ヲナシタルモノナキハ本道牧羊獎勵上最モ遺憾トセサルヘカラサル所ナリ
更ニ種類別一頭平均剪毛成績表ヲ擧クレハ左ノ如シ

剪毛成績表

種類	年次	頭數	一頭平均剪毛量	剪毛量	羊毛一斤販賣價額	羊毛總價額
同	四十年	一九五	三・四七	五二三	三二六	一六二〇八
同	四十一年	二三四	四・三〇	四七八	三七〇	一七六八〇
同	四十二年	二三四	五・八一	六五八	三七〇	一四三三六〇
同	四十三年	二四七	四・八四	七四二	三七〇	一七四二七〇
同	四十四年	二六二	五・二二	一〇〇七	四二〇	四二八七〇

以上成績ハ極メテ簡單ナリト雖モ三十六年以來二回種羊ノ輸入ヲ計リ以テ多少其効果ヲ認ムヘキモノナランニ何等ノ微スヘキモノナキヲ遺憾トス殊ニ肉用種ナル同種ニ就キ生体量ヲ秤量セサリシハ同種「サウスダウソ」種ノ發育状態ヲ知り得サルモノニシテ最モ遺憾トスル所ナリ然レトモ以上ノ成績ヲ調査スルトキハ蕃殖成績ハ多産種ノ「サウスダウソ」種トシテハ良好ナラサルハ勿論ナルモ三十八年ハ八割六分、三十九年ハ九割ノ成績ヲ示スヲ以テ牧羊ノ有望ナルヲ知ルヘシ

(五) 綿羊各年度移動表

年次	性	年度首數	生産數	斃死數	拂下數	年度末現在數	母羊	羊仔	年内延頭數
明治三十五年	牝	二二六	二二	一〇	一五九	二九八	四七〇	八五	六六八九
同三十六年	牝	一九六	九	三	一五九	二九八	四七〇	八五	六六八九
同三十七年	牝	一九六	九	三	一五九	二九八	四七〇	八五	六六八九
同三十八年	牝	一九六	九	三	一五九	二九八	四七〇	八五	六六八九
同三十九年	牝	一九六	九	三	一五九	二九八	四七〇	八五	六六八九
同四十年	牝	一九六	九	三	一五九	二九八	四七〇	八五	六六八九
同四十一年	牝	一九六	九	三	一五九	二九八	四七〇	八五	六六八九
同四十二年	牝	一九六	九	三	一五九	二九八	四七〇	八五	六六八九

年次	飼養頭數	飼料費	人夫賃	雜費	出計	仔羊	母羊	羊毛	入計	差引
明治三十六年	牝牝	二九八	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 三十七年	牝牝	二八〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 三十八年	牝牝	二九四	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 三十九年	牝牝	二九四	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 四十年	牝牝	二九四	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 四十一年	牝牝	二九四	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 四十二年	牝牝	二九四	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 四十三年	牝牝	二九四	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 四十四年	牝牝	二九四	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五

右表ニヨルトキハ三十五年以降同四十四年ニ至ル十ヶ年間ノ生産頭數ハ七百十八頭ニシテ斃死頭數ハ三百六十八頭即チ五
一、二%ノ多キニ達シタルハ牧羊上悲觀ヲ呈スルカ如キモ其原因ニ於テハ周到ナル研究ナキヲ以テ之レカ判定ニ苦ムヘシ
然レトモ産兒ノ斃死大多數ヲ占メ蠶虫ノ寄生ニ起因スルモノ最モ多キニヨリ之レヲ見レハ全ク飼養管理上周到ナラサルニ
ヨルモノト認ムル外ナキナリ
如斯北海道種畜場ニ於ケル牧羊ハ一進一退其適否ヲ判定スヘキ資料ニ乏シク漠然トシテ年月ヲ送り四十二年ニ至リ牧羊
場廢止ノ議成リ北海道會之ヲ承認シテ本道ニ於ケル開拓使以來ノ牧羊ハ三十六年ノ歲月ヲ送りシニ何等ノ結論ナクシテ
消滅スルノ止ムナキニ至レリ而シテ本道ニ拂下ヲナセシモノ極メテ小數ニシテ函館時任牧場ニ牝四十頭、牡十頭、函館福
島平四郎ニ牝羊三頭、幌泉郡幌泉村竹内誠一ニ牝四頭、牡一頭、常呂郡常呂村泰周ニ牝一頭、牡一頭、上磯郡石別村岡田
普理江ニ牝二頭、牡一頭、茅部郡森村岡田小五郎ニ牝一頭、牡一頭、空知郡沼貝村榎本徹之助ニ牝十五頭、牡一頭等ニシ
テ殘餘ハ神戸市肉商ニ拂下ケ開拓使以來飼養蕃殖シタル牧羊全部ノ拂出ヲ終レリ

(六) 飼養管理法

1) 飼養法

夏期即チ六月上旬ヨリ十月下旬迄ハ放牧シ冬期即チ十一月月上旬ヨリ五月下旬迄舍飼ヲナス飼料ハ牧草、大豆殼、黍殼、燕
麥ヲ用ヒ仔羊ノ哺乳期中ハ穀ヲ與フ敷草ハ燕麥程ヲ使用ス

放牧ハ仔付牝羊ヲ一群トシ羊舍附近ノ牧草地ニ放牧シ他ハ年齢別ナク之レヲ一群トシテ天然放牧地ニ放牧シ看視人ハ牧夫
ヲシテ一頭ノ護羊犬ヲ伴ヒ管理ス
仔羊ノ飼養ハ分娩後ハ主トシテ母乳ニヨラシムルモ泌乳不足又ハ母羊ノ斃死シタルモノハ牛乳ヲ與ヘテ育成シ生後二週間
ニ至リ仔羊ノミ出入シ得ル一房ヲ設ケテ穀ヲ置キ自由ニ食セシム

(ロ) 管理法

羊舍ハ四字形ヲナシ一側ニ當歲羊他側ニ牡羊中央ニ牝羊ヲ置キ其外圍ニ運動場ヲ設ケ一坪ニ二頭平均收容セリ舍内ノ整理
ハ羊ヲ運動場ニ出シ又放牧地ニ送り後牧夫ノ妻女之ニ當リ二百六十頭ノ綿羊ヲ牧夫夫婦及護羊犬ニテ飼養管理ヲナセリ
分娩期ニ至リ哺乳介助假獨房ノ設置等ヲ來ヌヲ以テ傭人夫ヲ使用セリ
剪毛期ハ六月中旬ニ行ヒ本場員及牧夫ニテ之ヲ行フ

(七) 收支計算

年次	飼養頭數	飼料費	人夫賃	雜費	出計	仔羊	母羊	羊毛	入計	差引
明治三十五年	牝牝	二六〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 三十六年	牝牝	二六〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 三十七年	牝牝	二六〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 三十八年	牝牝	二六〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 三十九年	牝牝	二六〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 四十年	牝牝	二六〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 四十一年	牝牝	二六〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 四十二年	牝牝	二六〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 四十三年	牝牝	二六〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五
同 四十四年	牝牝	二六〇	一〇三	四四	一四四	三三	二〇	三五七〇	九〇六五	四四八三五

右表ニヨルトキハ過去十年間ニ支出スル金額ハ千九百四十八頭ニ對シ九千八百三十圓七十八錢七厘ニ當リ之レヲ各年一頭ニ對スル經費ヲ算スルニ最高七圓八十三錢、最低二圓六十三錢ニシテ總頭數ニ對スル一頭平均ノ經費ハ五圓四十二錢ニ當リ此外放牧地ノ青草アルモ飼養費及管理費トシテハ過少過多ナリト認ムヘカラス收入ニアリテハ剪毛量過少ナル結果各年支出超過ヲ示シ之ヲ頭數ニ割リ當ルトキハ一頭平均二圓八十三錢ニ當レリ若シ剪毛量一頭平均六斤ニ達スルトキハ剪毛價額ニ於テ五割餘ノ增收ヲナスヘク牧羊經費トシテ一頭平均一圓六七十錢ノ支出ニ足ル計算ナルモ若シ牝牡羊ノ蕃殖羊トシテ拂下ヲナストキハ從來ノ肉羊拂下價額ト異ナリ多少收益ヲ見ルニ至ルヘキヲ疑ハサル有様ナリ
今綿羊一頭一ヶ年ノ飼料用量及飼育費ヲ舉クレハ左ノ如シ

種牡羊	舍飼期間	舍飼日數	牧草	燕麥	穀	根菜	鹽	敷草	人夫賃	雜費	合計
終年		三六五	一〇九五〇〇	一〇八五	九〇	一〇九五〇〇	一〇八五	一〇九五〇〇	九二	三〇〇	一六、九〇四
牝羊	自十一月一日至五月卅一日	二〇一	六〇、〇〇〇	六〇三	二、五〇〇	三、一七六	一、〇〇五	六〇、三〇〇	四五六	一〇〇	六、六六二
仔羊	自十一月一日至三月卅一日	一四二	四、五〇〇	四六	一、四四九	四、六〇〇	七〇	四、三〇〇	二五	一〇〇	四、五九二

右表ハ舍飼期間ノ飼料費ヲ計算シタルモノニシテ夏期放牧ニ於ケル青草ハ之レヲ計算セサルモ人夫賃ハ包含セルモノナリ以上ノ如ク種牡羊一頭ニ付十六圓九十錢四厘ヲ要シ牝羊一頭ハ六圓六十九錢二厘、仔羊一頭ハ四圓五十九錢二厘ヲ要スト雖モ種牡羊數ハ僅ニ三頭ナルヲ以テ總綿羊頭數ニ對シ一頭平均飼養管理費ヲ算出スレハ左表ノ如ク五圓四十二錢ニ當レリ

七、豚

(一) 沿革

豚ノ飼養蕃殖ハ明治九年開場ト共ニ始メタルモノニシテ札幌官園ヨリ移シ其目的ハ肥料ノ製造及拂下ニシテ牧羊事業ト共ニ行ヒタルモノナク明治十五年ニ至リ同場收入増加ノ一策トシテ百餘頭ヲ購入シ内五十頭ヲ家畜房ノ床下ニ於テ牛飼料ノ廢棄物ヲ以テ之レヲ養ヒ他ハ別ニ廉價ノ飼料ヲ以テ之レヲ飼養シ何レモ生肉又ハ燻肉トシテ賣却セリ
明治二十年本場ノ改革ト共ニ養豚ヲ擴張シ元札幌牧場場ニ於テ飼養セル「パークシャー」種牝十三頭、牡五頭「チエスタ」種「ホワイト」種「サツフオーク」種種牝十頭、牡二頭ヲ入收シ又樺戶監獄署ヨリ「サツフオーク」種牝四、牡一ヲ移シ又米國

ヨリ「パークシャー」種牝八頭、牡二頭ヲ購入シテ種用ニ供セリ而シテ此年種豚貸與手續ヲ定メ告示スルニ至レリ其ノ主要ナル點ヲ舉クレハ一戸ニ付牝一頭、牝二頭ヲ貸與スルモノニシテ滿二ヶ年間ニ牝一頭、牝二頭ノ生後四ヶ月ニ達セル兒豚ヲ納メシメ母豚ハ之レヲ無代交付スルニアリテ明治二十年ヨリ同二十五年ニ至ル六ヶ年ニ貸付シタルモノハ牝百八十四頭、牡七十五頭ニ達シタルカ年末現在數ハ同二十年八十四頭ナリシモ同二十五年ハ三十八頭ニ減スルニ至レリ同二十六年ニ至リ從來ノ經驗上「パークシャー」種最モ強健ナルヨリ同種ノ蕃殖ヲナスト共ニ他ノ種類ハ雜種トナスニ至リ飼養管理上再ヒ家畜房下ニ飼養セリ爾來同二十八年迄ニ貸付シタルモノ牝五十五頭、牡三十九頭ナリ而シテ以上貸付規定ハ同三十一年廢止スルニ至レリ之レ民間豚ノ普及ヲ見ルト小家庭ニシテ各自購入シ得ルヲ以テ貸付ヲ廢止シ賣拂法ヲ取ルニ至リシナリ賣拂價額ハ明治四十三年ハ一番五圓、四十四年ハ八圓、大正元年ハ十圓、大正二年ハ十二圓、大正三年ハ十五圓ニシテ現時十五圓ノ拂下額ヲ維持スル所ナリ
同三十四年落雷ノ爲メ豚牝廿四頭燒死シ年末牝廿二頭ニ減少セリ同三十六年英國ヨリ購入セル「パークシャー」種牝二頭、牝二頭到着セリ同三十七年ニ至リ應令第二號ヲ以テ種豚交尾規則ヲ發布シ豚ノ貸付ヲ開始セリ同三十九年ニ至リ英國ヨリ「パークシャー」種牝廿各一頭ヲ輸入シ同四十二年月寒種畜場澁谷分場ヨリ「パークシャー」種豚牝廿各一頭ヲ購入シ又同四十四年二月月寒種畜場澁谷分場ヨリ「パークシャー」種一頭ヲ拂下ケ益斯業ノ改良ヲ計レリ

(二) 種 牡 豚

パークシャー種	明治三十五年	同三十六年	同三十七年	同三十八年	同三十九年	同四十年	同四十一年	同四十二年	同四十三年	同四十四年	大正元年	同二年
二	三	三	三	三	三	三	二	二	三	二	二	二

種牡豚ハ右表ノ如ク二頭乃至三頭ヲ定數シ之ニ二頭内外ノ候補幼豚ヲ飼養ス

(三) 蕃 殖 牝 豚

パークシャー種	明治三十五年	同三十六年	同三十七年	同三十八年	同三十九年	同四十年	同四十一年	同四十二年	同四十三年	同四十四年	大正元年	同二年
六	七	八	一五	一五	一七	八	三五	二	二	九	七	七

蕃殖牝豚ハ定數ヲ十頭トシ候補牝豚二頭ヲ飼養スルヲ以テ十二頭ヲ定數トナセリ尙秋期生産ノ牝豚貸付未済アルヲ以テ

各年末現在牝豚數多寡一定セス

(イ) 生産頭數

今明治三十五年以降大正二年ニ至ル年末現在數種付牝頭數、生産頭數及蕃殖歩合ヲ舉クレハ左ノ如シ

年次	年末現在頭數	種付牝頭數	生産頭數	蕃殖歩合
明治三十五年	一〇八	一〇六	二二	四〇
同三十四年	一一〇	一〇四	二六	四三
同三十三年	一〇八	一〇二	二六	四三
同三十二年	一一〇	一〇四	二六	四三
同三十一年	一一〇	一〇四	二六	四三
同三十年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二十九年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二十八年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二十七年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二十六年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二十五年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二十四年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二十三年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二十二年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二十一年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二十年	一一〇	一〇四	二六	四三
同十九年	一一〇	一〇四	二六	四三
同十八年	一一〇	一〇四	二六	四三
同十七年	一一〇	一〇四	二六	四三
同十六年	一一〇	一〇四	二六	四三
同十五年	一一〇	一〇四	二六	四三
同十四年	一一〇	一〇四	二六	四三
同十三年	一一〇	一〇四	二六	四三
同十二年	一一〇	一〇四	二六	四三
同十一年	一一〇	一〇四	二六	四三
同十年	一一〇	一〇四	二六	四三
同九年	一一〇	一〇四	二六	四三
同八年	一一〇	一〇四	二六	四三
同七年	一一〇	一〇四	二六	四三
同六年	一一〇	一〇四	二六	四三
同五年	一一〇	一〇四	二六	四三
同四年	一一〇	一〇四	二六	四三
同三年	一一〇	一〇四	二六	四三
同二年	一一〇	一〇四	二六	四三
同一年	一一〇	一〇四	二六	四三

右表ニヨリ之レヲ見レハ年末現在頭數ノ多少アルハ秋期分娩兒豚ノ發育充分ナラサルト冬期仔豚ノ拂下不可能ナルヨリ來ルモノ、如シ而シテ蕃殖歩合ハ過去十二年平均五〇七%ナリ

(ロ) 斃死頭數

今明治三十五年以降大正二年ニ至ル斃死豚頭數ヲ舉クレハ左ノ如シ

年次	斃死頭數
明治三十五年	一
同三十四年	四
同三十三年	一
同三十二年	一
同三十一年	一
同三十年	一
同二十九年	一
同二十八年	一
同二十七年	一
同二十六年	一
同二十五年	一
同二十四年	一
同二十三年	一
同二十二年	一
同二十一年	一
同二十年	一
同十九年	一
同十八年	一
同十七年	一
同十六年	一
同十五年	一
同十四年	一
同十三年	一
同十二年	一
同十一年	一
同十年	一
同九年	一
同八年	一
同七年	一
同六年	一
同五年	一
同四年	一
同三年	一
同二年	一
同一年	一

(四) 拂下成績

バークシャー種	生産數	明治三十五年	同三十六年	同三十七年	同三十八年	同三十九年	同四十年	同四十一年	同四十二年	同四十三年	同四十四年	同四十五年	同四十六年	同四十七年	同四十八年	同四十九年	同五十年	同五十一年	同五十二年	同五十三年	同五十四年	同五十五年	同五十六年	同五十七年	同五十八年	同五十九年	同六十年	同六十年	同六十二年
シヤー種	拂下數	二	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二

右表ニヨレハ拂下種豚希望者一盛一衰常ナキモノ、如シ而シテ生産數ヨリ拂下數多キハ秋期生産豚ノ持越アルカ故ナリ
今大正元年中拂下地方別ヲ表示スレハ左ノ如シ

バークシャー種	牝	牝	計
札幌區及	一七	一七	三三
小樽區	二	二	四
後志支廳	二	二	四
檜山支廳	一	一	二
函館支廳	一	一	二
空知支廳	三	三	六
網走支廳	二	二	四
宗谷支廳	一	一	二
計	三	三	六

右表ニヨレハ近距離ナル札幌區及札幌支廳及後志支廳等多キヲ見ル所ナリ

(五) 飼養管理法

(イ) 飼養法

豚飼料トシテハ各年四月ヨリ十月ニ至ル七ヶ月間ハ購入飼料ニヨルモノニシテ燕麥、玉蜀黍、米糠ヲ用ヒ時トシテ小麥、穀ヲ與フ十一月ヨリ三月ニ至ル期間ハ生産飼料ニヨリ玉蜀黍、根菜ノ煮タルモノ及購入飼料ナル米糠ヲ用キ種畜場内ノ生産物及副産物ノ利用上飼養スルモノ少ナク全々種畜生産ノ爲メ飼料ヲ購入シ夏期六月ヨリ八月ニ至ル三ヶ月間ハ脱脂乳ノ生産豊富ナルヲ以テ親豚ハ一日三升、仔豚一升ヲ與フ

(ロ) 管理法

畜舎二棟ニシテ各四十頭ヲ收容シ牧夫一名ヲシテ飼養管理ヲナシム而シテ豚舎ニ接続シテ設置セル約六百坪ノ放牧地アルヲ以テ之レヲ五區ニ分チ隨時放牧セリ仔豚ヲ四十日以上五十日ニ至リ發育良好ナルモノヨリ漸次離乳シ百日以上ニ達シタルモノヲ拂下ケツ、アリ

(六) 飼育費

畜別	頭數	舍飼期間	延飼日數	玉蜀黍	藁	根菜	鹽魚類	人夫賃	計	一頭平均飼育費
親豚	三	自四月一日至三月卅一日	三六五日	四三八〇〇	二九〇〇〇	四三八〇〇〇	約一三三四〇	五九二〇〇	五四二四五三	四五二七
仔豚	一五	自四月一日至五月卅一日	四三〇日	三二五三六〇	三五〇四〇	一七〇一〇	約六八三三	二二三〇〇	二八七七五〇	一五二〇
計			六八七五	九九〇〇〇	一三〇〇〇	一三七五〇〇〇	約一三三四〇	二二三〇〇	二八七七五〇	一五二〇

八、家禽

(一) 沿革

種畜場ニ於テ家禽ヲ開始セシハ明治二十二年七月札幌養鶏所ヲ廢シ其飼養家禽ヲ移入シタルニ起因セリ其種禽數左ノ如シ

種類	雌	雄	計
吐縷			八三三二羽
ブラマ			七三三一羽
スロツク			
マ			
計			一五六六三羽

斯クシテ家禽飼養ヲナシタルモ其目的定マラサリシト鶏舎モ穀物庫ノ床下ニ假設セルニ過キスシテ翌二十二年ハ吐縷鶏ハ孵化期ヲ逸シブラマスロツク種、ブラマ種ハ共ニ疫病ニ罹リ産卵セス同二十三年ニ至リブラマ種雌鶏二羽共ニ斃死シブラマスロツク種及吐縷鶏ハ強健ナリト雖モ穀庫ノ遺穀ヲ以テ飼養シ蕃殖ヲ見ルニ至ラス又種卵ノ賣却貸與ヲ行ハサリシノミナラス民間却テ良種ヲ飼養蕃殖スル有様ナルヲ以テ同二十六年ニ至リ悉ク公賣シテ家禽ヲ全廢スルニ至レリ同三十六年ニ至リ英米ヨリ種畜購買ヲナスト共ニ米國ヨリブラマスロツク種雌雄十二羽ヲ購入シ又養鶏用具一式ヲ購買シ再ヒ養鶏ヲ開始スルニ至レリ明治二十六年廢止セシ以來茲二十年ニシテ再興セリ而シテ同三十七年ヨリ種卵種禽ノ拂下法ヲ定メ良種ノ普及ヲ計レリ種卵ノ拂下價格ヲ一個十錢種禽ハ百日雛三羽番三圓ト定メ爾來同價格ヲ以テ拂下ヲナセリ同三十年米國ヨリ再ヒサイファア式孵卵器及假母器ヲ購入セリ同四十年ニ至リ再ヒ米國ヨリブラマスロツク種雌雄八羽ヲ輸入シ良種ノ普及ニ努メタリ同四十二年ニ至リ月寒種畜場澁谷分場ヨリ白色レクホン種種禽及種卵ノ拂下ヲ受クルニ至リ爾來産卵種及卵肉兼用種ノ蕃殖普及ヲナスニ至レリ

種卵ノ拂下ハ毎年三月以降六七月迄ニシテ期限ナク種禽ハ孵化後百日ヲ經テ拂下ヲナセリ

(二) 種鶏現在數及拂下成績

今明治四十三年以降大正二年ニ至ル種鶏ノ年首現在數及生産、斃死、拂下數ヲ表示スレハ左ノ如シ

年首現在	年産	年斃	年拂下	明治四十三年		同四十四年		大正元年		大正二年	
				雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄
一三六羽	一三二羽	一三二羽	一三二羽	一三六羽	一三二羽	一三六羽	一三二羽	一三六羽	一三二羽	一三六羽	一三二羽
一八二羽	一八二羽	一八二羽	一八二羽	一八二羽	一八二羽	一八二羽	一八二羽	一八二羽	一八二羽	一八二羽	一八二羽
九一羽	九一羽	九一羽	九一羽	九一羽	九一羽	九一羽	九一羽	九一羽	九一羽	九一羽	九一羽

右表ニヨレハ過去四ヶ年ノ年首現在種鶏ハ白色レクホン八十三羽、横班ブラマスロツク百九十九羽ニシテ生産數ハ白色レクホン三百八十八羽、横班ブラマスロツク六百三十五羽ナリ而シテ斃死ヲ除キ拂下ヲナシタルモノハ白色レクホン二百二十三羽、横班ブラマスロツク五百二十羽ナリ即チ白色レクホンハ種鶏一羽ニ對シ過去四ヶ年間ニ四羽六分ノ生産ヲナシ二羽七分ノ拂下ヲナセリ横班ブラマスロツクハ種鶏一羽ニ付三羽二分ノ生産ヲナシ二羽七分ノ拂下ヲナシタルヲ知ルヘシ今大正二年中拂下ヲナシタル種鶏ノ地方別ヲ表示スレハ左ノ如シ

種別	地方別	性	札幌區		後志		室蘭		釧路		空知		河西		増毛		檜山		小計		合計	
			雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄
連ブラマ	スロツク種	雌	二	八	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
白色レクホン	種	雌	三	七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

(三) 孵化成績

孵化器ハ米國製サイファア式ニシテ二月ヨリ七月ヲ孵化期トシ一ヶ年五回乃至七回孵化ヲ行フ明治四十二年ノ孵化成績ハ孵化ニ供用シタル卵數九百六十個ニシテ五百三十羽ノ雛ヲ得タルヲ以テ五六%弱ニ當リ同四十三年ハ五回ノ孵化ヲ行ヒ入卵數七百七個、孵化シタルモノ四百三十七個ニシテ六一、八%ヲ示シ無精卵ハ百五十四個二〇、七%發育中止一六、四%

ヲ示セリ

(四) 購入種鶏及種卵

種鶏ノ血液更新ニ留意シ年々種卵種鶏ヲ月寒種畜牧場盛谷分場ヨリ購入シツ、アリ之レヲ表示スレハ左ノ如シ

種	種	種	明治四十三年		同四十四年		大正元年		大正二年		大正三年	
			計	計	計	計	計	計	計	計		
白色	レク	ホン	種卵	六個	種卵	六個	種卵	六個	種卵	六個	種卵	六個
横斑	アリ	マス	種卵	三羽	種卵	六羽	種卵	六羽	種卵	六羽	種卵	六羽
白色	レク	ホン	種卵	二羽	種卵	六羽	種卵	六羽	種卵	六羽	種卵	六羽
横斑	アリ	マス	種卵	八羽	種卵	六羽	種卵	六羽	種卵	六羽	種卵	六羽

(五) 飼育費

種	種	種	飼養頭數		舍飼期間		小麥		魚		粕		貝		殼		人夫賃		計		飼一羽平均 育費
			親	雛	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計			
白色	レク	ホン	五〇	一五〇	三六五	二七五	一八二五〇	九二五〇	四一〇〇〇	三六五〇〇	一〇三〇	四五六五	一三六八七五	一九三三五	一三六八	三三六〇	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
横斑	アリ	マス	五〇	一五〇	三六五	二七五	一八二五〇	九二五〇	四一〇〇〇	三六五〇〇	一〇三〇	四五六五	一三六八七五	一九三三五	一三六八	三三六〇	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
白色	レク	ホン	五〇	一五〇	三六五	二七五	一八二五〇	九二五〇	四一〇〇〇	三六五〇〇	一〇三〇	四五六五	一三六八七五	一九三三五	一三六八	三三六〇	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
横斑	アリ	マス	五〇	一五〇	三六五	二七五	一八二五〇	九二五〇	四一〇〇〇	三六五〇〇	一〇三〇	四五六五	一三六八七五	一九三三五	一三六八	三三六〇	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八

種畜ハ一棟十二區ニ分チタル舍内ニ一雄五雌宛收容シ各區ニ對シ六十坪ノ竹柵ヲ以テ運動場ヲ設ケ晝間自由運動ヲナサシ

九、耕作

(一) 耕作々物ノ種類及作付反別

大正二年ニ於ケル耕作ハ牧草百八十五町步即チ全耕地ノ五一%燕麥百三十二町步三六、四%玉蜀黍三十四町步九、三%エン

シレージ用玉蜀黍九町步二、五%其他ハ蕎麥一町九反步、胡蘿蔔二反步ニシテ全作付反別ハ三百六十二町一反步ナリ
今最近十ヶ年間ニ於ケル耕作成績表ヲ舉クレハ左ノ如シ

作物	作付反別	年										
		三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年	大正元年	同二年	十ヶ年平均 反歩當收量
燕麥	作付反別 反當收量	一〇一、四四〇〇〇	七、七三〇〇〇	一〇三、〇〇〇〇〇	一一〇、〇〇〇〇〇	九五、〇〇〇〇〇	七〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一一三、〇〇〇〇〇	一一三、〇〇〇〇〇	一一三、〇〇〇〇〇	一〇〇、六三〇
牧草	同	一〇、四四六〇〇	一、九八八〇〇	一〇、三〇〇〇〇	一一〇、〇〇〇〇〇	一三三、〇〇〇〇〇	一三三、〇〇〇〇〇	一三三、〇〇〇〇〇	一三三、〇〇〇〇〇	一三三、〇〇〇〇〇	一三三、〇〇〇〇〇	一三三、〇〇〇
玉蜀黍	同	一、七四八〇〇	一、九八八〇〇	一、九八八〇〇	一、九八八〇〇	一、九八八〇〇	一、九八八〇〇	一、九八八〇〇	一、九八八〇〇	一、九八八〇〇	一、九八八〇〇	一、九八八〇〇
大豆	同	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇
蕎麥	同	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇
胡蘿蔔	同	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇
馬鈴薯	同	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇
玉蜀黍用	同	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇
青刈燕麥	同	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇
燕麥	同	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇
燕麥科	同	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇
作付反別	同	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇	一、一四五〇〇

備考 右表中末欄大豆ハ三年平均、胡蘿蔔及エンシレーシヨ用玉蜀黍ハ八年平均、馬鈴薯ハ六年平均ヲ掲ケタリ
 右表ニヨリ之レヲ見レハ過去十ケ年ノ耕作反別ハ増減一定セスト雖モ明治四十一年ハ逐年耕作反別ヲ増加シ四十一年其最
 高ニ達シ爾來稍減少ヲ示ス所ナリ之レ主トシテ牧草地ノ減少ニ因ルモノ、如シ其耕作物ハ年ニヨリ増減アリ又收穫ノ同
 ナラスト雖モ今過去十ケ年平均ノ耕作反別及反當收穫ヲ見ルニ耕作反別ノ最モ多キハ牧草ニシテ全耕作地ノ六二・六%ヲ
 占メ之ニ次クハ燕麥畑ニシテ二七・六%玉蜀黍畑四・四%エンシレーシヨ用玉蜀黍一・三%其他ハ極メテ小面積ナリ而シテ
 牧草ハ十ケ年平均反當收穫量ハ八十八貫、燕麥ハ一石二斗六升、玉蜀黍ハ一石二斗四升、エンシレーシヨ用玉蜀黍ハ四百三貫
 ナリ

(二) 耕作方法

本場ニ於ケル耕作ハ飼養家畜ノ飼料ヲ得ルヲ以テ其目的トスルモノニシテ今各作物栽培ノ概況ヲ記セハ左ノ如シ
 (イ) 牧草 種類ハ「チモシー」「オートチャード」「レッドトップ」「オートグラス」「クロバー」等ノ混播ニシテ冬期積雪ヲ利用
 シ馬糞ニテ腐熟セル堆肥ヲ運搬撒布ス刈取ハ開花期ニ達シタル時「モーアー」ヲ以テ一番草ヲ刈取リ二番草ハ八
 月下旬ヨリ九月上旬ノ間ニ於テ刈取ルヲ普通トス「モーアー」ニテ刈倒シタルモノハ「ヘーテッター」(乾草纏轉器)ニテ反
 轉シ乾燥其度ヲ得レハ「ヘーレーキ」(集草器)ニテ數列ニ集合シ更ニ其列ヲ集メテ小ナル山形ニ積上ケ馬車ヲ以テ貯蔵所
 ニ收納ス通例天候ノ良好ナル時ニハ凡ソ一日ニテ大部乾燥ス天候充分ナラサル時ニハ二日乃至三日ヲ要スルコ
 トアリ此ノ場合ニハ夜ハ小ナル山形ニ造リ朝又擴テ乾燥ヲ圖ル此ノ作業中急ニ降雨アレハ前ト同様ニ小ナル山形ニ積
 ミ其頂部ヲ天幕又ハ葦ニテ被覆シ以テ雨露ヲ防クノ必要アリ

(ロ) 燕麥 種類ハ「レースホース」ニシテ専ラ收穫目的トシテ耕作ナス畑地ハ砂質壤土ニシテ地味中等ナリ先ツ前年
 秋「サルキープラオ」(再墾型)ヲ以テ再耕シ土壤ノ風化作用ヲ良好ナラシメ本春融雪後直ニ之ニ「デスクハロー」(四及碎
 土器)又ハ普通ノ「ハロー」(碎土器)ヲ用ヒルコト數回ニシテ能ク土塊ヲ碎キテ平坦トナシ肥料ハ堆肥及過磷酸石灰ヲ施
 用セリ播種スルニハ「ドリール」(條播器)ヲ用ヒ畦巾ヲ一尺トナセリ播種期節ハ四月下旬ヨリ五月下旬ニ渡リ其量ハ平均
 段當七坪ヲ用ヒタリ尙管理トシテハ中耕除草ヲ行ヒ八月上旬乃至下旬ノ間ニ於テ收穫セリ其方法ハ「リーパー」(刈禾器)
 ヲ用ヒテ刈取リ充分後熟乾燥ノ上ハ一定ノ場所ニ集搬シ「スレッシャ」(脱穀器)ヲ以テ脱穀シ尙使用ニ際シテハ其一部
 分ヲ「グレインダー」(挽割器)ヲ以テ挽割リ飼料ニ供ス

(ハ) 收實用玉蜀黍 品種ハ全部黃色八行ヲ用フ耕地ハ前年秋耕シ本春「ハロー」ニテ整地ヲナシ同時ニ施肥セリ厩肥反當六
 百貫ヲ施用ス播種法ハ點播並手蒔ニシテ共ニ畦巾三尺株間一尺五寸トナシ五月上旬ヨリ中旬ノ間ニ行ヒタリ其量ハ平均
 三坪トス發芽後ハ時々中耕、除草、培土ヲ行フコトハ普通ノ作物ト同一ニシテ尙生長中「サツカー」(分藥)ノ出テタル時
 ニハ勉メテ之レヲ除去セリ九月下旬ヨリ十月月上旬ノ間ニ於テ完熟スルニ至リテ鎌ニテ刈取リ後其穂ヲ採リテ玉蜀黍貯蔵
 庫ニ運ヒ農閑ヲ待テ脱皮シ「コーンセーラー」(玉蜀黍脱粒器)ニテ脱實シ飼料ニ供スルニハ「グレインダー」(挽割器)ヲ用
 ヒテ之ヲ挽割リトナス

(ニ) 埋芻用玉蜀黍 之モ品種ハ前ノ收實用玉蜀黍ト同種ノモノヲ用ヒタリ其栽培地ハ前者ヨリ稍々良好ニシテ前年秋耕シ
 本春融雪後整地スルト同時ニ充分腐熟タル堆肥ヲ施用セリ播種ハ收實用玉蜀黍ノ播種終了後引續キ之ヲ行ヒ其方法ハ
 同シク點播並手蒔ニシテ畦巾一尺五寸株間五寸トシ其量ハ段當四坪ヲ用フ尙中耕、除草、培土ノ管理ハ前者ト同シクシ
 收穫期ハ八月下旬乃至九月上旬苞皮ノ一部分乾燥シテ下部ノ三、四葉ハ乾キ殘リノモノハ未ダ綠色ヲ呈スル時ヲ見計ヒ
 鎌ヲ以テ刈取リ「カッター」(切斷器)ニテ其莖葉共約一寸以上ニ切斷シ「キャリヤー」(運搬器)ヲ以テ直ニ「サイロー」(埋
 藏室)ニ收容漸次充分ノ壓迫ヲ加ヘ最上部ニ約一尺位ノ厚サニ銀屑ヲ覆フ
 (ホ) 茶菜及馬鈴薯 前年秋耕シ本春融雪後丁寧ニ整地シ播種ハ茶菜ヲ五月下旬、馬鈴薯ヲ四月中旬トシ共ニ畦巾二尺五寸
 株間一尺トナセリ收穫ハ九月上旬ヨリ下旬ニ行フ

(三) 耕作物生産費調查表
 大正二年度耕作物生産費調查表

種類	反別	反當收穫量		經營費				計	生産費	
		反當收穫量	總收穫量	畑造成費	人夫賃	耕馬費	肥料費			器具費
收草	一八五〇	九七〇〇	一八〇〇〇〇	五九・五〇	七九四・六〇	九三・四〇〇	二二五・〇〇〇	二八四・九〇〇	一八二・一九〇	百貫 一五五・〇
燕麥	一三〇〇	五七〇〇	一八〇〇〇〇	一四・六二〇	六六五・八〇	一〇〇・〇〇〇	一〇三・一八〇	二八・〇九七	三八六・七七七	一石 二二・四四
燕麥	一三〇〇	三七八〇	五八〇〇	一七・九二〇	六三二・八〇	一〇〇・〇〇〇	一〇三・一八〇	一〇・三二〇	六三二・八〇〇	百貫 三〇〇
玉蜀黍	一三〇〇	一八〇〇	二七八九	一〇・七六〇	一七三・三〇	一五・〇〇〇	一五・〇〇〇	一〇・八八〇	一五八・六五〇	一石 五五・八九
玉蜀黍	一三〇〇	四〇〇〇	三六〇〇〇	二二・六四〇	四三三・三〇	六〇・〇〇〇	一三三・八六〇	三三・五〇〇	三八三・三六〇	百貫 一〇二・九
玉蜀黍	一三〇〇	五〇〇〇	三六〇〇〇	八〇・四四六	九六・六	三八〇・〇〇	二二・六〇	五・〇〇〇	三三三・三二	同 一〇二・九
胡蘿蔔	一三〇〇	二二、五〇〇〇〇〇	三〇〇〇	二九・八一〇	一〇・八	四〇〇・〇	三・〇〇	一・七〇〇	三六九・八	同 一〇二・九

備考

一、本表ハ大正二年度種畜場耕作物ノ各費ヲ計算シタルモノニシテ人夫賃ハ收草ノ外何レモ各種類別毎ニ之ニ要シ
 タル再墾、整地、播種、除草、施肥、收穫、脱實等一切ノ經費ヲ累計シタルモノナリ
 一、收草ハ最初畑地ノ造成ニ一反歩平均金參圓拾九錢ヲ要スルヲ以テ之カ持續年限十ケ年ト見做シ一反歩ニ對シテハ

以上十分ノ一即チ金參拾壹錢九厘ヲ一ケ年ニ償却スルコト、ナシ之ヲ造成費ノ欄ニ計上セリ

一、耕馬ハ四歳以上蕃殖牝馬ノ内ニ適スルモノヲ使役セルヲ以テ別ニ馬匹價格ノ償却額ヲ見積ラス單ニ飼料費並ニ取扱人夫賃ヲ其經費トシテ計上シ其經費金額ヲ各作付反別ニ分割計上セリ

一、肥料ハ全部場内生産ノ厩肥ニシテ之カ全量參拾壹萬參千八百貫匁ナリ而シテ本經費ハ堆肥製出實費壹貫匁當リ金貳厘五毛ヲ要シタルニ依リ本費ヲ實際施用シタル數量毎ニ計上セリ

一、器具ハ牧草耕作ニ要スルカ如キ特殊モノハ其作物ニ他ハ之ニ要スル耕作器具全部ノ原價ヲ保存年限平均拾五箇年ト見做シ其一ケ年當リノ償却費ヲ各作付反別ニ分割計上セリ

一、中島燕麥畑約拾町歩ハ八月ノ大洪水ノ爲メ流失シ收穫悉無ナリ

十、肥料

(一) 厩肥

當場ニ於ケル大正元年度中牛、馬及豚生産新鮮肥料ハ總計四十八万七千七百十六貫匁ニシテ之ニ對スル加工即チ堆積切反シノ結果此内百分ノ四十五弱ヲ減シ腐熟肥料二十六万六千三百貫匁ヲ得タリ而シテ右肥料ヲ供給スル作物ハ牧草、燕麥、玉蜀黍、埋芻用玉黍割及其他根菜類ニシテ每一反歩約二百貫匁乃至五百貫匁ヲ供給セリ今畜別生産額並其他ヲ表示スレハ左ノ如シ本表厩肥ノ外大正元年度ニ在テハ購入肥料ハ使用セス

厩肥生産額表

畜別	頭數	舍飼期間	延舍飼頭數	新鮮厩肥平均一日單量	新鮮厩肥生産額	熟肥トナリタル分量	價格
種牡馬	九	自十一月一日至五月卅一日	三六五	五七〇〇	一八七、四〇〇	九、五二七、七五	四六、五五九
四歳牝馬	七六	同上	二、二二二	五七〇〇	九、一八八、四〇〇	四、五四〇、八一七〇	二、七〇、四二
三歳牝馬	一六	同上	三三九	二八五〇	九、六六七、二〇〇	四、七七五、五九七	二、三八八、八
二歳牝馬	二八	同上	五九三	二八五〇	一六、九一七、六〇〇	八、三五七、二九四	四、一七八、六
四歳牝馬	三三	自八月一日至六月三十日	一、二二二	五七〇〇	六、二八五、四〇〇	三、一〇三、五七四	一、五九、二七九

畜別	頭數	舍飼期間	延舍飼頭數	新鮮厩肥平均一日單量	新鮮厩肥生産額	熟肥トナリタル分量	價格
三歳牡馬	五	自十一月一日至五月卅一日	一〇八	二八五〇	三〇八、一四〇、〇〇	一五、三三三、二五	七、六一、二
二歳牡馬	三〇	同上	六三〇	二八五〇	一八、二六〇、〇〇	八、九五四、二四四	四、四七、七
使役馬	二	二周	四	五七〇〇	二、二八五、五〇〇	一一三、〇五三、七	五、六五、七
拂下馬匹	四	不定	四	五七〇〇	二、二八五、五〇〇	一一三、〇五三、七	六、一〇、八
計					二、九六、九三、八〇〇	一、四六、七、八、二五八	七、三三、六〇〇

備考 一頭一ケ年間ノ新鮮厩肥ノ産額ハ二千一百貫匁カ普通ナル故之レヲ基礎トシテ計算シ三歳以下ハ其二分ノ一ノ産額ト見做シ舍飼日數ヲ以テ計算セリ

畜別	頭數	舍飼期間	延舍飼頭數	新鮮厩肥平均一日單量	新鮮厩肥生産額	熟肥トナリタル分量	價格
種牡牛	七	自十一月一日至五月卅一日	二六五	七六〇〇	一九四、一八〇、〇〇	九、五九二、四九二	四、七九、六
牝牛	五一	同上	一、五五五	七六〇〇	三、三五一、六〇〇	一、六五五、六〇四	八、二七、八
乳牛	二一	自十一月一日至五月卅一日	七五九	七六〇〇	五、七七五、六〇〇	二、八五二、八四二	一、四一、五九
二才牝牛	二	自十一月一日至五月卅一日	四四	三六〇〇	一、六三三、四〇〇	八、三二五、九九六	四、一五、八〇
牝牛	二	自十一月一日至五月卅一日	四四	三六〇〇	一、六三三、四〇〇	八、三二五、九九六	四、一五、八〇
二才牝牛	二	自十一月一日至五月卅一日	四四	三六〇〇	一、六三三、四〇〇	八、三二五、九九六	四、一五、八〇
計					二、八六、六、九〇〇	一、二二、九四、二、六七六	五、六四、七、三

品目	數	單價	價額	保存年限	償却金	修繕費
ロツスフヒードカツター	一	三七五〇〇	三七五〇〇	一〇	三三〇〇〇	一〇五〇〇
二頭曳馬具	一七	四〇〇〇〇	六八〇〇〇〇	五	一三六〇〇〇	四〇八〇〇
一頭曳馬具	七	一四〇〇〇〇	九八〇〇〇〇	五	二八〇〇〇〇	八四〇〇〇
雜計	九〇〇	一〇〇	九〇〇〇〇	一	一〇七五〇〇	三二五〇〇

右表ニ依レハ農具ニアリテハ種類數最取テ不足ナキカ如キモ從來保存年限ヲ定メテ一定ノ積立金ヲナサ、リシ結果一般會計ノ都合上更新ニ付其機ヲ得ルコト能ハスシテ種類ニ於テハ稍舊式ニ傾キ且ツ保存年限ノ大半ヲ過キタルヨリ工程ニ於テモ充分ナラサルカ如シ是等ノ事實ニ鑑ミ今後右表ノ如ク年々償却金ニ於テ千五百圓七十六錢四厘ヲ積立テ修繕費ハ三十二圓十五錢五厘ヲ計上スルヲ要スヘシ

家畜用器具

品目	數	單價	價額	保存年限	償却金	修繕費
乘鞍下	一九	三〇〇〇〇	五七〇〇〇〇	三	一九〇〇〇〇	五七〇〇〇
乘鞍井	三二	四五〇〇〇	一四五〇〇〇〇	三	一八〇〇〇〇	五四〇〇〇
乘手革	一五	一〇〇〇	一五〇〇〇	三	七三三三	〇七五
力帶	三七	五〇〇	一八五〇〇	三	一五〇〇〇	〇七五
腹井	三五	三〇〇	一〇五〇〇	一	六〇〇〇	〇〇九
種付	三〇	二〇〇	六〇〇〇	一	一〇〇〇	一八〇
皮布	二二	三〇〇	六六〇〇	三	一〇〇〇	〇三五
毛馬衣	三八	一〇〇	三八〇〇	三	一五〇〇	七六〇
夏毛機	四	七六〇〇〇	三〇四〇〇〇	三	二五〇〇〇	七六〇
剪毛機	一	二一六〇〇	二一六〇〇	五	二一八〇〇	〇七六
解卵器	八	三〇〇	二四〇〇	五	一九〇〇	〇七六
解卵器	一	四九八〇〇	四九八〇〇	〇	四九八〇〇	〇八四
假母器	六	一八〇〇	一〇八〇〇	五	三三〇〇	〇〇四
假母器	二	三〇〇	六〇〇	五	二二〇	〇〇四
假母器	二	三〇〇	六〇〇	五	二二〇	〇〇四
計	二二六	六三五〇〇	一四七〇〇〇〇	一五	八四四六七	二六八

品目	數	單價	價額	保存年限	償却金	修繕費
同假母器	七	四七八〇〇	三三四六〇〇	一五	二二五〇七	六六七
假母器	七	七〇〇	四九〇〇	一五	三三七	〇一〇
雜計	八二六	一六七〇三七〇	一三七〇三七〇	一	三八三四八	二二〇八

右表ニヨリ之レヲ見レハ家畜用器具ニアリテモ其種類數最ニ於テ不足ナキカ如シト雖モ償却金ノ積立ナキヲ以テ右計算ニヨルトキハ償却積立金ニ於テ三百八十三圓四十三錢八厘、修繕費ニ於テ十一圓五十錢八厘ヲ要スヘシ

製酪用器具

品目	數	單價	價額	保存年限	償却金	修繕費
セバレーター	二	一五〇〇〇	三〇〇〇〇	一〇	一五〇〇〇	七五〇〇
クリスターライヤ	一	三八〇〇〇	三八〇〇〇	一〇	三八〇〇〇	一四
バタートライヤ	一	七七〇〇〇	七七〇〇〇	一〇	七七一〇	三二
製酪器	四	二八〇〇〇	一一二〇〇〇	一〇	一一〇〇〇	三三六
ミルクテスタ	一	三三七〇〇	三三七〇〇	五	六九四〇	二〇八
真空装置	一	四四一〇〇〇	四四一〇〇〇	一五	一九四六七	八八四
眞空器	一	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一五	三三三三	一〇〇
蒸氣釜	一	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	一五	一〇〇〇	〇〇〇
アイスクリーム器	一	一〇三三七〇〇	一〇三三七〇〇	一五	八九四四〇	〇六〇
計	二二	一〇三三七〇〇	一〇三三七〇〇	一	八九四四〇	二六八

製酪器ニ於テハ僅ニ牛酪製造器ヲ有スルニ過キス將來償却金ノ積立及修繕費ノ豫算計上ヲ要ス

其他ノ器具器械

品目	數	單價	價額	保存年限	償却金	修繕費
諸器具	一四九五	一	一四九五	一	一八五三三〇	五三三七
雜計	三三三三	一五六一五〇四〇	一五六一五〇四〇	一	一八五三三〇	五三三七

十三、労働者

當場ニ於テ使役セル牧夫、農夫、工夫其他ノ人夫ハ定夫(辭令ヲ用ヒテ採用スルモノ)定人夫(辭令ヲ用ヒシテ定備トシ

ヲ採用スルモノ)及ヒ臨時人夫ノ三階級トシ臨時人夫中引續キ現業ニ従事シ業務ニ熟練シテ將來定夫ニ採用スヘキ充分ノ見込アルモノ又ハ定人夫ニアラサルモ特殊ノ技能ヲ有スルカ又ハ相當ノ學歷アル者ヨリ定夫ニ採用スルノ制ナリ現在ニ於ケル使役人員定夫ハ三十名(全部男)定人夫(内一人女)ハ十六人・臨時人夫ハ日々多少ノ移動アルモ平均七十四名(男四十九・女二十五)トス之等ハ定夫・定人夫ハ勿論臨時人夫ト雖トモ皆本場所屬地内ニ居住シ臨時人夫ハ人夫供給請負人ノ手ヲ經テ本場ニ勤務スルヲ以テ專業トセルモノニシテ家族ヲ有スル非單獨者多數ヲ占メ純然タル單獨者ハ約一割ニ相當スル位ノモノナリ最モ多數ノ臨時人夫ヲ要スル季節ハ農事作業ノ繁忙ナル時期ニシテ毎年四月下旬以降十月月上旬迄ノ間トシ此以外ハ各概合ニ於テ要スル一定ノ人員ニ限レリ而シテ人夫供給請負人ノ供給スル人夫ハ別ニ特殊ノ方法ヲ以テ人夫ヲ募集スルニ非ラス永年引續キ所屬地内ニ居住スル者若クハ其家族最モ多數ヲ占メ年々ノ異動亦タ多カラス農事作業閑散季ニ於テ人夫數ノ減少シタル場合ハ場内又ハ其附近ニ於ケル薪切、袖夫、運搬業等ニ従事スル外別ニ目下ノ處特別ノ副業ヲ營メルモノナキカ如シ定夫ノ給料ハ四十錢乃至六十錢、定人夫ノ給料ハ二十八錢乃至五十錢、臨時人夫ノ賃金ハ男三十二錢乃至五十二錢、女二十八錢乃至三十二錢ノ範圍ニテ臨時人夫供給請負人ハ支給賃金ノ内百分ノ五ヲ手數料トシテ差引其殘額ヲ各自ニ交付セリ以上ノ給料並賃金ハ前月二十一日ヨリ當月二十日迄ノ分ヲ締切リ其月末ニ於テ之ヲ支給ス現行勤務時間ハ自十一月四箇月間ハ八時三十分間、自三月三箇月間ハ九時三十分間、自五月二箇月間ハ九時五十分間、自七月二箇月間ハ十月二十十分間、自九月二箇月間ハ九時三十分間ナリ今定夫・定人夫及臨時人夫ノ年齢並ニ賃金ヲ作業種類毎ニ表示スレハ左ノ如シ

備人表 (其ノ二)

仕事別	性	六十歳以上				五十歳以上				四十歳以上				三十歳以上				二十歳以上				二十歳未満				計
		男	女	計	雜	男	女	計	雜	男	女	計	雜	男	女	計	雜	男	女	計	雜					
定人夫	男																									
工農牧	男																									
計	男																									
定夫	男																									
工農牧	男																									
計	男																									
臨時人夫	男																									
工農牧	男																									
計	男																									
合計	男																									

備人表 (其ノ二)

仕事別	性	六十歳以上				五十歳以上				四十歳以上				三十歳以上				二十歳以上				二十歳未満				計
		男	女	計	雜	男	女	計	雜	男	女	計	雜	男	女	計	雜	男	女	計	雜					
耕種	男																									
耕作	男																									
計	男																									
種牛	男																									
種馬	男																									
計	男																									
臨時人夫	男																									
種牛	男																									
種馬	男																									
計	男																									
合計	男																									

仕事別性	會計				計
	定夫	定人	未夫	未人	
廿八					廿八
卅					卅
卅二					卅二
卅四					卅四
卅八					卅八
四十					四十
四十二					四十二
四十四					四十四
四十六					四十六
四十八					四十八
五十					五十
五十二					五十二
五十四					五十四
五十六					五十六
五十八					五十八
六十					六十
六十二					六十二
六十四					六十四
六十六					六十六
六十八					六十八
七十					七十
計					計

今大正三年中に於ケルモノヲ調査スルニ左ノ如シ

畜牛馬係	育馬係	耕作馬係	會計	夫		人		計
				定	未	定	未	
一六七七	一五九三	一〇八五七〇	一三六	一〇八	一三	一〇	一三	一六九三
八五二一〇	四〇四九九〇	二二四一七三〇	五三	九	三	一	五三	二二四一七三〇
九一九七〇	二二九九九〇	六四四〇	八四	一	一	一	八四	六四四〇
一二六七一〇	一三〇六六〇	一六二一三	四四	一	一	一	四四	一六二一三
五三四七〇	五二六九〇	六六五三七四〇	三六	一	一	一	三六	六六五三七四〇
三九五二〇	一八二七四	一五五五〇〇	六	一	一	一	六	一五五五〇〇
六六七	一八二七四	三三三三九	一	一	一	一	一	三三三三九
三三三三九	一八二七四	一三六〇八〇	一	一	一	一	一	一三六〇八〇
三三三三九	一八二七四	七五三六七〇	一	一	一	一	一	七五三六七〇

右表ニヨルトキハ大正三年度ニ於テハ定夫、定人夫及人夫貸合計三万三千九百九十五人ヲ要シ其貸銀一万三千四百九十二圓八十二錢ヲ要シタルモノニシテ定人一人一日ノ貸銀ハ五十三錢、定人夫一日ノ貸銀ハ四十四錢一厘、人夫一人一日ノ貸銀ハ四十四錢三厘ニ當レリ

十四、種畜貸付及種付諸規則

明治十九年 從來拂下制度ヲ廢止シテ種畜牛馬貸與規則並ニ種豚貸與手續(共ニ無償貸與)ノ發布アリ
 同二十四年 七月勅令第六十二號ヲ以テ北海道廳ニ於テ殖産獎勵ノ爲メ種畜ヲ貸付スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ト定メラル

同三十四年 種畜牛馬貸付規則ヲ發布セリ其要點ハ牡牛馬ノミヲ貸付スルコト、ナシ産牛馬組合又ハ團體ヲ主トシ個人ヲ次トシ個人ニシテ貸付ヲ受クルコトヲ得ル者ハ蕃殖適齡ノ牝牛十頭又ハ牝馬三十頭以上ヲ所有スルモノニ限り貸付一期間ヲ牛ハ三箇年、馬ハ四箇年トシ何レモ貸付種畜牛馬評價價格ノ百分ノ三ノ貸付料ヲ徵收ス
 同三十五年 廳令八號ヲ以テ交尾施行規則ヲ發表シ之レカ實施ヲナシタリ後三十九年二月廳令十四號ヲ以テ臨時貸付牝馬ニ對スル種付ノ事項ヲ追加スルニ至レリ之レヲ舉クレハ左ノ如シ

交尾施行規則

(明治三十五年二月廳令第八號 明治三十九年二月廳令第十四號追加)

- 第一條 北海道廳種畜場ニ於テ料金ヲ徵收シテ其飼養ノ種馬ヲ以テ交尾ヲ施行ス
- 第二條 交尾施行ノ場所、期限及交尾ニ使用スル種馬並交尾ヲ許可スヘキ牝馬頭數及其檢查期日、交尾料額ハ交尾施行ノ前之ヲ告示ス
- 第三條 交尾ヲ受ケント欲スル者ハ牝馬ヲ檢查ノ期日內ニ望ミノ交尾場ニ牽付ケ口頭ヲ以テ其旨出願シ同時ニ望ミノ種畜馬ヲ申立ツヘシ
- 第四條 交尾ヲ受クヘキ牝馬ハ左ノ資格ヲ有スルモノニ限ル
 - 一、年齡四歲以上
 - 二、乗用種及農用種ニ配合スヘキ牝馬ハ四尺五寸以上雜種牝馬ニ配合スヘキ牝馬ハ四尺四寸以上
 - 三、體格不良、營養不良、老衰若クハ駭ナラサルモノ又ハ戀癖若クハ著明ノ損微ヲ有セサルモノ又ハ傳染病ニ罹ラサルモノ
- 第五條 配合スヘキ牝馬定數ニ滿ツルトキハ期限內ト雖モ交尾願ヲ拒絕ス
- 第六條 第四條ノ種畜馬資格並ニ配合スヘキ種畜馬ハ當該吏現場ニ於テ之ヲ定ム
- 第七條 交尾ハ三回ヲ以テ一週トシ第四條ノ資格アルモノニ交尾許可證ヲ付與ス其許可證ハ第一號書式ニ依ル
- 第八條 牝馬合格シタルトキハ所有者又ハ管理者ハ交尾料金ヲ納付シ交尾許可證ヲ受ケ交尾施行ノ際之ヲ携帶シ當該吏ニ示シテ交尾ヲ受クヘシ
- 第九條 交尾料ヲ納入シタル後牝馬發情セシテ交尾期日ヲ經過シ又ハ自己ノ都合ヲ以テ交尾ヲ受ケサルモ前納ノ料金ハ之ヲ還付セス
- 第十條 交尾許可證付與ノ後左ノ事故アル場合ニ於テハ其請求ニ依リ前納ノ交尾料ヲ還付スヘシ
 - 一、種畜馬ニ係ル疾病其他ノ事故ニ因リ交尾ノ許可ヲ取消シタルトキ
 - 二、一回又ハ二回ノ交尾ヲ行ヒタル後前號ノ事故ニ因リ交尾ヲ中止シタル場合ニ於テ該牝馬ノ受胎セサルトキ

三、交尾場ノ都合ニヨリ施行期間内ニ交尾ヲ執行セサルトキ
 四、天災地變其他避クヘカラサル原因ニ因リ牝馬亡失シタルトキ
 第一項一號、二號ノ事故生シタルトキハ交尾擔當者ヨリ關係者ニ告知ス
 第一項二號懷胎ノ如何ハ當テ馬試驗ニ於テ發情シタルモノヲ以テ不受胎ト看做シ交尾擔當吏員ヨリ其證明書ヲ交付ス但
 試驗ノ期間ハ事故告知ノ日ヨリ二十五日間内トシ期間内ニ牝馬ヲ交尾場ニ牽付サルモノハ受胎セシモノト看做ス
 交尾料還付ノ請求書ハ一號ニ就テハ事故告知ノ日ヨリ二號ニ就テハ試驗ノ日ヨリ三號ニ就テハ交尾施行期間ノ終リタル
 翌日ヨリ四號ニ就テハ事故發生ノ日ヨリ各三十日以内ニ北海道種畜場ニ差出スヘシ但シ二號ニ係ル請求書ニハ不受胎
 證明書ヲ四號ニ係ル請求書ニハ警察官又ハ區戸長町村長ノ證明書添付スルコトヲ要ス
 第十一條 合格牝馬一週ノ交尾ヲ付ケタル後其所有者又ハ管理者ニ於テ尙ホ交尾ヲ願フキハ第七條ニ依リ許可證ヲ再渡ス
 但種牝馬餘勢ヲ存セサルトキハ此限リニアラス
 第十二條 牝牡親和ヲ缺クカ爲メニ交尾ヲ遂行セス又ハ一回若クハ二回ノ交尾ヲナスモ受胎セサル爲メ他ノ種馬ノ配合ヲ
 望ム者アルトキハ前條ノ例ニヨル
 第十三條 交尾許可證ヲ紛失若クハ毀損シ其再渡ヲ請フモノアルトキハ書換料トシテ一枚ニ付金二十錢ヲ納入セシムヘシ
 第十四條 種畜場ニ在テハ交尾ノ爲合格牝馬ヲ牽來ルモ同場飼養ノ牝馬ヲ配合セシムルカ爲メ所定ノ種牝馬ニ餘勢ノ存セ
 サルトキハ當日ノ交尾ヲ拒絶スヘシ
 第十五條 交尾ヲ受クルカ爲メ交尾場ニ牽附ケタル牝馬ニシテ當該吏ニ於テ試驗ノ上發情十分ナラスト認ムルトキハ當日
 交尾ヲ行ハス
 第十六條 交尾ノ順序ハ牝馬ノ著順ニ依ル
 但當該吏ノ定メタル配合定數外ノ牝馬ニ對シテハ交尾ヲ行ハス
 第十七條 交尾ヲ受ケタル牝馬仔馬ヲ産出シタルトキハ三十日以内ニ第二號書式ニヨリ北海道種畜場ニ届出スヘシ
 但口頭ヲ以テ届出スルモ妨ナシ
 第十八條 前條ノ生産届ヲ爲シタル者血統證明書ヲ購求スルトキハ馬匹ヲ種畜場ニ牽附スヘシ種畜場ニ於テハ實査ノ上相
 違ナシト認メタルモノニ限リ之ヲ下付ス
 但遠隔ノ地ニ在リテハ交尾時期ヲ利用シ出張交尾場ニ牽附實査ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テ實査ヲ爲シタル吏員ハ
 其結果ヲ種畜場長ニ報告スヘシ
 第十九條 牝馬臨時貸下規則ニ依リ借受ノ牝馬ニ對スル交尾ニ就テハ特ニ左ノ順序ニ依ル

一、交尾ヲ受ケントスル者ハ第二條ノ告示アリタルトキ交尾場開始十五日前マテニ左ノ要項ヲ記載シ豫メ種畜場長ニ請
 求シ承認ヲ受クヘシ
 一、牝馬臨時貸下規程ニ依リ借受ノ牝馬ナルコト
 二、牝馬ノ種類名號、毛色、年齢
 三、交馬ヲ受ケントスル種牝馬名
 四、牝馬ヲ牽附ヘキ交尾場
 種畜場長ハ請求種牝馬ノ配合ヲ不適當ト認ムルトキ又ハ該種牝馬ニ餘勢存セサルトキハ他ノ種牝馬ヲ以テ承認ヲ與
 フルコトアルヘシ
 二、前項ノ承認ヲ受ケタル牝馬ニシテ牝馬臨時貸下規程第八條ノ認可ヲ經タルトキハ交尾場開始後五月三十一日マテニ
 牝馬ヲ牽附ケ所定ノ交尾料ヲ納付シテ交尾許可證ヲ受クルコトヲ得
 三、本條ニ特定シタル場合ノ外總テノ手續ハ一般牝馬ト異ルコトナシ
 第二十條 種畜場長ハ交尾施行ノ爲メ遠地ヨリ牽附タル牝馬ニ對シ便宜ヲ與フル爲メ必要ノ時期内厩舎ヲ貸與シ又ハ頭數
 ヲ限リ保管預リヲ爲スコトヲ得
 前項施行ノ方法ハ種畜場長ノ定ムル所ニ依ル
 第一號様式 (書式畧ス)
 第二號書式

駒 生 産 届

種	類	性	馬	名	生年月日	毛色	産地	父馬	母馬

右及御届候也
 明治 年 月 日
 住 所
 氏 名
 北海道廳 種畜場宛
 此年血統證明料ヲ徴收スルコトナク更ニ同三十八年之レヲ改正セリ即チ左ノ如シ

種畜場血統證明料 (明治三十五年四月北海道廳令第五十一號)

北海道應種畜場ニ牛馬血統證明書ノ下付又ハ其ノ書換ヲ願フ者ハ左ノ證明料ヲ納ムヘシ

- 一、血統證明書一通ニ付金壹圓
- 二、同書換料一通ニ付金貳拾五錢

種畜場交尾規則 (明治三十五年十一月廳令第一四六號)

- 第一條 北海道應種畜場ニ於テ飼養スル種畜牛ノ交尾ヲ受ケントスルモノハ北海道應種畜場長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 前條ノ許可ヲ得タルモノハ交尾料トシテ交尾一回ニ付金參圓ヲ納付スヘシ
- 第三條 交尾ノ許可ヲ得タルモノハ牝牛ヲ北海道應種畜場ニ牽付所望ノ種畜牛ヲ指定シ口頭ニテ申出ツヘシ
- 第四條 左ノ各項ニ該當スルモノニハ交尾ヲ許可セス
 - 一、年齡滿二歳以下ノモノ
 - 二、體格及營養不良並老衰ノモノ
 - 三、惡癖又ハ遺傳病アルモノ
 - 四、畜牛結核豫防法ニ據ル畜牛健康證ヲ有セサルモノ
- 許可ヲ與ヘタル後前各號ニ該當スト認メタルトキハ其許可ヲ取消ス
- 第五條 牝牛ヲ牽付タル種畜牛ニ故障アルカ又ハ種畜場ニ於テ差支アルトキハ當日交尾ヲナサシメサルコトアルヘシ
- 第六條 交尾ヲ受ケタル牝牛牝牛産出シタルトキハ十日以内ニ左ノ書式ニ依リ北海道應種畜場ニ届出ツヘシ但口頭ヲ以テ届出ツルモ妨ケナシ
- 第七條 前條ノ生産届ナキ牛ニ對シテハ血統證ヲ請求スルモ之ヲ下付セス
- 第八條 本規則施行ニ關シ必要ナル手續ハ種畜場長之ヲ定ム

一牝牛何々號

毛色何色又ハ何々斑

明治何年何月何日

父何種何號

母何種何號

於何地生産

右續産出致候間御届候也

明治何年何月何日

國郡(區)町(村)大字何々番地

某 何

北海道應種畜場御中

明治三十七年 種畜交尾規則ヲ發表セリ即チ左ノ如シ

種畜交尾規則 (明治三十七年一月廳令第二號)

- 第一條 北海道應種畜場飼養種畜ノ交尾ヲ許ストキハ交尾料ヲ徵收ス
- 第二條 交尾料一回金壹圓トス
- 第三條 種畜ノ交尾ヲ願ハント欲スル者ハ牝豚ヲ北海道應種畜場ニ牽付口頭ヲ以テ其旨申立ツヘシ但都合ニ依リ即日交尾ヲ許可セサルコトアルヘシ
- 第四條 交尾ハ交尾料納付済ノ後ニアラサレハ之ヲ行ハス
- 第五條 各種種畜ニ就テノ交尾料額及本規則取扱上必要ノ手續ハ種畜場長之ヲ定ム
- 第六條 交尾ヲ受ケタル牝豚見テ産出シタルトキハ三十日以内ニ別式ニ依リ北海道應種畜場ニ生産届ヲ爲スヘシ
- 第七條 前條ノ生産届ヲ爲シタル者該豚兒ヲ北海道應種畜場ニ牽付血統證明書ノ下付ヲ請求スルトキハ實査ノ上相違ナシト認メタルモノニ限り之ヲ下付ス

(別式) (數頭連記スルモ差支ナシ)

豚兒生産届

種類及性	名	號	毛色	生年月日	父豚ノ種類名號	母豚ノ種類名號	交尾ノ年月日	交尾ノ場所

右及御届候也
明治 年 月 日

北海道廳種畜場宛

北海道郡(區)町(村)字番地
所有者又ハ管理者 何

某(印)

明治三十八年 廳令ヲ以テ豚血統證明書下付手数料ヲ定ム即チ左ノ如シ
(明治三十八年八月北海道廳令第七十五號)

北海道廳種畜場ニ豚ノ血統證明書ノ下付又ハ其ノ書換ヲ願フ者ハ左ノ證明料又ハ書換料ヲ納ムヘシ

一、血統證明書一通ニ付金貳拾五錢

二、同上書換一通ニ付金拾錢

明治四十三年 四月廳令第五十五號ヲ以テ種畜貸付規則ヲ改正セラルル其主點ハ種牡牛馬ハ産牛馬組合聯合會、産牛馬組合、産牛馬組合ノ設置ナキ地方ニアリテハ農會又ハ産業組合ニ貸付スルコトトナシ種牡牛ニ限リ特別ノ必要アリト認ムルトキハ前項ノ外十頭以上ノ適齡牝牛ヲ有スル者ニ貸付スルコトアルヘシトシ種牡牛馬ハ何レモ貸付期間ヲ三年ト改メ貸付料ハ貸付種畜ノ價格ノ百分ノ五ト改正セリ

大正二年 四月廳令三十一號ヲ以テ更ニ種畜貸付規則ヲ改正シ種畜ノ貸付價格ハ種畜ノ價格ノ百分ノ三ニ改正シ且ツ貸付種畜ヲ寄託スル場合ハ料金トシテ貸付料ノ三分二ヲ超過スルコトヲ得ストナシ從來組合ノ寄託料金徵收ヲ制限シ貸付料ハ事實ニ於テ貸付種畜價格百分ノ五ヲ超過セシメサラシメタリ

十五、試驗成績

(一) 沿革

試驗成績ト稱スヘキハ明治三十八年以降ノ事ナリト雖モ種牛馬生産供給ノ傍ラ乳製品及ハム製造ノ沿革ヲ有スルヲ以テ之レヲ畧記スヘシ

明治十一年 試ミニ牛酪、乾酪並ニ粉乳等ヲ製シ稍良品ヲ得タルヲ以テ之レヲ東京ニ於テ開設セル第一回内國勸業博覽會ニ出陳シテ褒賞ヲ得タリ

同十五年 農商務省事業管理局ノ所管トナルヤ事業緊縮ト共ニ收入ノ増加ヲ計ランカ爲メ八月札幌後志通(現時札幌區南二條西二丁目)ニ乳牛派出所ヲ設置シ牛乳ヲ賣却スルノ外傍ラ殘乳ヲ以テ牛酪及粉乳ヲ製出シテ賣却セリ

同十七年 三月煉乳製造場ヲ開始ス製法ハ下總勸業寮種畜場ニ倣ヒタルモ試製ノ分ハ結晶糖多クシテ之ヲ嘗ムルニ一種不快ノ風味アリ依テ漸次製法ヲ改メ五月ニ至リ漸ク良品ヲ得タルヲ以テ之レヲ本省管理局ニ出品シテ好評ヲ得次テ北海道

物産共進會ニ出陳シテ一等賞ヲ得タリ

同十八年 粉乳ノ需用減少セルヲ以テ之レカ製造賣却ヲ廢止セリ

同十九年 九月生乳販賣ヲ廢止ス

同二十年 生乳ハ種牛養成ニ供用スルヨリ乳製品ニ供スヘキモノ少ナキヲ以テ一ヶ年ノ生産僅ニ七十八斤ニ過キス

同三十七年 飼料作物栽培試驗ヲ開始ス

同三十八年 畜産試驗事業ヲ開始ス其項目左ノ如シ

家畜肥臘法、煉乳製造法、牛酪製造法等ニシテ先ツ家畜肥臘法ヨリ開始セリ
今各項ニ分チ試驗成績ノ一般ヲ舉クヘシ

(二) 飼料作物栽培試驗

明治三十五年種畜場ヲ地方費ノ所屬トナスヤ飼料栽培試驗ヲナスコトトナリシカ同三十七年精進川沿岸ノ地十五町歩ヲ新墾シ北海道廳農事試驗場ヨリ燕麥種子「ホワイトベルチャム」「フレンチオート」「ホワイトオート」「クライデスデル」ノ四種ノ分與ヲ受ク又英國ヨリ牧草種子「ハードフェスキュー」「オーチャードグラス」「ドルフェスキュー」「ラフストークメド」「グラス」「ドッグステール」「ファンシーシープフェスキュー」「グラス」「ドルオートグラス」「アニアルライグラス」「ペレニアルライグラス」「ファイオリオン」「ウードメド」「グラス」「メド」「フェスキュー」「スムーストックメド」「グラス」「チモシー」「レットトツブ」「ゴールドデンタンカードクローバー」「ジャイアントエーロークローバー」「ホワイトクローバー」「レットドクローバー」「シーブフェスキュー」「アルサイククローバー」等二十一種ヲ購入シ六間ニ十間ヲ一區トシテ栽培試驗ヲ施行セリ然レトモ殆ント標本園同様ナル小規模ナルト試驗方法整ハサルヨリ何等ノ試驗成績ヲ見ルニ至ラス爾來飼料試驗ヲ行ヒタルナシ

(三) 肉牛肥臘試驗

明治三十八年試驗事業ヲ起スヤ先ツ肉牛肥臘試驗ヲ開始ス即チ根室産「エーアシャ」雜種肉牛二頭及ヒ南部産牝牛二頭ヲ購入シ試驗ニ供シタルモ充分ナル試驗成績ヲ得ルニ至ラス
同四十一年日高國沙流郡産「エアシャ」雜種(三十九年生)肉牛二頭ヲ購入シ米國式及日本式ノ二様ノ飼料ヲ配合シ米國式ハ二月二十八日ヨリ六月十二日ニ至ル百二十六日間肥育法ヲ行ヒ第一期、第二期、第三期ニ分チ燕麥、玉蜀黍、小麥、穀、大豆、豌豆、ビート等ヲ各期別ニ營養標準ニヨリ配合シ與ヘ日本式ニアリテハ稻藁、米糠、大麥等ヲ配合シテ飼料トシ二月十八日ヨリ六月二十二日ニ至ル百二十六日間肥育シ左表ヲ得タリ

米	日本式	肥育後生体量	着手生体量	增加斤量	一頭一日平均増体量
日	式	九〇八三 七三三三	六三九〇 六三四二	二七三三 一四九一	二一七 一一八

而シテ右飼養費ノ經濟成績ハ左ノ如シ

米國式	日本式	牛購入價格	飼料費	計	骨付肉賣却代	差引損益	備考
肉牛購入當時骨付一斤二十 五錢 飼料ハ半年相場トス 五錢前三年平均飼料相場 肉牛購入當時骨付一斤十八 錢ノ割ノ場合	肉牛購入當時骨付一斤二十 五錢 飼料ハ半年相場トス 五錢前三年平均飼料相場 肉牛購入當時骨付一斤十八 錢ノ割ノ場合	七九三七五 七九三七五 七九三七五 五七一五〇	四三六三 三九三九二 四三六〇	二二九九七 一一八七六七 一〇〇七七二	二四七五〇 二四七五〇 二四七五〇	一七五三 五九八三 一三九七八	骨付肉一斤 二五〇 一四九四九 一四九四九 一四九四九 六五〇七 七二四一 二五〇

(四十一年種畜場事業報告参照)

明治四十一年十二月二十日ヨリ五月一日ニ至ル百三十三日間ニ於テ第三回肉牛肥體試驗ヲ行ヘリ
 明治四十五年五月兵庫縣ヨリ和種牝牛九頭ヲ購入シテ和牛ノ本道農家ノ經濟的飼養ニ適シ且ツ和牛ノ肉質ヲ損スルコトナ
 ク本道ニ於テモ生産シ得ヘキヤ又他ノ種類ト交配シテ肉質ヲ損セスシテ体格ヲ大ナラシムルヲ得ヘキヤヲ試驗スルニ至レ
 リ從テ夏期ハ放牧上中良好ナル部分ニ放牧シ十一月ニ至リ漸ク舍飼シ牧草一貫五百匁、燕麥一升、穀半斤、鹽三勺、敷草
 一貫五百匁ヲ與ヘテ飼養シ力メテ農家ノ飼養ニ容易ナル程度ニ飼養シツツアリ而シテ妊牛ヲ購入シタルヲ以テ大正二年ニ
 於テハ其生産額三頭ヘレフオート種ヲ種付シタル産額三頭、短角種ヲ種付シタルモノ一頭ノ犢ヲ生産セリ
 大正二年ニ至リ次第ニ増殖シ左ノ成績ヲ示シツツアリ

種	類	名	號	性	年	齡	體	高	重	放牧開始當時體重	舍飼ニ移レル當時ノ體重	體重比較	備	考
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----------	-------------	------	---	---

和	種	一	號	牝	五	六	三	三	七	五	九	六	增	兵庫縣朝來郡牧田村産
同	同	二	號	同	四	九	八	三	八	二	一	〇	同	
同	同	三	號	同	四	八	八	三	八	一	〇	〇	同	
同	同	四	號	同	四	九	九	三	九	〇	〇	〇	同	
同	同	五	號	同	一	八	八	三	九	〇	〇	〇	同	
同	同	六	號	同	一	八	八	三	九	〇	〇	〇	同	
同	同	七	號	同	一	八	八	三	九	〇	〇	〇	同	
同	同	八	號	同	一	八	八	三	九	〇	〇	〇	同	
同	同	九	號	同	一	八	八	三	九	〇	〇	〇	同	
同	同	十	號	同	一	八	八	三	九	〇	〇	〇	同	

(飼養管理) 春期放牧ハ五月廿一日ニ開始シ同年十一月十七日舍飼ニ移レリ放牧地ハ前年放牧シタルト同一所ナルモノ一頭
 ニ對シ約二町歩位ツツノ割合ヲ以テ總面積約二十町歩内外ニ擴張セル處ノ粗林地ニシテ熊笹粗生シ夏期ノ草生又タ佳良ナ
 ラス十餘頭ノ牛ヲ夏期六ヶ月間放牧シタルニ營養ハ稍佳ナリシモ未タ充分肥胖シ得サル状態ナリ
 舍飼中ハ可成の本道一般農家ノ生産物若クハ副産物ヲ利用シ得ラル、程度トシ燕麥稈、燕麥、米糠 數等ヲ左表ノ通り給
 與セシカ營養ハ却ツテ放牧時ニ比シ稍々減シタルノ觀アリタリ

飼 糧 表
 燕麥稈(藁藁共) 二五〇〇 燕麥 一升 米糠 一升 穀 若干 鹽 三勺
 (蕃殖成績) 種付セシ牝牛九頭ナリシモ中途一頭斃死シタルヲ以テ全ク本年度飼養セシ頭數ハ八頭ナリ是レヨリ前年度及
 本年度中生産シタルモノヲ左ニ表示ス

種	類	名	號	毛	色	生	年	月	日	體	高	體	重	性	血	統	事	由
同	ヘレフト雜種	一	號	黑	白	二	三	二	九	三	六	五	五	牝	父ハ、レリアマイノス 母内、第二號			
同	同	二	號	赤	白	二	五	二	六	三	四	五	五	牝	父ハ、レリアマイノス 母内、第六號			生後滿一ヶ月ニテ去勢セリ
同	同	一	號	黑	褐	二	三	三	四	三	三	五	六	牝	父ハ、レリアマイノス 母内、第一號			
同	同	二	號	同	同	二	三	三	八	三	六	五	五	牝	父ハ、レリアマイノス 母内、第二號			

短角雜種	英一號	同	三號	赤褐白	三・一・五	二・三・三	生時	七三〇〇	同	父へ、 母内、 第八號	生後滿一ヶ月ニテ去勢セリ
同	英二號	同	四號	赤白	三・二・八	二・一・〇	生時	七〇〇〇	同	父へ、 母内、 レリアマイノス	同
同	同	同	同	黒褐	二・三・〇	三・六・五	同	六四〇〇〇	同	母内、 マリオキング	同
同	同	同	同	同	二・七・〇	三・一・〇	同	三二〇〇〇	同	父短、 母内、 マリオキング	同

備考 秤量滿一ヶ年ニ達シタルモノハ其ノ時ニ秤量シ未滿ノモノハ三月末日秤量セルモノトス

(四) 煉乳製造試験

煉乳製造試験ハ明治三十九年ノ開始ニシテ特ニ獨逸國製實驗室用ノ真空蒸發釜ヲ購入之ヲ煉乳製造用ニ供シ着手セシモノニシテ其成績ハ同四十一年ノ事業報告ニ發表シタルモノ僅ニ一回ニテ他ニ其成績ノ記録ニ微スヘキモノナシ今四十一年ノ發表セルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

煉乳製造試験上ニ於ケル問題ノ主ナルモノヲ二トナス一ハ製品ニ結晶ヲ生スルコトニシテ一ハ貯藏力舶來品ニ比シ劣レルコトナリ本年度ニ於テハ其結晶ニ關シ専ラ研究ヲ行ヘリ而シテ本年度ヨリ毎回顯微鏡検査ヲ開始シタルガ爲メ便宜ノ多ナルモノアリ九月十四日第七回ノ試験ニ於テ偶然成功ノ端緒ヲ得今ヤ其結晶ニ於テハ米國製「エーグル」印ニ比シ敢テ遜色ナキモノヲ製造シ得ルコト多キニ至レリ

試験回数	月	日	蒸發ニ要セシ時間	エーグル印ニ比シ結果ノ大小	試験回数	月	日	蒸煎ニ要セシ時間	エーグル印ニ比シ結果ノ大小
第一回	九月	一日	四・五五分	甚	第八回	九月	十六日	三・〇五分	等
第二回	九月	三日	四・〇	稀	第九回	九月	十八日	二・五五分	僅
第三回	九月	五日	三・四〇	稍	第十回	九月	二十二日	三・〇	極
第四回	九月	七日	二・三〇	極	第十一回	十月	七日	二・三〇	等
第五回	九月	九日	三・〇〇	甚	第十二回	十月	九日	三・一〇	僅
第六回	九月	十一日	三・二〇	甚	第十三回	十月	十三日	三・一五分	等
第七回	九月	十四日	二・五五分	極	第十四回	十一月	廿一日	四・〇〇	等

(五) ハム製造試験

ハム製造試験ハ明治三十八年初メテ着手シタル試験成績見ルヘキモノナカリシカ三十九年ニ至リ稍見ルヘキモノアルニ至レリ今其成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

試験回数	數	量	腐	敗	棄	却	試	食	試賣元數量	成	品
一	四	九七六〇〇	四三〇七五	一七二〇	九四四五	一六四七〇	一三三三〇				

同四十一年度ニ於テ七回ニテハム製造試験ヲ行フ而シテ其材料ニ供用セル豚數一回ニ一頭乃至六頭ニシテ總數二十六頭ニ及ヒ前年製品ニ比シ遜ニ品質ノ改良ヲ認ムルニ至レリ其成績ハ左ノ如シ

試験用豚數	同上	生シハム量	生シヨルダ量	個數	生体量ニ對シ生ハム及シヨルダノ割合	生ハム成品	生ハム及シヨルダニ對スル割合	成品生体量	成品ノ生体量ニ對スル割合
二六	三六二〇〇	六七八五	八〇三五	五二	一八八	五三六九	七九〇	一四〇	一四・六

右試験ノ外各年之レヲ行フモ成績ノ發表シタルモノナキヲ遺憾トス

(六) 畜産試験費

科目	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年	大正元年	大正二年	計
畜産製造試験費	一、〇七四・七七三	九九六・三四	五八六・九四九	八二〇・八九	二四八・五八	四〇六・四九	一一六・五六一	四七・四七〇	五九・三九五	六四六・八七〇
備入費	一三三・三三三	一三三・三三〇	一〇七・八八〇	八二・七四〇	九四・四〇	一五〇・三四〇	一六三・四六〇	一六・八〇〇	一四・五四〇	一、一七三・一三三
試験資料費	五九七・三四〇	一〇四〇・九四	二二六・四九九	四八八・三三九	四八・九八	一七〇・二三五	一〇三・八二二	一	五・一五四	二、七八五・九四一
備品費	一八〇・〇〇〇	一〇四・〇〇〇	四一八・八〇	三五〇・〇〇〇	四一・五八〇	八・一〇〇	七・六〇	八一・四〇〇	四四・五八〇	七三三・五二〇
消耗品費	六二・八八〇	三五六・八〇〇	二二九・七八〇	二四六・〇一〇	六・八三〇	七・七五七四	六三・三〇〇	三三・五五〇	三五・四三二	一、六七一・二五六

右表ニヨリ之レヲ見レハ明治三十八年ヨリ大正二年ニ至ル九ヶ年間ノ畜産試験費ハ六千四百六十八圓七十二錢ニシテ就中最モ多額ヲ要スルモノハ試験資料費ニシテ四三・六一％之ニ次クハ消耗品ニシテ二五・八三％備入費一九・六八％ニシテ備品費ハ一〇・八八％ニ過キス而シテ過去九ヶ年間畜産試験品拂下收入千二百五十四圓十七錢七厘アルヲ以テ結局過去九ヶ年間ノ支出ハ五千二百五十三圓五十四錢三厘ナリ

十六、講習生及實習生

明治三十九年畜産講習規程ヲ發布セラレ種畜場内ニ假講室ヲ設ケタルモ之レ種畜場ノ事業ナラス同四十一年廢止セラレタルヲ以テ畜産ノ實務ヲ實習スヘキ者毎年十五名内十名ハ日當二十錢ヲ支給シ他ハ無給トナシ爾來毎年募集シツ、アリ今之レヲ表示スレハ左ノ如シ

實習生許可數	明治四十一年	同 四十二年	同 四十三年	同 四十四年	大正元年	同 一二年
實習生修了者	一五八	一〇八	一〇八	二五八	一三八	六九八

右表ニヨルトキハ明治四十一年實習生ヲ募集以來大正二年ニ至ル六ヶ年間ニ入場許可ヲナシタルモノ五十二名ニシテ内修了證書ヲ授與シタルモノ三十一名ニシテ二十一名ハ中途退場セリ

十七、小作地及山林並石山

小作地 小作地ヲ設定スルニ至リシハ本場内穴ノ澤及燒山ノ如キ畜舎ヨリ二里餘ノ遠隔ノ地ニシテ土地ノ利用上不便ナルヲ以テ同地ニハ小作人ヲ收容シテ其收穫物ヲ購入シ又農閑期ニ於テ本場ノ作業ニ從事セシムルノ便アルト其收入ノ本場經濟ヲ助クルモノ大ナルニ起因スルモノニシテ此年單ニ種畜場ノミナラス當別山林地内ノ農耕地ヲモ區劃貸付スルニ至リ又漁出張所モ牧羊ノ廢止ト共ニ小作地トナス計畫ナリシモ牧羊ノ拂下未済ナリシヲ以テ同四十四年ニ至リ貸付スルニ至レリ大正二年訓子府及檜山分場用地内ニモ又小作人ヲ收容スルニ至レリ今各年貸下反別及小作戸數ヲ表示スレハ左ノ如シ

地 付 貸	總面積	貸付反別	貸付歩合	戸數貸		貸付地積及小作入場年別					
				付地積	地積	明治四三	明治四四	大正元	大正二	大正三	
本場	三三八七〇	五六四五六	一一三	同	同	二九三三八	二〇四一六	九〇三三〇	一八六三二	一三二	
當別	一七五三三	四〇五八七	一一一〇	同	同	一一七〇三	八二六〇	二四七三〇	五六九〇	一八	
漁府	五四七四六	四〇四〇五	七〇	同	同	二五四六五	一五〇〇〇	一五〇〇〇	六八七九	九九	
訓子府	四〇四九二	一九七八二	四八八	同	同	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	六八七九	九九	
檜山	四〇四九二	一九七八二	四八八	同	同	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	六八七九	九九	
計	六四五六二	二一〇一三	三三	同	同	一一一〇	一一一〇	一一一〇	一一一〇	一一一〇	

契 約 解 除	本場	當別	訓子府	計	解除反別	戸數		解除地積及小作戸數							
						地積	地積	明治四三	明治四四	大正元	大正二	大正三			
本場	八三二五八	五五七〇〇	五三三二〇	一五〇〇〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
當別	五五七〇〇	四〇四〇五	四〇四〇五	一五〇〇〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
訓子府	五三三二〇	四〇四〇五	四〇四〇五	一五〇〇〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
計	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

右表ニヨルトキハ小作地ノ貸付面積ハ明治四十三年以降逐年増加シ大正三年末ニ於テ三千五百五十八畝二十八歩即チ總面積ノ一二%ニ當レリト雖モ又契約解除地ヲ生シ二千四百六十四町九反十歩ノ貸付地ヲ有シ小作戸數ハ百五十戸ヲ收容シタルモノナルモ契約解除戸數六十四戸ニ達シ八十六戸ヲ有スル所ナリ而シテ小作戸數最モ多ク又貸付地積ノ最モ多キハ訓子府ニシテ一時ニ總面積ノ四八、八六%ヲ貸付シ小作戸數四百二十二戸ニ達セシモ八十二戸ヲ解除シ大正三年末ハ總面積ノ三五、七%ヲ貸付スルニ過サルニ至レリ之ニ次クハ本場ニシテ當別、檜山等之ニ次キ漁ハ小作戸數及貸付地少數ナリ山林 本場附屬地ノ内樹林地トシテ經營セル土地ハ石狩國石狩郡當別村字青山與一万七千四百五十一町一反八畝八歩ニシテ本場地ハ本場ヲ距ル十七里餘西ハ厚田、北ハ濱益、東ハ樺戸ノ各郡ニ界シ中央ニ一帯ノ民有地ヲ包圍シ當別川其中央ヲ南ニ貫流ス假令縣道當別川ニ沿ヒテ縱貫シ北ハ濱益、新十津川、厚田、南ハ月形、當別ニ通ス林相ハ針濶混合林ニシテ樹木ノ成育概シテ良好ナリ本地ハ種畜場費歳入増殖ノ目的ヲ以テ明治三十六年付與ヲ受ケタルモノニシテ爾來年々少數ノ樹木ヲ賣拂ヒタルモ一定ノ方針ナク經營上不得策ナルカ故ニ四十二年之ニ天然更新法ニ依ル輪伐施業案ヲ確定セリ其方法回歸年ヲ四十箇年全伐期ヲ百二十箇年トシ年々針葉樹二万四千四百八十五尺縮、濶葉樹七万九千八百四十三尺縮ヲ伐採スルモノトナセリ本場敷地内林地約二千四百町歩及ヒ千歲郡漁村附屬地内林地約四百町歩ハ何レモ家畜ノ放牧ニ充用スヘキモノ又十勝國十勝郡大津村字昆布列石、北見國常呂郡野付村字訓子府、根室國野付郡平系村各分場用地ニ於テハ地内ノ不用木ヲ拂下クルニ止マリ本來林業經營ノ目的ニ非ラサルカ故ニ放牧地ノ整理其他ノ必要上臨機其幾部分ヲ賣拂ヒタルニ止

マリ別ニ森林施業方案等ノ設定ナシ今大正二年度中各附屬地内林木拂下數量價格等ヲ表示スレハ左ノ如シ
大正二年度林産物拂下表

地名	青木生立木		雑生立木		青木枯損木		雑枯損木	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
本場敷地								
當別村附屬地	九,四三二	一,二二六						
漁村附屬地	八,八〇〇	一,四〇八	一,七五五	一,四〇九				
訓子府附屬地			九〇	一,五〇〇				
檜山村附屬地			九〇	一,五〇〇				
根室村附屬地								
合計	一七,二三二	二,六三四	二,七四五	三,四一九				

石山 本場敷地内宇穴ノ澤ノ山脈ニハ一帯ニ軟石ト稱スル粗質ノ石材ヲ産シ能ク水火ニ堪ヘ加工ニ利便ナルヲ以テ近來大ニ需用ノ途ヲ擴張シ市場ニ煉瓦ト競争シテ各種ノ建築材料ニ使用サル、ニ至レリ本品ノ拂下ハ小口買受希望者ニ對シテハ隨時之ヲ許可スルト共ニ現在札幌市街軌道株式會社ヘ一ヶ年八万切、札幌區森田宇吉郎ヘ一万切宛各大正四年度迄一切金壹錢八厘ヲ以テ年期拂下契約ヲ締結シ以テ探掘販賣ニ從事セシメ居リ

十八、收支決算

經常部 歳入決算調

科目	臨時部 歳入決算調				經常部 歳入決算調			
	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年
種畜場收入	1,784	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
種畜及動物拂下	1,784	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
畜産物拂下	1,784	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
種畜付料	1,784	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
種畜貨付料	1,784	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
副産物拂下	1,784	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000

科目	臨時部 歳入決算調				經常部 歳入決算調			
	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年
血統證明料								
土地家屋賃料								
畜産試験品拂下								
雑収入								
過年度收入								
職員納付金								

科目	臨時部 歳入決算調				經常部 歳入決算調			
	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年
地方費補充金								
繰越								
財産賣拂代								
總計								

科目	臨時部 歳入決算調				經常部 歳入決算調			
	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年
種畜場費								
俸給及諸給								
雜費								
旅費								

「種ハ二一、三、四ニ當ル種類ニアリテハ明治二十七年「トロッター」種及「ベルシユロン」種ノ二種ヲ選定シ専ラ同種ヲ以テ本道ノ馬匹改良ヲ企圖シタルハ種畜場ノ計畫トシテ一般ノ敬服スル所ナリ本道ノ馬匹ハ「トロッター」種ニアリテハジョニアール系ボツブエークルス號、ダイヤモンド系、豊平系等ノ優秀馬ヲ生産シ本道産馬ノ名譽ヲ道ノ内外ニ高メ又「ベルシユロン」種ニアリテモシユベルブ系ハ常ニ良種牡馬トシテ定評アリ然ルニ明治三十五年「アングロアラブ」種及「アラブ」種ノ入場アリテ馬種ヲ加ヘタルモ從來ノ方針ニ敢テ抵觸セシニ非ラス併モ其生産極メテ少數ニシテ何等影響ヲ認メス後三十二年ニ至リ「サラブレッド」種ノ如キハ購買價格頗ル高價ナルヲ以テ地方馬改良上「トロッター」種ヲ購買スル方或ハ得策ナリシヤモ唯「サラブレッド」種ノ如キハ購買價格頗ル高價ナルヲ以テ地方馬改良上「トロッター」種ヲ購買スル方或ハ得策ナリシヤモ知ルヘカラス三十九年濠洲牝馬ノ貸付ヲ受クルト共ニ一方濠洲「サラブレッド」種牡馬ノ入場アリ之レト同時ニ「クライデスデール」種牡馬ヲ加ヘ同四十二年ニ至リ種牡馬生産貸付方針ヲ改メ購買貸付トナスヤ十一種類ノ馬匹ヲ有スルニ至リ年來種畜場繁殖留馬種ヲ「トロッター」及「ベルシユロン」ノ二種ト定メタル方針ハ別ニ的確ナル理由ナクシテ全ク書併ニ歸シタルハ遺憾ナリト言ハサルヘカラス購買貸付ヲナスニ至リ一時ニ斯ク多數ノ馬種ヲ加ヘタルハ種畜場方針ニ添フヘキ馬種ノミヲ購買シ得サル事情アリシハ明ナルモ若シ購買シ得サルトキハ從來ノ生産方針ヲ改ムヘキ理由ナキモノナルヘシ又購買法ヲ取ルニ至ルヤ牝馬ノ不用ニ歸スルヨリ拂下處分ヲ行ヒタルモ當時濠洲牝馬ハ貸付中ニシテ自由ニ處分ヲナスコト能ハサリシニヨリ本場生産馬ノミ賣却シタルヲ以テ再ヒ生産貸付ヲ取ルニ至リ不利ヲ來シタルヲ思ハサルヘカラス種馬購買貸付中馬政局ハ本道日高種馬牧場ヲ開始シ次テ長萬部種馬所ノ設置アリシノミナラス地方費又ハ團體有ノ牝馬ニ對シテハ無種畜場ニ於テハ購買貸付法ヲ改メ生産貸付ヲナスヘキヲ唱導スルモノアルニ至リ再ヒ生産貸付法ヲ取ルニ至リ長萬部種馬料種付ヲ發表シ以テ所ヨリ「サラブレッド」種及「アングロノルマン」種及「ベルシユロン」種牡馬ノ出張種付ヲ受ケ之ニ配スルニ種畜場ノ優秀牝馬ヲ以テ本場種牡馬ノ種付ニハ二流ノ牝馬ヲ用キタル爲メ本場生産馬ハ從來ノ種牡馬生産歩合ニ比シ劣リタルノミナラス又國有種馬ノ種付成績モ亦良好ナラス殊ニ「アングロノルマン」種ハ極メテ成績ニ終リタリ此等ノ状態ハ種畜場ニ於テ種牡馬生産方針ヲ取ル今日本道馬匹改良上適宜ナル種牡馬ノ購買ヲ急務トスルヲ證スルモノト言ハサルヘカラスナリ而シテ馬種トシテハ過去ノ成績ニ徴スルトキハ「トロッター」種及「ベルシユロン」種ヲ主トスヘク之レ少數ノ「サラブレッド」種ヲ加フヘキモ此種ノ種牡馬ハ國有馬ノ供給ニ俟ツモ不可能ナルヘク將來馬匹去勢法施行スルニ至ラハ「マキ」馬減少スヘキヲ以テ小格鞍馬の「馬匹改良上」アラブ」種及土產馬ノ優良ナル種牡馬ノ生産又ハ購買拂下貸付ヲ要スヘシ以上ノ種類以外ニアリテハ馬政局ノ施設ニ俟ツヘク一地方ノ種畜場トシテ十四種ノ馬種ヲ有シ而シテ馬匹改良ノ効果ヲ收メントスルハ至難ノ業ナリト言ハサルヘカラス

貸付方法ニ於テモ將來ハ產馬地ト育成地方トヲ區別シテ種牡馬ノ配置ヲナスヘク又地方馬ノ改良上一定ノ方針ヲ確立シテ

之レヲ助長スルニ力メ從來ノ如ク單ニ地方ノ要求ニ應ジテ種牡馬ノ拂下貸付ヲナサ、ルヲ可トスヘシ

馬匹ノ受胎及生産ニ關シテモ尙歩合増加ノ餘地アルヲ認ムルヲ以テ原因ヲ攻究シ生産率ヲ高メサルヘカラス使役馬匹ニ蕃殖牝馬ノ不妊馬ヲ使用シツ、アルハ極メテ經濟的ノ方法ニ似タル觀アリト雖モ元是レ優良ナル種牡馬生産ノ資質ヲ有スル馬匹ナルヲ以テ須ク其不妊ノ原因ヲ闡明シテ蕃殖用ニ供用スルヲ以テ根本義トナスヘキモノナリ蕃殖牝馬ノ勿論不妊牝馬ヲ使役ニ供スルハ決シテ經濟的ノ方法ニ非ラスシテ實力アル牡馬驕馬等ヲ飼養スルヲ得策トナスヘキナリ之レヲ耕作其他ノ使役方面ヨリ見レハ使役馬トシテ調教シ將來ノ勞役ヲ期待スルモ受胎スルトキハ使役シ得サルノ不利ヲ見ルヘシ之レヲ現況ニ徴スルトキハ耕地三百六十二町一反歩ニ對シ耕作使役馬ハ十四頭ニシテ牧草地ヲ包括スルト雖モ二十町一反歩ニ一頭ノ使役馬ヲ有スルニ過キス今月寒種畜場ハ三百五町歩ニ對シ二十八頭ノ耕馬及耕牛一頭ヲ使役セルヲ以テ約十四町歩ニ一頭ノ牛馬ヲ要スルニ比セハ同場ノ耕作狀態ノ改善ヲ期スルモ至難ナル處ニシテ爲メニ牧草地ノ更新ヲ行フ餘力ナキモノ、如シ茲ニ於テ之レヲ見レハ耕馬數ノ増加ハ種畜場根本培養上重要ナルモノナルヘク少クモ二十頭ノ耕馬ヲ要スルモノアルヘシ

飼養法ニ付キ改良注意ヲ要スルコト一ニシテ足ラサルト雖モ飼料ノ用量ハ概シテ多キニ失スルカ如シ將來研究ヲ要スヘキ事實ニ於テハ豫定馬數意外ノ返納馬及未貸付賣拂未濟馬等アリテ寄食スルヨリ或ハ定量ニ達セサルモノアルヤ保スヘカラス爲メニ種畜場馬匹ノ發育民有馬ニ比シテ遲緩ナリトノ流説ヲ耳スルコトアルヘク特ニ幼駒ノ冬期飼養管理等ニハ一段ノ研究改善ヲ要スル所ナルヘク運動調教等モ亦育成上努力ヲ要スヘシ尙馬匹飼養經濟調査ノ如キモ實施ヲ希望スル所ナリ

(五) 綿 羊

綿羊ノ飼養ハ種畜場ニ於テ之ヲ廢止セルヲ以テ過去ノ施設ニ過キスト雖モ將來牧羊業ノ振興上茲ニ之レヲ調査シタリ種畜場ノ効果トシテ牛馬ニ及ホシタルカ如ク大ナラス且ツ之ヲ廢止ニ當リテモ何等ノ結論ヲ見ルニ至ラザリシナリ然レドモ長キ牧羊史ハメリノ、サウスタウン、コソウオールト種等ノ本道ニ適種ナルヲ證シ其飼養管理法ニ於テハ牛馬ニ比シ精細ナル研究努力ノ跡ヲ認メサルモ長ク蕃殖現存シタルハ將來牧羊振興上確實ナル基礎ヲ與フルモノナルヤ明ナリ明治三十九年牧羊ヲ舉ケテ漁出張所内ニ移シ蕃殖牝羊五百頭ニ達シ以テ民間ニ牝羊拂下ヲ計畫セリト雖モ當初ノ計畫者去リ種畜場ハ財政豊ナラサル結果緊縮方針ヲ取リタルヲ以テ牧羊部ノ經濟極メテ不振ニシテ二百頭近キ牧羊ヲ分婉期剪毛期以外ニハ夫婦ノ牧夫ヲシテ飼養管理セシメ時ニ本場ヨリ監督ヲナス有様ニシテ更ニ進歩的施設ノ見ルヘキモノナク殊ニ牧羊ハ蠶虫ノ侵害ヲ蒙リ其驅除法ノ如キモ極メテ緩漫ニシテ數年ニ亘リ生産羊モ斃死スルカ如キ不振ニ陥リ一方開拓使以來存セシ蠶ノ被害大ナルモ嘗テ驅除法ヲ行フコトナク四十二年ニ至リ始メテ石灰硫磺合劑ノ浴湯ヲ行ヒ其ノ結果顯著ナルモノアリタルカ如キ牧羊上ノ智識方法到ラサルモノアリ加之放牧地ノ整理不良ニシテ小藪及毒莢散在シ絨毛ノ損失ヲ來タシ又寄

生虫ニヨリ營養不良ニ陥リ絨毛剥脱セル等其損失少ナカラサルヲ以テ剪毛量六七割ニ減シタルハ當然ノ結果ニシテ本道ニ於テ官民共ニ牧羊ノ不適ノ論證トナスモノアルカ如キハ其實際ヲ知ラサルノ致ス所ニシテ全ク飼養管理ノ拙劣ナルニ歸スヘキナリ而シテ是等不成績ヲ表セシ其真相ヲ明ニセス又何等結論ナクシテ廢止スルニ至リシト雖モ今ヤ月寒種畜牧場又民間ニ於ケル牧羊ハ好成绩ヲ現ハシ牧羊ノ有利ナルト飼養管理ノ容易ナル過去ノ悲觀說ヲ着々解決シツ、アルヲ以テ牧羊ノミ月寒種畜場ノ試験ニ俟ツヘキニ非ラヌ今ヤ牧羊ハ試験時代ト稱スヘキニ非ラヌシテ普及時代ニアルヲ思ハサルヘカラスルヲ以テ分場ヲ利用シテ牧羊場ヲ開設セサルヘカラスルナリ而シテ牧羊ニ關シテ種類改良試驗、飼養試驗、肥體試驗、毛皮利用試驗等ヲ行フヲ要スヘク本道牧羊増進上清國牧羊ヲ輸入シ以テ本道牧羊ノ基礎ヲ造成スルハ一ノ捷徑ナリト云ヘシ

(産業調査報告書第四卷其ノ一參照)

(六) 豚

本道ノ現況ニ徴スルトキハ豚ノ蕃殖ハ一盛一衰アルカ如ク種豚拂下希望者ニモ同一ノ傾向ヲ有シ種豚二頭、蕃殖牝十頭ヲ定數トシテ其生産仔豚ヲ育成シテ拂下ヲナスモ敢テ不足ヲ告クルコトナク却テ停滯ヲ見ルコトアリ將來豚肉需要ノ増加ト共ニ種豚計畫ヲ改ムヘキ必要アリト雖モ本道豚頭數ハ明治四十二年以降逐年減少ヲ示スヲ以テ本道豚頭數ノ將來ヲ推定スヘキ資料ノ乏シキヲ以テ今暫ク從來ノ方針ヲ持續スルノ外ナキモ種畜場ニ於ケル豚ノ蕃殖率ハ低率ト認ムヘキヲ以テ蕃殖育成方法ニ就キ研究ヲ重スルニ於テ現時ノ蕃殖牝豚數ヲ以テ尙種豚拂下數ヲ増進シ得ヘキナリ且ツ豚舎ノ如キモ改良ノ餘地多キヲ認ムヘク將來經濟的飼養試驗ヲモ併セテ行フヲ要スヘシ是レ札幌附近ニハ養豚飼料多キヲ以テ其利用法等ヲ民間營業者ニ指導スルノ便多キヲ以テナリ尙種類トシテハ「パークシヤア」種ノ外ニ民間白色小「ヨークシヤ」種ヲ希望スルモノ少ナカラス現時ノ如ク豚ノ需用カ主トシテ生肉用ナルトキハ白色小「ヨークシヤ」種豚ノ供給ヲ要スヘキヲ以テ更ニ同種ノ種畜供給ヲ計畫スルハ機宜ヲ得タルモノナルヘシ

(七) 家禽

種鶏種卵ノ拂下ハ明治三十六年養鶏再興以來之ヲ行ヒタリト雖モ種鶏ノ選擇上能力調査ヲナセルモノナク其飼養管理上進歩改良ノ見ルヘキモノナキヲ遺憾トスヘシ種鶏拂下數ニアリテモ過去四ヶ年間ノ種鶏一羽ニ就キ僅ニ二羽七分ノ割合ニ過キサルカ如キハ恐ク孵化育雛ノ研究ヲ要スルモノ多キニヨルヘシ場合ニヨリ地方種畜場ハ牛馬ノ如キ大家畜ノ種畜供給ニ努力スルヨリモ寧ろ綿羊、豚、家禽等ノ種畜供給ニ力ヲ注クヘキヲ思ハハ一段ノ改良進歩ヲ要スルヲ認ムル所ナリ種鶏ノ拂下ハ横濱グリマスロット種及白色レクホーン種各五羽計五十羽ノ程度トシ種卵ノ拂下ハ四個ナリト雖モ種鶏ノ能力増進セハ拂下希望スルヲ増スノミナラス又産卵數多キニ至レハ飼養經濟ヲ容易ナラシムルヲ以テ多少ノ擴張ヲナスハ他ノ種畜ニ比シ極メテ容易ナルモノアルヘシ

ニ比シ極メテ容易ナルモノアルヘシ

(八) 耕作

耕作ニアリテハ地積ノ實測圖面ノ作製等急ヲ要スルモノアリ土地改良及種藝ニ關シテハ見ルヘキモノ少ナキヲ遺憾トス牧草地ニアリテハ少クモ十年毎ニ更新スルヲ以テ普通トナス然ルニ本場ニ於テハ全牧草地ノ三分ノ二ハ二十年以上ヲ經過スルカ如キハ耕作計畫ノ周到ナラサルモノト言ハサルヘカラス爲メニ年々牧草地ニ要スル厩肥多ク穀作物ノ施肥充分ナラサルモノアリ又肥料ニアリテハ毫モ過磷酸石灰ヲ施用セサルカ如キハ計畫ノ當ヲ得タルモノナラサルヘシ耕作上農具、器械個數相當ナルカ如キモ收穫器少ナク耕馬足ラサルニヨリ耕作人夫ノ使役數多キヲ過クルヲ認ムル所ナリ是等ハ宜シク耕馬ノ増加ヲ計ルト共ニ節約ヲ加フヘシ尙將來輪作法、灌溉法等ヲ實行シ牧草及作物ノ增收ヲ計ルヘシ種畜場ハ月寒種畜牧場ニ於テ勝リ灌溉ノ便ヲ有スル土地多キヲ以テ收穫量ヲ月寒種畜牧場ノ程度ニ高ムルハ至難ニ非ラサルヘシ若シ同牧場程度ニ比シ地味ニ達セハ一段歩ノ牧草收穫量百二十九貫トナリ七ヶ年平均反當收量九十二貫ニ比セハ三割五分ノ增收トナリ結局百八十五町歩ニ對シ六萬八千四百五十貫ノ増加ヲ見ルヘシ又燕麥ニアリテモ七ヶ年平均反當一石三斗六升五合ナルハ月寒種畜牧場ニアリテハ六ヶ年平均反當一石六斗三升ノ收穫アルヲ以テ此程度ニ達セハ百三十二町歩ノ燕麥畑ニアリテハ約三百五十石ノ增收ヲ見ルニ至ルヘキヲ以テ研究努力ヲ要スル所ナリ

(九) 建築物及農具其他器械

建築物ニアリテハ畜舎ノ保温、採光、通風及作業上ノ便等ヨリ之レヲ見レハ改良ノ餘地多ク一般ニ時世ニ後レタルモノト認メサルヲ得ス殊ニ建築物ハ老朽ニ傾キ今ヤ大修繕ヲ要スルニ至リ一般經濟ニ於テモ緊縮ニ緊縮ヲ重スルコト六ヶ年ニ及ヘル種畜場ハ更ニ一大負擔ヲ目前ニ控ヘツツアリ而シテ過去ニ於テハ何等償却金及修繕費ノ積立ヲナササルヲ以テ特別會計ノ根本ニ於テ其計畫ニ缺陷アルヲ認メサルヘカラス是等ハ建築技師ニ委嘱シテ償却修繕ノ率ヲ制定シ又改築スヘキモノハ改築方法ヲ確立スルヲ急務トスヘシ農具其他ノ器械ニ於テモ償却金、修繕費等ノ積立ヲナシ現時更新増加ノ急ナルモノアルヲ以テ之レカ實施ヲ急務トスル所ナリ

(十) 労働者

種畜場ニ於ケル労働者ハ大体ニ於テ過多ナルモノノ如シ即チ耕作部ニ於テハ一段歩ニ付四人四分ヲ要スルハ收穫器械ノ足ラサルト使役馬ノ少ナキヨリ労働者ヲ要スルモノノ如ク又耕作地ノ遠隔ノ地ニアルモノモ此一因タラサルヘカラス是等將來

耕作地ノ位置ヲ近距離土地ニ按配シ輪作法ヲ實行スルハ勿論收穫器械ヲ増加シ使役馬ヲ増加スルニヨリ耕作部人夫ヲ節約スルヲ得ヘク又會計係人夫ハ一日平均七人二分六ヲ使役スルハ木工、鐵工、小使其他公書ノ處分ヲ速進スルニアルヘシト雖モ家畜拂下貸付ノ取扱ヲ場長ニ付與セラルルニ於テハ此種ノ人夫ノ節約ヲ來スヘシ畜牛部ニアリテハ牧夫一日一人種牡牛及妊牛七頭、乳牛ハ十二頭、不妊牛三才牝牛、二才牝牛、二才牡牛、當才牝牡牛及病牛ハ二十頭ヲ飼育ス然ルニ幼牛牝ノ飼養管理ハ極メテ懇切ヲ要スル時期ナルヲ以テ人夫ノ増員ヲ要スルヲ認ムルト育馬部ニ於テモ牧夫一日一人種牡馬及四才牡馬五頭、四才以上養殖牝馬十頭、不妊馬三才牝馬、二才牝馬、幼駒等平均十五頭、三才牡馬六頭、二才牡馬十頭ニ當ルヲ以テ幼駒ノ育成管理上人夫ノ増員ヲ要スル所ナリ

(二) 種畜貸付及種付諸規則

種畜貸付及種付規則ハ明治十九年以來事業ノ進步發展ト共ニ時々改廢ヲ行ヒ本道畜産獎勵上遺憾ナキヲ期セリ然レトモ過去ノ成績ニ徴スルトキハ貸付牛馬ノ貸付資格者ハ産牛馬組合聯合會、産牛馬組合ヲ主トシ是等ノ設置ナキ地方ニ限リ農會又ハ産業組合ニ限リ種牡牛馬ヲ貸付シ特ニ種牡牛ノミハ特別ノ必要アリト認メタル場合ニ限リ十頭以上ノ適齡牝牛ヲ有スル者ニ貸付スト規定セリ是等ノ結果民有種牡牛馬ヨリ優良ナル種畜ニシテ貸付未済トシテ殘存シ爲メニ豫算飼料ノ喰込又超過ヲ來スヲ以テ種畜場經理上困難ヲ來シタルコト少ナカラス是等ハ以上ノ貸付資格ヲ擴張シ個人ニアリテモ牝馬二十頭牝牛十頭ノ所有者ニモ貸付ノ途ヲ開クニ至ラハ生産種畜ヲ最モ有効ニ利用スルヲ得ルヲ以テ一段ノ進步ナリト雖モ更ニ貸付法拂下法ニ改正スルヲ得策トス之レ從來ノ貸付方法ハ種牡牛ハ三ヶ年種牡馬ハ六ヶ年間借受ヲナシ飼養管理善良ナル場合ニ於テハ借受者ニ拂下ノ特典ヲ與ヘツヅアリト雖モ六ヶ年後ニ於テ拂下ヲ受クルヨリモ貸付期間種用ニ供シ之レヲ返納シ他ノ種畜ノ貸付ヲ受クルヲ得策トスルヲ以テ飼養管理周到ナラサルモノアリテハ種畜ノ能力ヲ充分ニ活用スルコト能ハサルト拂下希望者少ナキヲ遺憾トスル所ナリ是等ハ年賦拂下方法ヲ取り六ヶ年貸付種牡馬ハ其評價格ノ六分ノ一ヲ年々徵收シ三ヶ年貸付ノ種牡牛ハ其評價格ノ三分ノ一ヲ年々徵收シテ完納ト共ニ個人有トシ種牡馬トシテ使用期間ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ賣買ヲナスヘキモノトナストキハ個人有ノ種牡馬同様ノ意義ヲ有スルヲ以テ飼養管理周到ナルニ至ルヘク從來種畜ノ蕃殖成績又良好ナルニ至ルヘキヲ以テ從來ノ種畜拂下方法ヲ牝牡牛馬共ニ年賦拂下方法ニ改メ又拂下資格者ハ從來種畜貸付有資格者ノ外個人ニアリテモ牝馬二十頭以上牝牛十頭以上ヲ所有スルモノニモ拂下ノ途ヲ開クニ於テハ從來ノ如ク種牡牛馬ノ種畜場ニ停滯スルモノ少ナキニ至ルヘキナリ又種牡馬ハ他ニ轉貸セラルルカ如キ憂ナキヲ以テ飼養者ノ愛護懇切ナルニ至ルヘシ

種畜貸付事務ニアリテハ種畜場長ノ取扱ナリシモ明治三十七年北海道廳ニ畜産課ニ設置ト共ニ北海道廳事務ニ移シタルヲ以テ種畜場ハ其規程中種畜蕃殖育成及配付ヲ行フモノトストアルモ現時ハ蕃殖育成ニ止マル有様ナリ之レ貸付又ハ拂下種畜事務ノ敏捷ヲ計ル上ニ於テ又ハ種畜配置上ヨリ之レヲ見ルモ種畜場長ニ取扱ハシムルヲ當然トスヘシ然レトモ近年種畜場ハ財政緊縮ノ止ムナキヨリ貸付種畜ノ検査ヲ行フコト少ナク從テ本道地方牛馬ノ狀態ヲ熟知スルノ機會ヲ得サル所ナリト雖モ將來貸付種畜検査ト共ニ地方牛馬ヲ調査視察スルニ至ラハ種畜貸付及拂下種畜場長ニ取扱ハシムルヲ至當トスヘキ所ナリ而シテ從來種畜貸付、拂下ノ方法ヲ見ルニ年度始メ貸付適齡種畜ヲ各支廳ヲ經テ産牛馬組合等ニ通知スルニ止マリ時ニ拂下馬匹ニ就テハ一枚摺ノ如キ印刷物ヲ一般ニ配布セリト雖モ種牡牛馬ノ貸付未済ノ者ヲ民間營業者ニ周知セシムル方法ノ充分ナラサルヲ認ムル所ニシテ將來新聞紙上其他農業畜産雜誌等ニ廣告シテ貸付種畜ノ存在ヲ周知セシムルヲ要スル所ナリ

(三) 試驗事業

種畜場ノ目的ハ其名稱ノ示ス如ク種畜ノ供給場ナリト雖モ其規程ニ示スカ如ク家畜ノ改良蕃殖ニ關スル試驗、家畜ノ管理飼養方法ニ關スル試驗、家畜肥肉法ニ關スル試驗、酪業ニ關スル試驗、牧草栽培ニ關スル試驗等試驗ニ關スル事業ヲ行フコトヲ得ルノミナラス明治三十七年牧草、燕麥ノ栽培試驗ヲ行ヒ同三十八年家畜肥體法、煙腿製造法、煉乳製造法、牛酪製造法等ノ試驗ヲナスニ至リタルハ本道畜産業ノ獎勵ヲ促スニ有力ナル施設ニシテ大ニ慶スヘキモノニシテ試驗方法ノ如キハ慎重審議ヲ盡シ試驗方案ヲ制定シテ連年實施シ之レカ試驗臺帳ヲ整備シテ精細ニ記載シ長ク考證トナササルヘカラス然ルニ以上ノ試驗ノ或モノハ實施セリト雖モ試驗方案ノ不備ナルト試驗臺帳ヲ欠クヲ以テ何等考證ヲナスヘキ資料ナク極メテ遺憾ナリ

(四) 實習生

我邦ノ如ク畜産ノ幼稚ナル國ニ於テハ畜産實習生養成ハ極メテ必要ナルモノニシテ明治四十一年種畜場内ニ於テ畜産實習生ノ養成ヲナスニ至リシハ極メテ機宜ヲ得タルモノニシテ其成績見ルヘキモノアリ之ヲ種畜場一事業トシテ的確ナル成績ヲ舉クルニハ掛員ハ一段ノ注意ヲ以テ實務ノ練習ハ勿論學理的講述及本道畜産ノ改良上必要ナル諸點ヲ指導シ以テ短期間ニ於テ畜産ニ從事スヘキ農家子弟ノ教養ニ努力セサルヘカラス

(五) 小作地及山林並ニ石山

小作地 小作地ハ總面積二万六千七百七十一町二反四畝十四步中三千五百五十一町五反八畝二十八步ヲ貸付タルモ其後六百八十六町六反八畝十八步ハ小作契約ヲ解除シタルヲ以テ二千四百六十四町九反十步ヲ貸付シ小作人ハ四百二十二戸ナリシモ

四十四年以降各年多少ノ解約者出來シ大正三年末ニハ三百三十二戸トナリ大正三年末開墾反別ハ九百八十六町三反四畝七歩ニシテ一戸平均ノ開墾反別ハ二町九反六畝歩ニ當レリ

貸地農經營ノ容易ナラサルハ本道其實例多キ處ニシテ補護獎勵ノ乏シキトキハ掠奪農ニ陥リ保護厚キトキハ小作者ノ奮發努力ノ精神ヲ失フノ弊アリ種畜場ノ小作契約ハ鐵下五ヶ年ヲ與フルト小作料ハ一般貸地農ニ比シ低廉ナルノ外何等ノ保護獎勵ヲ加フルコトナク加之ナラズ貸付契約ノ條件トシテ着手後三年以内ニ十町歩ニ付牛馬二頭ヲ飼養セシムルコトセリ現行小作契約條件ハ小作地ノ管理上猶ホ攻究ノ餘地アルモノ、如シ

小作地中北見國野付牛村調子府ハ小作地トシテ極メテ有望ニシテ一時薄荷熱ニ伴ヒ小作希望者劇増シタルモ確實ナル小作者ナラサルモノアリシヨリ契約解除ノ止ムナキニ至リタルモ將來四圍ノ開發ト共ニ小作者増加シ從テ成墾地ヲ増加スルニ至ルヘク約千八百町歩ハ農耕地トシテ使用スルヲ得ヘク一戸十町歩ノ區劃トナストキハ百八十戸ヲ收容シ得ヘク四圍ノ狀況ニ照シ鐵下五ヶ年トシ六年目ヨリ一反歩ノ小作料六十錢ヲ徵收スルハ決シテ不當ナラス故ニ此等ノ小作地ハ將來年々一万八百圓ノ收入ヲ生スルモノト云フヘシ

檜山郡館村及鷲村ニ於ケル小作地ハ小作地トシテ有望ナルモ二百町歩以上ノ成墾地ヲ見ルコト至難ナルヘク一戸十町歩ニシテ二十戸ヲ收容シ一反歩六十錢ノ小作料收入アルモノトスルトキハ千二百圓ノ收入アルヘシ

常別ノ用地ハ山林ノ目的ナルモ尙小作ヲ收容シ得ヘク四百五十町歩ノ處分シテ五十五町歩ヲ解約シタル有様ナレハ尙收容ノ餘地アルヘキモ將來ノ餘地大ナラサルヘク五百町歩トシテ五十戸ヲ收容シ三千圓ノ小作料ヲ收得シ得ヘシ

漁出張所ハ元來牛馬ノ放牧地トシテ利用シタルモ同三十九年牧羊ヲ開始スルヤ耕地ニ適スヘキ土地ヲ耕作シタルヲ以テ牧羊廢止ト共ニ貸付シタルモノニシテ其後十五町歩ノ未開地ヲ貸付シタルモ結局四十町歩ノ貸付地ヲ有スル以外ニ小作人ノ收容ヲ望ムヘカラサルヲ以テ四十町歩トシテ一反歩六十錢ノ小作料トスレハ二百四十圓ヲ收得シ得ヘシ

本場内小作地中殊ニ燒山ノ如キ之ヲ小作地トシテ選定セルハ不適當ニシテ中央ニ點在スル農家ハ一方ニ取リ集ムルカ或ハ解除シテ從來ノ如ク放牧地トシテ利用スル外ナカルヘシ

此外十勝、釧路、根室ノ分場地内ニモ若干ノ小作ヲ收容シ得ヘキモ同地方ハ果シテ農耕ニ適シ永住ノ良小作ヲ得ヘキヤハ疑問ニ屬スルヲ以テ暫ク時機ノ到來ヲ待ツカ又ハ牧羊場トシテ活用スルヲ可トスヘシ

(五) 財政

山林地 山林地ノ經營而積ハ常別村青山奥ニ於ケル二万七千四百五十二町一反八畝八歩ニシテ明治三十六年ノ付與地ナリ爾來年々少數ノ樹木ヲ賣拂ヒタルモ同四十二年天然更新法ニヨル輪伐施業案ヲ確定スルノ必要ヲ認メ四十年輪伐トシ百二十年皆伐法ヲ取レルハ極メテ至當ノ處置ナルヘシト雖モ木材ノ運出上便利ナラサルト一般經濟界不振ノ結果近年木材ノ需要乏シキヲ以テ各年特別會計法施行當時豫期シタル收入ヲ見ルニ至ラスシテ各年不足ヲ見ルヲ以テ他ニ補充金ヲ要スル所ナリ

種畜場ノ財政狀態ハ現況ニ於テ見ル如ク大正二年末ニ於テ二万一千三百九十九圓八十一錢九厘ノ負債ヲ有シ大正三年末ニ於テ更ニ増加シテ二万二千三百六十九圓九錢九厘トナレリ而シテ今日ノ狀態ニ至リシ原因ヲ見ルニ明治三十五年以降同四十年迄ハ年々三千八百圓乃至一万二千圓ノ繰越金ヲ有シ經理極メテ順當ニシテ豫定ノ事業ヲ實行スルヲ得タリ是レ種畜場ノ生産收入ニ因ルニ非ラスシテ各年地方費ノ補充金アリシヲ以テ順當ノ經理ヲナシ得タルモノナリ同四十一年ニ於テモ地方費ノ補充金三千圓アリシト雖モ前年ニ比シ其半額ニ達セサルヲ以テ約補充金ノ減額ニ當ル現金不足ヲ來スニ至リシモノニシテ爾來年々現金不足ヲ生シ大正元年ハ副産物拂下殊ニ木材ノ拂下多カリシヨリ二千三百餘圓ノ剩餘金ヲ生シタルモ年來不足金額ノ一部ヲ支辨スルニ過キスシテ大正二年以降年々現金不足ヲ來シツ、アリ是ニ由テ之レヲ見レハ明治四十一年以降種畜場財源トシテ期待シタル家畜拂下木材、石材等經濟界不況ノ爲メ豫期ノ收入ニ達セザリシ點少ナカラスト雖モ特別會計施行計畫ヲナシタルハ早計ナルノミナラス根本的ニ失敗ナルヲ證スル所ナルヘシ換言スレハ明治三十五年以降同四十年ニ至ル六ヶ年間各年共ニ剩餘金アリシハ前述ノ如ク地方費補充金アリシニ依ルモノニシテ種畜場ノ生産收入ノ多キニ因ラサルヲ以テナリ斯ル財政難ハ種畜改良蕃殖試驗事業ニモ直接ニ多大ノ影響ヲ來シタルハ多言ヲ要セサルヘク畜産製造試驗費ノ如キハ明治四十二年以降大正二年ニ至ル六ヶ年間ノ豫算額九千七百九十四圓餘ニ對シ實際支出額三千八百七圓餘ニ過キサルカ如キ之レヲ證スヘシ且年々ノ仕拂基金不足ヲ告ケ飼料ノ購入ニ於テ機ヲ逸シ高價ノ飼料ヲ購入スルノ餘儀ナキニ至リタルモノアルヘク一般地方費又ハ他ノ特別會計ヨリ臨時借入ノ手續ヲナシ漸ク仕拂基金ヲ充足シ又年度未現金不足ニ對シテハ後年繰上金ヲ行ヒテ經理ヲナス等會計ノ基礎薄弱ナルニ至リ併モ其年數大正二年末ニハ七ヶ年ヲ經過シタルヲ以テ事業ノ萎微不振ヲ來スハ當然ナリト言ハサルヘカラス殊ニ明治四十二年種畜牛四頭、牝牛一頭ヲ購入セントシ豫算額一万八百八十八圓八十四錢ヲ計上シタルモ收入豫算ニ比シ收入濟額ハ一万八百九十六圓二十五錢ヲ減シタルヲ以テ前年ノ不足額三千四百七十二圓八十二錢八厘ヲ加ヘ二万四千三百六十八圓七錢一厘ノ不足ヲ來スニ至リシハ抑モ負債ノ額ヲ見タル所以ニシテ收入中殊ニ副産物拂下豫算ノ一万五千九百六十圓ハ九千八百五十圓二十四錢三厘ノ收入トナル動物拂下代二万六千六百九十五圓ハ一万六千五百八十三圓三十七錢二厘トナリ右二項ニ於テモ一万六千二百二十圓餘ノ不足ヲ生セリ之レ木材及拂下牛馬ノ購入希望ナキニ起因スルモノニシテ又如何トモナスヘカラサル處ナルモ爲ニ種畜場ノ事業費ヲ節約スルノ方

針ヲ取ラサルヘカラサルヲ以テ場費ニ於テ牧草地ノ如キ更新期ハ既ニ過キタルモ之レヲ更新セシテ經過シ又前記ノ如ク畜産試験費ノ如キモ減額スル等種畜場ノ面目ヲ改ムヘキモノナキニ至ルハ止ムヲ得サル處ナルヘシ而シテ明治四十三年以降種馬生産貸付方針ヲ改メ購買貸付トナスヤ購買費ノ大部分ハ種畜場ニ於テ生産物收入ヨリ支出シ其不足額ヲ地方費ノ補充ニ待タントセルニ至レリ既ニ一万四千餘圓ノ負債ヲ有シ尙經濟界ノ不況回復セシテ收入増加ノ確實ナラサルニ種牛購入計算ヲナシタルハ益財政困難ヲ來セルモノナリ現下ノ急トスル處ハ大正三年ニ至ル現金不足額即チ負債金二万二千三百六十九圓十九錢ヲ償還シ特別會計ノ實ヲ擧ケサルヘカラス今償還方法ヲ研究スルニ右償還ハ經常收入財源以外ニ之レヲ求メサルヘカラス處ナルモ適當ナル財源ナキニ窮スルモノ、如シ故ニ他ニ財源ヲ得サルニ於テハ以上叙述シタル分場用地ノ木材ヲ以テ之ニ充テ他ハ拂下豫定馬ノ未處分牛馬及貸付種畜ノ期限經過ヲナントタルモノ等ヲ以テ償還法ヲ講スルノ外ナカルヘシ今之レヲ計算スルトキハ大正三年末ニ於テ左ノ如シ

種	別	數	量	見積價格
木	在場	未拂	牝牛	11000000
	在場	未拂	牝牛	3740000
在場	未拂	牝牛	10927480	
	未拂	牝牛	17922400	
貸付	種畜	未拂	牝牛	16767800
	種畜	未拂	牝牛	15240000
同	計	牝馬	34765700	
			一尺ノ	625000
			過去四ヶ年平均拂下牝牛價格	3111200
			過去四ヶ年平均拂下牝馬價格	896200
			同	1524000

以上ハ經常部收入豫定物件以外ニ屬スルモノニシテ確實ナル收入物件ナルモ一般經濟界ノ不況ニヨリ果シテ短年月間ニ豫期ノ收入ヲ見ルキハ疑問ナルモ如何ニ低廉ニ見積ルモ三万三千三百六十九圓十九錢ノ償却物件ト認ムルヲ得ルモノナルヘシ斯クシテ負債金ノ整理ヲナスト共ニ經濟界ノ順當ナルニ至リ經常部及臨時部ノ歳入歳出又順當ナルニ至ルナリ緊縮方針ヲ取り銳意財政ノ除根ヲ得ルニ努力セサルヘカラス所ナリ若シ經理上ノ實況ヲ見ルトキハ例令豫算ノ如ク歳入歳出行ハル、モ時々支拂基金枯渴シテ其都度地方費其他ヨリ借入金ヲナシ收入ノアル都度戻入ヲナス等經理者ノ苦心又知ルヘキモノアリ是等ハ繰越金又ハ積立金等ノ如キモノヲ設ケ場長限リ一時流用ヲナスノ方法ニヨリ經理スルニ至ラハ飼料購入ノ如キモ適當ノ時期ニ於テ購入スルノ利便蓋シ僅少ナラサルヘシ

二十、種畜場ノ將來

種畜場ハ過去ニ於テ主トシテ種牝牛馬ノ生産貸付ヲ行ヒタルコト既ニ叙述セルカ如シ今ヤ國有種馬牧場及種馬所並ニ種畜

牧場ノ設置ヲ見ルニ至リタル今日種畜場ハ一定ノ方針ヲ確立シ其立脚ノ地ヲ明ニスルニ非ラサレハ往々ニシテ種畜場存立ノ不必要ヲ唱フルモノアルニ至ルヘシ現時種畜ノ供給ハ官設ニ民設ニ漸ク汎カラントシ時ニ或ハ官設種牛供給ハ民間事業ヲ抑鎮スル嫌ナキニ非ラサルヲ以テ地方應種畜場ノ種畜供給計畫ハ過去ノ如ク主力ヲ之ニノミ傾注スルヲ要セサルヘク却テ民間ニ於テ施行シ難キ畜産試験ヲ主トシ種畜供給ヲ副トスルハ時世ノ要求ニ應スル所以ナルヘシ換言スレバ種畜場ハ從來ニ比シ一層試験事業ニ力ヲ注クヘシ然レトモ國立牧場カ北海道ニノミ種畜、種鶏ノ供給ヲ目的トスルニ非ラサルノミナラス又一地方ノ家畜、家禽ノ改良ニ關スル計畫ヲナスニ非ラサルヲ以テ種畜場ハ種畜、種禽ノ供給ヲ始メトシ地方畜産業ノ發達上必要ナル諸種ノ計畫ヲ立テサルヘカラスナリ今左ニ將來種畜場ノ方針トシテ重要ナル諸點ヲ掲ケン

(一) 種畜、種鶏ノ生産育成及拂下

種牝馬ハ過去ニ於テ購買貸付法ヲ採リタルコトアルモ民間種牝馬ノ生産程度猶ホ低ク本道ノ馬匹改良ニ適當ナルモノヲ購買シ得サルノミナラス強ク所要頭數ヲ購買セント欲スルトキ産馬方針ヲ實行シ得サルニ至ルト購買ハ生産ニ比シ反ツテ高價ナルヲ以テ終ニ生産育成法ヲ取ラサルヘカラス而シテ將來供給スヘキ種畜ハ左ノ種類トシ過去ノ實績ニ鑑ミ堅實ナル方針ノ下ニ之レカ蕃殖育成ヲ計ラサルヘカラス

(イ) 種 牝 牛

エアシヤ種 短角種 (ヘレフォート種 (成績未タ明ナラサルヲ以テ試験牛トス))

和 牛 (用途役肉用試験牛トシ純粹蕃殖法ヲ行フ)

(ロ) 種 牝 馬

トロツター種及其系統 ペルシユロン種及其系統 サラブレッド種及其系統 アラブ種及其系統

北海道馬種(土產馬)等トス

(ハ) 綿 羊

綿羊ハ牝羊ノ供給ヲナスモノニシテ支那種ヲ輸入シ之ニ月寒種畜牧場ノ種牝羊ヲ交配シ三回雜種ヲ供給スルニアリ其種類ハメリノー雜種 ジュロブシヤー雜種 コツウオールト雜種等トス

(ニ) 豚

パークシヤー種 ヨークシヤー種

横斑ブリマスコック種 レグホーン種

(二) 試験事業

試験ヲ要スルモノ頗ル多シト雖モ種畜場ニ於ケル試験ハ學術試験ニ屬スヘキモノニ非ラスシテ應用試験ナラサルヘカラス即チ北海道畜産上必要ナル事項中緩急ヲ計リ之レヲ行フヘキモノトス而シテ試験ヲ實施スルニハ必ス試験法案ヲ作成シ慎重ニ審議シ決定スルヲ要ス而シテ是等試験施行上從來ノ場員ニテハ不足ナルヲ以テ畜産指導員ヲ種畜場技手ニ兼任スルヲ得策トスヘシ今試験事項ヲ擧クレハ左ノ如シ

(イ) 家畜家禽飼養試験

家畜・家禽飼養試験ニ於テハ家畜・家禽ノ種類、年齢、用途ニ應ジ飼料種類ノ利用及用量ヲ主トナスヘキモ又經濟的比較試験ヲナスヲ要スヘシ

(ロ) 畜産製造試験

試験事項ヲ擧クレハ左ノ如シ

- (1) 牛酪製造法、貯藏法、容器試験、輸送法
- (2) 乾酪製造法、貯藏法、輸送法
- (3) 火腿及腸詰製造法
- (4) 鹽豚製造法
- (5) フヘット及ラード製造法
- (6) 羊毛、羊皮加工試験
- (7) 鶏卵貯藏試験

(ハ) 放牧地ノ利用試験

本道ノ放牧地ハ個人有ト共有トニ別ナク天然ノ林地ニ非ラザレハ或ハ原野ノ素地ニシテ之レカ改良ヲ加ヘタルモノ極メテ稀ナルノミナラス放牧地ノ野草著シク減耗シ途ニ荒廢ニ歸セントスルモノ甚タ多シ而シテ殖民地ノ開發ト家畜ノ増殖ハ放牧地面積ヲ縮少スルモノアルヲ以テ放牧地ノ改良法、所要地積ノ程度、輪換放牧法等試験研究ヲ要スルノ急ナルモノアリ又木柵ニ關スル研究ノ如キモ亦然リ

(ニ) 厩肥試験

厩肥ノ生産量及作物ニ對スル肥効並ニ他肥料トノ比較試験等種畜場ニハ此種ノ試験ニ最モ好適ス

(三) 種畜ノ拂下

從來種牡牛及種牡馬ハ貸付方法ヲ取リタルモ將來年賦拂下法ヲ取ラントス而シテ羊豚、鶏ハ從來ノ如ク單ニ賣拂ヲナスヘシ今拂下計畫ヲ掲クレハ左ノ如シ

(イ) 種牡牛拂下計畫

種牡牛供給ノ將來ハ畜牛ノ増加ト共ニ擴張ヲ要スル所ナルモ現時本道ノ畜牛ハ頭數減少ノ傾向ヲ有シ且ツ輸入牝牛獎勵ヲナスヘキモ年々三百頭以上ヲ管外ヨリ移入スルニ過去ノ事實ニ徴シ至難ナルモノ、如ク從テ各年度割畜牛頭數ヲ推定困難ニシテ計畫ヲ立ツル事能ハサルヲ以テ暫ク從來ノ方針ニ基キ畜殖適齡牝牛六十頭ヲ定置シ其生産率 七五、四%トシテ四十五頭ヲ生産シ牝牛相半スルモノトシ一割ノ欠損ヲ差引キ年々二十頭ノ種牡牛ノ拂下ヲ繼續スヘシ而シテ種類ノ割合ハ從來ニアシヤ種ヲ 八五、六三%短角種 一四、三七%ナリシモ短角種ノ歩合ヲ増加シニアシヤ種ヲ八五%短角種ヲ一五、〇%トナスヘシ

(ロ) 種牡馬拂下計畫

種牡馬從來ノ拂下計畫ハ畜殖適齡牝馬六十頭ヲ定置シ其生産歩合ヲ 六〇、〇%トナストキハ牝馬十八頭ヲ得而シテ其一割強ノ欠損ヲ差引キ十五頭貸與ノ計畫ヲ立テツ、アリト雖モ同計畫ハ本道現時種牡馬證明書ヲ有セサル所謂「マキ」馬ヲ計算ニ加ヘサルモノナルヲ以テ若シ馬匹去勢法ノ勵行ヲ見ルニ至ラハ種牡馬數ニ著シク不足ヲ來スヘキヲ以テ更ニ計畫ヲ更新スルヲ要スヘシ即チ大正五年度ヨリ畜殖適齡牝馬百頭ニ増加シ 六〇、〇%ノ生産ヲナシ其半數ヲ牝馬トシテ三十頭中一割強ノ欠損ヲ見積リ年々二十五頭ノ拂下ヲ行ヒ大正九年ヨリハ二十五頭ノ種牡馬ヲ購入シテ生産馬ト共ニ五十頭ノ拂下ヲ要スル所ナリ而シテ輕種及重種ノ割合ハ從來輕種 七六、一三%重種 二二、八七%ニシテ將來モ亦同率ヲ持續スルヲ適當トスヘシ殊ニ近年重種系ノ馬匹民間ニ著シク歡迎セラレ、モ馬匹ノ用途ニ考ヘ大ニ注意ヲ要スヘキ點アリ今種牡馬拂下計畫ヲ上クレハ左ノ如シ

自大正二十一年二十ヶ年間種牡馬補充計畫表 (其一)

年次	總馬數	牝馬總數	畜殖適齡牝馬數	實際畜殖供用牝馬數	想定牝馬數	所要種牡馬頭數
大正二十一年	一八三、五八	一〇〇、〇四	六六、二六	一七、四九	四九、三六	一四、一〇
同二十二年	一八九、四四	一〇三、五八	六八、五五	一七、四九	四九、三六	一四、一〇

年次	總馬數	牝馬總數	蕃殖適齡牝馬數	實際蕃殖供用牝馬數	所要種牡馬頭數
大正					
四年	一九五、五〇〇	一〇七、〇九二	七〇、八九五	二八、一〇八	一四、六〇〇
五年	一〇一、六七六	一〇、六六三	七三、三三四	二九、〇六七	一五、一〇〇
六年	一〇七、八〇一	一四、一六〇	七五、五七四	三〇、〇六六	一五、六〇〇
七年	一一三、九八八	一七、六九四	七七、九一三	三〇、九九五	一六、一〇〇
八年	一二〇、〇五四	二一、二一八	八〇、一五三	三二、九四四	一六、六〇〇
九年	一二六、一八〇	二四、七六一	八二、五九二	三三、〇〇四	一七、一〇〇
十年	一三三、三〇六	二八、二九六	八四、九三二	三三、八六三	一七、六〇〇
十一年	一三八、四三三	三一、八〇〇	八七、二七一	三四、八三二	一八、一〇〇
十二年	一四四、五五八	三五、三三四	八九、六一一	三五、七八一	一八、六〇〇
十三年	一五〇、六八四	三九、八八九	九一、九五〇	三六、七四一	一九、一〇〇
十四年	一五六、八一〇	四四、四三三	九四、二九〇	三七、七〇〇	一九、六〇〇
十五年	一六二、七三六	四九、〇二〇	九六、六二九	三八、六五九	二〇、一〇〇
十六年	一六八、八六二	五三、六〇四	九八、九六九	三九、六一八	二〇、六〇〇
十七年	一七五、〇〇八	五八、一五六	一〇一、三〇九	四〇、五七七	二一、一〇〇
十八年	一八二、一三四	六二、六六八	一〇三、六四八	四一、五三七	二一、六〇〇
十九年	一八九、四四〇	六七、二六二	一〇五、九八八	四二、四九六	二二、一〇〇
二十年	一九六、七三六	七一、八五六	一〇八、三二七	四三、四四五	二二、六〇〇
二十一年	二〇四、〇三二	七六、四七〇	一一〇、六六七	四四、四一四	二三、一〇〇

備考
一、總馬數及牝馬總數ノ増加率ハ最近二十五ヶ年間ノ率ニヨル即チ左ノ如シ

年次	總馬數	牝馬總數
自十九年	至廿六年	八ヶ年間ノ平均増加數
自廿七年	至卅九年	三ヶ年間ハ増加セス
自三十年	至卅八年	九ヶ年間ノ平均増加數
自卅九年	至大正二年	八ヶ年間ノ平均増加數
以上二十五年間		ノ平均増加數

一、蕃殖適齡牝馬數ハ牝馬總數六六、二%トシテ計算セリ
 一、生産頭數ハ適齡牝馬數ノ四一%即チ四割一分ノ率トシテ計算セリ
 一、實際蕃殖供用牝馬數ハ平均蕃殖率ヲ五五%即チ五割五分ト想定シ生産頭數ニ基キ計算セリ
 北海道種畜場ノ調査ニ依レハ二十六年ヨリ大正二年迄二十一年間ノ平均六割二分強ニ當ルモ民有牝馬ノ總平均ハ多少之ヨリ劣ルモノト見做シ五割五分ト想定セリ
 一、種牡馬一頭ニ對スル種付牝馬數ハ平均三十五頭宛トシテ所要數ヲ計算セリ
 自大正二一年至大正廿一年二十ヶ年間種牡馬補充計畫表 (其二)

年次	所要種牡馬數	國有種牡馬數	民有種牡馬數	無證種牡馬數	合計	差引不足數
大正						
二年	一四、四〇〇	九三〇	七五五	三〇〇	一、〇五五	一、三三七
三年	一四、六〇〇	一、〇〇〇	七八七	一八六	一、〇七三	一、四九七
四年	一五、一〇〇	一、〇〇〇	八一九	一八二	一、一〇一	一、四四九
五年	一五、六〇〇	一、〇〇〇	八五一	一七五	一、一二六	一、四〇四
六年	一六、一〇〇	一、〇〇〇	八八三	一六七	一、一五〇	一、二八〇
七年	一六、六〇〇	一、〇〇〇	九一五	一五六	一、一七一	一、二八九
八年	一七、一〇〇	一、〇〇〇	九四七	一四五	一、一九二	一、二九七
九年	一七、七〇〇	一、〇〇〇	九七九	一四八	一二、一七	一、三六二
十年	一八、三〇〇	一、〇〇〇	一〇一〇	一四〇	一、二五〇	一、四一六
十一年	一八、九〇〇	一、〇〇〇	一〇四二	一三二	一、三三四	一、四七〇
十二年	一九、五〇〇	一、〇〇〇	一〇七五	一二七	一、四二四	一、五二四
十三年	二〇、一〇〇	一、〇〇〇	一一〇七	一二七	一、四九一	一、五七九
十四年	二〇、七〇〇	一、〇〇〇	一一三九	一二七	一、五五八	一、六三三
十五年	二一、三〇〇	一、〇〇〇	一二七一	一二七	一、六二五	一、六八八
十六年	二一、九〇〇	一、〇〇〇	一二五九	一二七	一、六九二	一、七四三
十七年	二二、五〇〇	一、〇〇〇	一三〇一	一二七	一、七五九	一、八〇〇
十八年	二三、一〇〇	一、〇〇〇	一三四三	一二七	一、八二六	一、八五九
十九年	二三、七〇〇	一、〇〇〇	一三八五	一二七	一、八九三	一九一八
二十年	二四、三〇〇	一、〇〇〇	一四二七	一二七	一九六〇	一九七七
二十一年	二四、九〇〇	一、〇〇〇	一四六九	一二七	二〇二七	二〇四四

備考

一、國有種牡馬ノ總數ハ詳記シ難キモ假リニ三百頭ヲ最大數ト見做シ大正十四年迄ニ其數ニ達スルモノト假定シテ年々ノ増加數ハ適宜之ヲ按排セリ(七頭一年、十頭二年、二十頭三年、五頭二年、十頭一年、三十頭二年、五十頭一年増加ノ假定)

而シテ最大數三百頭ト假定セル理由ハ全國ノ馬數百五十萬頭ニ對シ馬政局ハ將來千五百頭ノ國有種牡馬準備ノ計畫ナルヲ以テ本道ハ三十萬頭ニ對シ將來三百頭迄増加スルモノトモ現任ノ如キ種馬所一ヶ所ノミニテハ假令種馬牧場二ヶ所アルモ三百頭ノ増加ハ多少ノ疑ナキニアラス

一、民有種牡馬増加率ハ明治三十四年ヨリ大正二年迄十三ヶ年間ノ平均三十二頭ヲ標準トシテ計算セリ最モ此増加率ハ種々ノ計數ニテ算出シ得ヘキモ今後民有馬ノ増加ハ至難ノ事情アルヲ以テ最少數ノ増加率ヲ標準トセリ

參考

自三十二年至大正三年十六年間ノ總檢査數ニヨル平均増加率 四 十 頭

自三十二年至大正二年十五年間ノ民有種牡馬増加率 三十七 頭

自三十四年至大正元年十二年間ノ民有種牡馬増加率 三十三 頭

自三十四年至大正二年十三年間ノ民有種牡馬増加率 三十二 頭

一、民有種牡馬中ノ無證馬即チ通稱「マキウマ」ハ大正元年三百頭ノ豫想ナルヲ以テ今後十六歳以上ノ老齡馬ヲ淘汰スルモノトシテ大正十五年迄遞減ノ計算ナリ然レトモ若シ大正五年ヨリ去勢法ノ實施トナリ隨テ種牡馬檢査法勵行セラル、ニ於テハ更ニ遞減ヲ早ムヘキハ見易キ理ニシテ延テ種牡馬多數ノ不足ヲ來スコトモ亦爭フヘカラサル事實ナリ要スルニ現在此無證種牡馬三百頭ヲ默認スルカ故ニ著シキ不足ヲ來サ、ル實況ナリトス

年齡ニヨリ遞減率ハ左ノ如シ(大正二年九百七十七頭ノ調査ニヨル)

十六歳以上	四、六%	十	五	歳	一、四%	十	四	歳	二、五%
十	二、六%	十	二	歳	三、五%	十	一	歳	三、七%
七	五、六%	九	七	歳	七、二%	八	八	歳	八、八%
四	一〇、四%	六	一〇	歳	一〇、八%	五	八	歳	八、八%
七	一〇、四%	六	一〇	歳	一〇、八%	五	八	歳	八、八%
四	一四、八%	三	一	歳	一一、五%	五	八	歳	一一、六%

自大正二年至大正廿一年二十ヶ年間種牡馬補充計畫表 (其二)

年次	種牡馬不足數	種畜場現在貸付馬	各年供給馬數	供給種牡馬累計合數	計	差引過不足數
大正						
二	二二七	二二二	五〇	二五	二二七	
三	二四九	二二二	五〇	三〇	二四九	
四	二六四	二二二	五〇	三五	二六四	
五	二八〇	二二二	五〇	四〇	二八〇	
六	二八九	二二二	五〇	四五	二八九	
七	二九七	二二二	五〇	五〇	二九七	
八	三〇二	二二二	五〇	五五	三〇二	
九	三〇六	二二二	五〇	六〇	三〇六	
十	三一五	二二二	五〇	六五	三一五	
十一	三二七	二二二	五〇	七〇	三二七	
十二	三三六	二二二	五〇	七五	三三六	
十三	三四二	二二二	五〇	八〇	三四二	
十四	三四五	二二二	五〇	八五	三四五	
十五	三四〇	二二二	五〇	九〇	三四〇	
十六	三四〇	二二二	五〇	九五	三四〇	
十七	三四〇	二二二	五〇	一〇〇	三四〇	
十八	三四〇	二二二	五〇	一〇五	三四〇	
十九	三四〇	二二二	五〇	一一〇	三四〇	
二十	三四〇	二二二	五〇	一一五	三四〇	
二十一	三四〇	二二二	五〇	一二〇	三四〇	
二十二	三四〇	二二二	五〇	一二五	三四〇	

備考

一、大正二年現在貸付ノ種牡馬ハ二百二十二頭ナルモ左ノ年齢別ニヨリ十六歳以上ハ使用セサルモノトセハ大正十五年迄遞減皆無トナルノ理ナリ

三	三四頭	四	歳	五	三頭	四	七頭
六	二三頭	七	歳	八	八頭	一	五頭
九	一二頭	十	歳	十一	一頭	五	頭
十二	二頭	十三	歳	計	一二二頭	二	二二頭

北海道種畜場

一、將來貸付馬ハ大正八年迄ハ現在ノ計畫ニ基キ一ヶ年十五頭ノ貸付ニテ大ナル過不足ヲ見サルモ大正九年ヨリハ著シキ不足ヲ見ルヲ以テ一ヶ年五十頭宛貸付スルモ尙本表ノ如キ不足數ヲ來ス是レ現在貸付馬ノ二百二十二頭及無證「マキウマ」ノ三百頭ハ孰レモ遞減スルカ故ニ此ノ如キ不足數ヲ來スモノナリ此時ニ當リ民有種牡馬増加ノ困難ナル事情アルニ於テハ一層此不足數ヲ來スヘク此補充ハ國有馬ニ仰ク能ハサル以上飽迄モ北海道應貸付馬ニ依ルノ外ナキハ敢テ贅言ヲ要セサルヘシ

一、將來貸付馬ノ累計ニ於テモ十六歳以上ハ使用セサルトシテ計算セリ（但シ貸付馬欠損數ハ別ニ計上セサルモ從來ノ成績ニヨレハ廢斃馬比較的少ナク一乃至二%位ノモノナルヲ以テ本表ノ概數ニハ之ヲ除算セス」

育馬ニ關スル收支豫算調

大正	種牡馬拂下及貸付料種牡馬以外拂下料	收入		支出		差引剩餘金
		計	小部	計	費	
五	二一七三	二一七三	二一七三	一四三三	八六八八	五六四六
六	一一三〇	一一三〇	一一三〇	一四八七	九四九九	五三七七
七	一三〇五	一三〇五	一三〇五	一九八六	一三三九九	六五〇七
八	一一三九	一一三九	一一三九	一七〇七	一五〇四	七一八三
九	一八一三	一八一三	一八一三	一六四〇	一五〇四	一一四一
十	一一三七	一一三七	一一三七	一〇六七	一五〇四	一五六四
十一	一五二五	一五二五	一五二五	三〇六七	一五〇四	一八四三
十二	一七二五	一七二五	一七二五	三三五六	一五〇四	二〇五五
十三	二〇二七	二〇二七	二〇二七	三五五九	一五〇四	二二七三
十四	二八二七	二八二七	二八二七	三八七七	一五〇四	二二七六
十五	二八九八	二八九八	二八九八	三七〇〇	一五〇四	二二七六
十六	二八九八	二八九八	二八九八	三七〇〇	一五〇四	二二七六
十七	二八九八	二八九八	二八九八	三七〇〇	一五〇四	二二七六
十八	二八九八	二八九八	二八九八	三七〇〇	一五〇四	二二七六
十九	二八九八	二八九八	二八九八	三七〇〇	一五〇四	二二七六
二十	二八九八	二八九八	二八九八	三七〇〇	一五〇四	二二七六
二十一	二八九八	二八九八	二八九八	三七〇〇	一五〇四	二二七六
計						

備考 飼育費ハ圓位未満四捨五入セリ

飼育費調

年次	當	二	三	四歳以上牝	四歳以上牡	購買種牡馬	計
大正五年	三三七八〇	九四一六五	二八九二	一五五六三	一六五四七	九四一六五	八六八八〇
六年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	九四九八七
七年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
八年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
九年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
十年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
十一年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
十二年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
十三年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
十四年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
十五年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
十六年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
十七年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
十八年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
十九年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
二十年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
廿一年	二二六八〇	二二五六九	二二二	一五五六三	一五八三四	一三三五四	一三三五四
計							

備考

一、大正九年五十頭ノ貸付補充ニ當リ二十五頭ハ生産、他ノ二十五頭ハ二歳購買、三歳貸付ノ豫定ニ付購買馬ノ飼育費ハ一ヶ年タケ計上セリ但シ購買ハ大正七年ヨリ開始ノ豫定トス

一、右二十五頭ノ生産ヲ計ルタメニハ大正五年ヨリ適齡牝馬百頭繫留ノ要アリ其頭數ニ基キ計算セリ

種牡馬貸付料及拂下料調

年次	舊法ニヨル拂下種牡馬		新法ニヨル拂下種牡馬		舊法ニヨル貸付種牡馬		合計収入金額
	頭數	價額	頭數	價額	頭數	價額	
大正五年	27	5643	15	1450	19	4680	11,730
同六年	25	5225	15	2900	17	4080	11,100
同七年	25	5225	15	4350	15	3480	13,050
同八年	25	5225	15	5800	20	3880	13,905
同九年	25	5225	15	10630	22	2880	13,905
同十年	25	5225	15	1846	22	2880	13,905
同十一年	25	5225	15	1546	22	2880	13,905
同十二年	25	5225	15	1849	22	2880	13,905
同十三年	25	5225	15	2143	22	2880	13,905
同十四年	25	5225	15	2565	22	2880	13,905
同十五年	25	5225	15	2898	22	2880	13,905
同十六年	25	5225	15	2898	22	2880	13,905
同十七年	25	5225	15	2898	22	2880	13,905
同十八年	25	5225	15	2898	22	2880	13,905
同十九年	25	5225	15	2898	22	2880	13,905
同二十年	25	5225	15	2898	22	2880	13,905
同二十一年	25	5225	15	2898	22	2880	13,905

備考

舊法拂下種牡馬ハ過去四ヶ年平均率二〇九圓ニヨリ新法拂下ハ四歳牡馬生産費五八〇圓トシ其六ノ分一宛收入スルモノト計上ス舊法貸付種牡馬料金ハ貸付種牡馬ノ評價額八〇〇圓ニ對シ百分ノ三ヲ徵收スルモノトス舊法ニヨル拂下種牡馬數ハ二百二十二頭ニシテ初年ハ二十七頭次年ヨリ二十五頭宛平均ニ拂下ケントス

馬匹飼育費調査表

年次	飼育費	計
四歳以上ノ種牡馬	74	1,583.04
四歳以上ノ蕃殖牝馬	6	1,337.90

馬匹拂下價格表

年次	頭數	一頭ノ價格	計
三歳馬	2	289.2	2,497.34
二歳馬	4	941.65	2,159.96
當計	6	337.80	2,260.80

年次	頭數	一頭ノ價格	計
四歳以上ノ種牡馬	1	2,097.9	2,097.90
四歳以上ノ種牝馬	6	2,712.00	16,272.00
三歳馬	1	2,804.58	2,804.58
二歳馬	2	2,750.00	5,500.00
計	10	2,658.70	26,587.00

右表ハ最近三ヶ年ノ調査ニシテ其最高最低及平均價格ヲ示セハ左ノ如シ

年次	頭數	平均價格	最高	最低
二歳(想定價格)牝	2	2,658.70	5,100	900
三歳牝	2	2,804.58	3,900	600
四歳以上牝	4	2,750.00	5,500	480

種牡馬以外馬匹拂下調

年次	頭數	價額	頭數	價額	頭數	價額	頭數	價額	總價額
二歳	2	5,100	3	15,300	4	20,400	9	45,900	45,900
三歳	2	5,600	2	11,200	2	11,200	6	33,600	33,600
四歳以上	4	20,400	2	10,200	2	10,200	8	40,800	40,800